

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項																																																																																																																																																																																	
<p>芽室町総合体育館 改修工事 工事特記仕様書</p> <p>I 工事概要及び範囲</p> <p>1. 工事場所 北海道芽室町東2条南8丁目1番地</p> <p>2. 工事範囲 ※下記●は、工事対象範囲を示す。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>構造種別</th> <th>数量 (延べ面積)</th> <th>単位</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>● 総合体育館</td> <td>鉄骨・鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造2階建て</td> <td>4266.98</td> <td>m²</td> <td>用途：複合用途防火対象物(16) 項イ</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 建設工事に係る資材の再資源化に関する法律の対象の有無 ○有り○無し</p> <p>4. 指定部分工事 (1) 工事範囲 Aエリア (2) 指定工期 契約日より 令和 年 月 日 まで</p> <p>5. 別途工事</p> <p>6. 施工区分 ※下記●は、工事対象範囲を示す。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="4">工種</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>建築</th> <th>電気</th> <th>冷暖房</th> <th>衛生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>躯体の設備配管用のクランプ、箱抜き等及びケーブル等の充填</td> <td>○</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>上記の補強</td> <td>●</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設備機器用天井、壁、床下地の開口及び開口補強</td> <td>●</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>埋込電灯、2ピッチ、7ヶ等</td> </tr> <tr> <td>設備機器用天井、壁、床仕上げの切込</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設備用天井、床点検口</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>防火戸用煙感知器、自動閉鎖装置</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設備機器用基礎</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>鋼製架台は設備工事</td> </tr> <tr> <td>ルーフレイン排水金物</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>換気扇等取付枠</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>外壁面入給排気ガラリ及び防風板</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>図示による</td> </tr> </tbody> </table> <p>II 各工事</p> <p>1. 図面(工事数量総括表を含む)及び、この特記仕様書に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁庁舎補修部「公共建築工事標準仕様書 最新版(各工種)」、「公共建築改修工事標準仕様書 最新版(各工種)」、「建築物解体工事共通仕様書 最新版」による。</p> <p>2. 特記事項の適用については次にによる。 イ. 章は○印を、項目は△印を塗りつぶしたものを適用する。 ロ. 特記事項は○印を塗りつぶしたものを適用し、塗りつぶさない場合は*印をつけたものを適用する。 ハ. 特記事項で○印を塗りつぶしたものと△印のつけたものがある場合は、共に適用する。 ニ. 特記事項に記載の()内表示番号は、標準仕様書の該当項目、該当図又は該当表を示す。</p> <p>3. この特記仕様書に施工部位の記載のないものは図面によるものとする。</p> <p>4. 本工事における工事監理業務委託の有無 *無し●有り</p> <p>5. 次の場合において、発注者が必要と認める場合は、設計変更する。ただし、概数の確定による変更は除く。 (1) 設計図書間に不一致等がある場合 ア. 設計図書と記載されている内容が数量総括表等と一致しない、又は脱漏している場合等 イ. 設計図書と現場の状態と不一致等がある場合 ウ. 設計図書により示した条件と現場の状態が一致しないことにより施工方法・範囲の変更を必要とする場合等 エ. 設計図書のとおり施工することにより施設利用者又は使用者の利便性、安全性を損ねることが判明した場合等 オ. 発注者からの提案に基づく施工方法が設計図書のとおり施工することより経済性、工法的に合法性があると判明した場合等</p> <p>(2) 関係機関等との協議結果による工法変更及び仮設工事等がある場合 なお、水空間等の仮設工事において施工条件に変更が生じた場合や受注者からの提案がより経済性や工法的な合理性に優れていると認められる場合は、原則として設計変更の対象とする</p> <p>6. 受注者の努力等により工事前に工事が完成し完成検査を受けた場合は、共通仮設費等の減額分の合計額が工事費の1/10を超える場合は、発注者と受注者が協議し工事請負額を減額できることとする。</p> <p>7. 工事に係る留意事項及び施工条件は、次のとおりとする。</p> <p>※工事は下記による</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">A. 【Aエリア】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第二アリーナ冷暖房設備新設工事</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>シャワー室換気設備改修工事</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>事務室冷暖房設備新設工事</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>自動制御設備工事</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">B. 【Bエリア】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>キッズスペース・会議室改修工事</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>自動制御設備工事</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>受水槽FMバルブ修繕工事</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>揚水ポンプ更新工事</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 令和6年度</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>3-1</td> <td>第一アリーナ暖房設備改修工事</td> </tr> <tr> <td>3-2</td> <td>ギャラリ暖房設備新設工事</td> </tr> </tbody> </table> <p>※研修室冷暖房設備新設工事(将来工事)</p>			名称	構造種別	数量 (延べ面積)	単位	備考	● 総合体育館	鉄骨・鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造2階建て	4266.98	m ²	用途：複合用途防火対象物(16) 項イ	○					○					○					項目	工種				備考	建築	電気	冷暖房	衛生	躯体の設備配管用のクランプ、箱抜き等及びケーブル等の充填	○	●	●	●		上記の補強	●	○	○	○		設備機器用天井、壁、床下地の開口及び開口補強	●	○	○	○	埋込電灯、2ピッチ、7ヶ等	設備機器用天井、壁、床仕上げの切込	○	○	○	○		設備用天井、床点検口	○	○	○	○		防火戸用煙感知器、自動閉鎖装置	○	○	○	○		設備機器用基礎	○	○	○	○	鋼製架台は設備工事	ルーフレイン排水金物	○	○	○	○		換気扇等取付枠	○	○	○	○		外壁面入給排気ガラリ及び防風板	○	○	○	○	図示による	A. 【Aエリア】		1	第二アリーナ冷暖房設備新設工事	2	シャワー室換気設備改修工事	3	事務室冷暖房設備新設工事	4	自動制御設備工事	B. 【Bエリア】		5	キッズスペース・会議室改修工事	6	自動制御設備工事	7	受水槽FMバルブ修繕工事	8	揚水ポンプ更新工事	3-1	第一アリーナ暖房設備改修工事	3-2	ギャラリ暖房設備新設工事	<p>▶1. 道産材等の優先使用 本工事に使用する主要資材は、道産資材及び北海道認定リサイクル製品を使用するよう努めること。(木材及び木材製品は除く。)</p> <p>▶2. 環境物品等の調達 本工事の資材等に係る環境物品等の調達は、北海道グリーン購入基本方針に基づく平成23年度環境物品等調達方針により行うよう努める。 同調達方針の公共工事の配慮事項「資材の梱包及び容器は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷軽減に配慮されていること。」に留意すること。</p> <p>▶3. 地域材の優先使用 本工事に使用する木材または木材を原料とする資材を使用する場合は、地域材を優先的に使用することとし、使用した材料の種類、産地等を監督員に報告すること。 地域材とは、道内の森林で産出され、道内で加工された木材をいう。 木材又は、木材を原料とする資材を使用する場合は、間伐材や合法性の証明された材を使用すること。 また、木材の合法性の証明は、「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのライドライン」(平成19年2月林野庁)に準拠し、資材納入業者から証明を受けるとともに、証明書類を工事完了年度から起算して5年間保存すること。</p> <p>▶4. 合法木材の使用 設計図書等に指定されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法とする。</p> <p>▶5. 特別な材料の工法 建築基準法に定められた区分等 ・風速 (V = $\frac{m}{s}$) ・垂直積雪量 ($\frac{cm}{cm}$)</p> <p>▶6. 品質計画</p> <p>▶7. 工事写真 工程写真及び完成写真は、北海道建設部監修管轄工事記録写真撮影要領による。</p> <p>▶8. 技能士 (1) 技能士の適用は次の職種とし、従事する技能士の氏名、職種及び資格を記載した書面により監督職員に報告する。 ただし、作業の軽微なものは、監督職員との協議により省略することができる。 ＜職種＞ 型枠施工・鉄筋施工・防水施工・内装仕上施工・サッシ施工・ガラス施工・塗装・塗装・建築板金・スレート施工・石材施工・建築大工・とび・左官・ブロック建築タイル張・ALCパネル施工・カーテンウォール施工・造園・樹脂接着剤注入施工・コンクリート圧送施工・れんが積み施工・冷凍空調調和機施工・建築配管・熱絶縁施工・建築板金(タクト板金)</p> <p>(2) 技能士は、職業能力開発促進法による1級、2級若しくは単一単級の資格を有し、地域技能士会の発行する資格証明書又は、技能検定合格書の写し又は、技能士手帳の写しを上記(1)の書面に添付する。</p> <p>(3) 技能士は、適用する工事作業中、1名以上の者が自ら作業するとともに、他の技能者に対して、施工品質の向上を図るための作業指導を行う。 受注者は、標準仕様書に定められた安全確保及び環境保全等のほか、特に次の事項に留意し、工事現場の事故防止に努める。 (1) 労働者の安全衛生教育の徹底を行う。 (2) 工事現場の安全パトロールの励行を行う。 (3) 建設機械器具などの危害防止処置の徹底を行う。 (4) 第三者に災害を及ぼしてはならない。 (5) 公害防止に努める。 (6) 善良な管理者の注意をもってしても、災害又は公害の発生のある場合の処置は、監督職員と協議する。</p> <p>▶9. 施工中の安全確保及び環境保全</p> <p>▶10. 交通安全管理 受注者は、工事の施工中の交通事故防止のため交通安全管理に努め、次の事項を遵守する。 (1) 着工するに当たり、出来るだけ速やかに工事の施工中の交通安全管理計画を策定し監督職員に提出する。 なお、計画の策定は資材搬入運行路線・点検体制・その他車両運行に係る安全対策等について連絡管理者及び管轄警察署等と十分な事前協議を行い、以後も常に連絡を密によりながら適切な処置を講じるものとする。 (2) 常に下請人員も含め工事現場中の交通安全管理状況の把握に努め、管理状況を適宜監督職員に報告する。 (3) 工事に関連して交通事故が発生したときは速やかに監督職員に報告する。 (4) 運送には、適法業者を選定するなどして、過積載又は過労運転等に伴う交通事故防止に努める。 (5) 建設機械(ブダ・ダンプ・バク等)は、排出ガス対策型を使用し、かつ、低騒音型の車両を使用すること。</p> <p>▶11. 工事完成時の提出図書等 工事完成時の提出図書等は、次により監督職員に提出する。 (1) 完成図書 完成原因の隔面複写図を製本したもの 1部 完成図の第2原因A3版(50%縮小) 1部 完成第2原因A3版の隔面複写図を製本したもの 3部 設計原因の貸与 *有り○無し CADデータの貸与 *有り○無し ※CADデータの貸与有りの場合 *完成図CADデータ及びPDFデータ CD-Rによる。 (2) 保全に関する資料(提出部数 *1部○部) (3) その他、必要とする書類については、監督職員の指示による。</p> <p>▶12. 高度技術・創意工夫 受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や技術力に関する事項について工事完了時までに所定の様式により提出することができる。</p> <p>▶13. 電力基本料金 本受電から引渡しまでの電力基本料金 ● 本工事 ○ 別途</p> <p>▶14. 発生材の処理等 発生材の処理等は次により、「建設工事に係る資材の再資源化に関する法律」(以下「建設リサイクル法」という。、「資源の有効な利用の促進に関する法律」(以下「リサイクル法」という。、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等の関係法令及び「建設副産物適正処理推進要綱」)に従い適切に処理する。 なお、下記の内容を変更する場合は、別途、監督職員と協議をする。 (1) 引き渡しを要する範囲は次により、監督職員の指示する方法及び位置に堆積、整理し所定の発生材報告書により監督職員に報告する。 引き渡しを要する範囲 _____ (2) 受注者が処分する有価物の範囲は次による。 有価物の範囲： _____ なお、有価物は、次の登録又は許可業者で処分すること。 ① 廃棄物再生事業者登録(知事登録) ② 金属くず商許可業者(警察許可) また、搬出を行った場合は、受入伝票又はマニフェスト伝票等、及び許可書等の写しを監督職員に提出すること。 (3) 特別管理型産業廃棄物 種類： _____ 受入先： _____ (km) 処理方法： _____ 住所： _____ 種類： _____ 受入先： _____ (km) 処理方法： _____ 住所： _____ 種類： _____ 受入先： _____ (km) 処理方法： _____ 住所： _____ (4) 再資源化を図るもの(特定建設資材廃棄物) コンクリート塊 受入先： _____ (km) 住所： _____ アスファルト・コンクリート塊 受入先： _____ (km) 住所： _____ 建設発生木材 受入先： _____ (km) 住所： _____</p>	<p>※ 設計上、特定建設資材廃棄物は発生しない場合 発注者 の都合により実際に特定建設資材を発生させ、廃棄物として処分する場合は、当該特定建設資材廃棄物の再資源化等実施方法の確定後、工事監督員の確認を受けること。</p> <p>(5) 再資源化を図るもの(特定建設資材廃棄物以外)</p> <p>種類： _____ 受入先： _____ (km) 住所： _____ 種類： _____ 受入先： _____ (km) 住所： _____ 種類： _____ 受入先： _____ (km) 住所： _____ 種類： _____ 受入先： _____ (km) 住所： _____</p> <p>(6) その他の発生材 種類： _____ 受入先： _____ (km) 住所： _____ 種類： _____ 受入先： _____ (km) 住所： _____ 種類： _____ 受入先： _____ (km) 住所： _____ 種類： _____ 受入先： _____ (km) 住所： _____ 種類： _____ 受入先： _____ (km) 住所： _____ 種類： _____ 受入先： _____ (km) 住所： _____ 種類： _____ 受入先： _____ (km) 住所： _____ 種類： _____ 受入先： _____ (km) 住所： _____ 種類： _____ 受入先： _____ (km) 住所： _____</p> <p>(7) 建設廃棄物の収集・運搬は、産業廃棄物収集運搬業の許可を受けた者とする。 当該運搬車は、次に掲げる表示を行い、建設省令で定める書面を備え付けること。 産業廃棄物収集運搬車 業者名 () () () () () 許可番号 x x x x x x</p> <p>(8) 「建設リサイクル法」対象工事及び「リサイクル法」で定められた次の資材の搬入、副産物の搬出がある工事は、工事着手時に再生資源利用・利用促進計画書を提出し、また、工事完了時に再生資源利用・利用促進実施書を提出すること。 リサイクル法で定められた一定規模以上の工事(次表の一つでも該当するもの)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>再生資源利用計画書</th> <th>再生資源利用促進計画書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>次のような建築資材を搬入する工事</td> <td>次のような指定副産物を搬出する建設工事</td> </tr> <tr> <td>1. 土砂……………1, 000m³以上</td> <td>1. 土砂……………1, 000m³以上</td> </tr> <tr> <td>2. 砕石……………500t以上</td> <td>2. コンクリート塊……………合計</td> </tr> <tr> <td>3. 加熱70℃以上混合土……………200t以上</td> <td>コンクリート塊……………合計</td> </tr> <tr> <td></td> <td>建設発生木材……………200t以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>本工事で発生する産業廃棄物が、道内の最終処分場に直接搬入される場合、又は中間処理場に搬入される場合でも残さ等が発生し、最終処分場に搬出される場合は、循環税が課税されるので適正に処理する。</p> <p>自主施工期間中は、低温湿施工により品質管理上支障の起こす恐れのない工種は、これを積極的に活用できる。 ただし、支障の起こす恐れのある次の工種は、工法等を監督職員と十分協議の上、施工するものとする。 コンクリート・屋外防水・屋上防水・タイル・左官・塗装・緑化工事その他これに類する工事</p> <p>工事施工に際しては、職業安定機関と密接な連携を図り、季節労働者などの雇用の拡大に努める。</p> <p>下請人員等への支払いの適正化 下請人員及び資材業者に対する支払いは現金払いとし、やむを得ず手形払いとする時は、当該手形期間を短く(90日以内)するよう努める。</p> <p>工事着手から完成引渡までの間を契約金額に相当する保険等に加入するものとする。 魅力ある建設工事を推進するため、工事現場の環境改善に努める。</p> <p>工事現場には「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場」の標識を掲示する。 受注者は、着工後速やかに公表の見やすい場所に工事標識を掲示する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">工事標識</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工事名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>発注者</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工事期間</td> <td>令和 年 月 日～令和 年 月 日</td> </tr> <tr> <td>受注者</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計者</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工事監督者</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工事現場連絡所</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>建設業法に基づく施工体制台帳を作成し、施工管理体制に関する事項を監督職員に提出しなければならない。(対象工事：工事1件の員貸代金額が200万円以上の工事)</p>	再生資源利用計画書	再生資源利用促進計画書	次のような建築資材を搬入する工事	次のような指定副産物を搬出する建設工事	1. 土砂……………1, 000m ³ 以上	1. 土砂……………1, 000m ³ 以上	2. 砕石……………500t以上	2. コンクリート塊……………合計	3. 加熱70℃以上混合土……………200t以上	コンクリート塊……………合計		建設発生木材……………200t以上	工事標識		工事名		発注者		工事期間	令和 年 月 日～令和 年 月 日	受注者		設計者		工事監督者		工事現場連絡所		<p>▶24. 室内空気中化学物質の濃度抑制</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>測定対象化学物質</th> <th>厚生労働省の指針値(25℃の場合)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ホルムアルデヒド</td> <td>0.08ppm (100μg/m³)</td> </tr> <tr> <td>トルエン</td> <td>0.07ppm (260μg/m³)</td> </tr> <tr> <td>キシレン</td> <td>0.20ppm (870μg/m³)</td> </tr> <tr> <td>エチルベンゼン</td> <td>0.88ppm (3,800μg/m³)</td> </tr> <tr> <td>スチレン</td> <td>0.05ppm (220μg/m³)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1) 濃度測定 ● 行う ○ 行わない 測定箇所 (5)箇所 ※測定する位置は、協議による。 測定回数 *1回○2回 (建築工事) 測定時期 ※測定を行う時期は、監督職員の指示による。 測定方式 拡散法(パッシブ方式)または厚生労働省が示す標準的な測定方法(アクティブ方式)により実施する。 測定方法 厚生労働省の示している測定方法による。 測定時の平均室温が20度(以下)に満たない場合は、厚生労働省が示す温度、湿度による濃度補正(ホルムアルデヒド)を行うこととして示す式により、濃度の補正を行い確認すること。 なお、学校施設においては、測定時の室温の設定について監督職員の指示による。</p> <p>(2) 建築材料等の留意点 本工事に使用する化学物質を含有する建築材料等(※1)は、測定対象化学物質を含有していないものを基本とするほか、次の1)から3)を満たすものとする。 1) ホルムアルデヒド発散建築材料に指定されている材料は、JIS又はJASに定められたF☆☆☆☆を使用する。ただし、F☆☆☆☆の材料がない場合は監督職員と協議すること。 2) 接着剤は、フタル酸ジエチルおよびフタル酸ジエチルエチルケシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用している環境対応型(配慮型)のものとする。 3) 家具、建具類及び二次製品は、測定対象化学物質を含有しないか含有が極めて少ないものとする。 ※1 化学物質を含有する建築材料等 合板/木質系フローリング/構造用パネル/集材材/単板積層材/MDF/パーティクルボード/その他の木質建材/ユリア樹脂板/壁紙/保温材/緩衝材/断熱材/接着剤/塗料/仕上材料/表面処理用木材保存(防蟻・防蟻)剤</p> <p>(3) 換気の励行 施工時、施工後の通風、換気を十分に行い、室内に発生した化学物質等を室外に放出させること。</p> <p>(4) その他 改修・改築工事で工事期間中、工事関係者以外が施設を使用する場合、以下の点に留意すること。 1) 施設管理者が工事着手前に行うVOC測定 濃度測定 ○ 実施済み ○ 未実施 2) 工事期間中、当該施設利用者にシックハウス症候群が発生した場合は、施設管理者への使用材料の情報提供やVOC測定など原因究明に協力するとともに、必要な事後対応を行うこと。</p> <p>▶25. 中間検査の実施</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">本工事において、次の段階で中間検査を実施する。</th> </tr> <tr> <th>実施対象建物名称</th> <th>実施部位</th> <th>実施時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td>○基礎工事</td> <td>配筋完了時</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○階</td> <td>躯体完了時</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○階</td> <td>鉄骨建方完了時</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○階</td> <td>完了時</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○階</td> <td>完了時</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 上記のほか、発注者が中間検査の実施を必要と認めた場合は、別途文書により通知する。</p> <p>▶26. 暴力団員等による不当介入を受けた場合の対応</p> <p>(1) 受注者は、暴力団員等による不当介入又は工事(業務)妨害(以下「不当介入」という。)を受けた場合は、断固としてこれを拒否しなければならない。 また、不当介入があった時点で速やかに警察へ通報するとともに、捜査に必要な協力を行わなければならない。 (2) 受注者は、前記により警察へ通報を行った際には、速やかにその内容を監督職員に報告しなければならない。 (3) 受注者は、暴力団員等による不当介入を受けたことにより、工程に遅れが生じる等の被害が発生した場合は、監督職員と協議するものとする。</p>	測定対象化学物質	厚生労働省の指針値(25℃の場合)	ホルムアルデヒド	0.08ppm (100μg/m ³)	トルエン	0.07ppm (260μg/m ³)	キシレン	0.20ppm (870μg/m ³)	エチルベンゼン	0.88ppm (3,800μg/m ³)	スチレン	0.05ppm (220μg/m ³)	本工事において、次の段階で中間検査を実施する。			実施対象建物名称	実施部位	実施時期	○	○基礎工事	配筋完了時	○	○階	躯体完了時	○	○階	鉄骨建方完了時	○	○階	完了時	○	○階	完了時
名称	構造種別	数量 (延べ面積)	単位	備考																																																																																																																																																																																					
● 総合体育館	鉄骨・鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造2階建て	4266.98	m ²	用途：複合用途防火対象物(16) 項イ																																																																																																																																																																																					
○																																																																																																																																																																																									
○																																																																																																																																																																																									
○																																																																																																																																																																																									
項目	工種				備考																																																																																																																																																																																				
	建築	電気	冷暖房	衛生																																																																																																																																																																																					
躯体の設備配管用のクランプ、箱抜き等及びケーブル等の充填	○	●	●	●																																																																																																																																																																																					
上記の補強	●	○	○	○																																																																																																																																																																																					
設備機器用天井、壁、床下地の開口及び開口補強	●	○	○	○	埋込電灯、2ピッチ、7ヶ等																																																																																																																																																																																				
設備機器用天井、壁、床仕上げの切込	○	○	○	○																																																																																																																																																																																					
設備用天井、床点検口	○	○	○	○																																																																																																																																																																																					
防火戸用煙感知器、自動閉鎖装置	○	○	○	○																																																																																																																																																																																					
設備機器用基礎	○	○	○	○	鋼製架台は設備工事																																																																																																																																																																																				
ルーフレイン排水金物	○	○	○	○																																																																																																																																																																																					
換気扇等取付枠	○	○	○	○																																																																																																																																																																																					
外壁面入給排気ガラリ及び防風板	○	○	○	○	図示による																																																																																																																																																																																				
A. 【Aエリア】																																																																																																																																																																																									
1	第二アリーナ冷暖房設備新設工事																																																																																																																																																																																								
2	シャワー室換気設備改修工事																																																																																																																																																																																								
3	事務室冷暖房設備新設工事																																																																																																																																																																																								
4	自動制御設備工事																																																																																																																																																																																								
B. 【Bエリア】																																																																																																																																																																																									
5	キッズスペース・会議室改修工事																																																																																																																																																																																								
6	自動制御設備工事																																																																																																																																																																																								
7	受水槽FMバルブ修繕工事																																																																																																																																																																																								
8	揚水ポンプ更新工事																																																																																																																																																																																								
3-1	第一アリーナ暖房設備改修工事																																																																																																																																																																																								
3-2	ギャラリ暖房設備新設工事																																																																																																																																																																																								
再生資源利用計画書	再生資源利用促進計画書																																																																																																																																																																																								
次のような建築資材を搬入する工事	次のような指定副産物を搬出する建設工事																																																																																																																																																																																								
1. 土砂……………1, 000m ³ 以上	1. 土砂……………1, 000m ³ 以上																																																																																																																																																																																								
2. 砕石……………500t以上	2. コンクリート塊……………合計																																																																																																																																																																																								
3. 加熱70℃以上混合土……………200t以上	コンクリート塊……………合計																																																																																																																																																																																								
	建設発生木材……………200t以上																																																																																																																																																																																								
工事標識																																																																																																																																																																																									
工事名																																																																																																																																																																																									
発注者																																																																																																																																																																																									
工事期間	令和 年 月 日～令和 年 月 日																																																																																																																																																																																								
受注者																																																																																																																																																																																									
設計者																																																																																																																																																																																									
工事監督者																																																																																																																																																																																									
工事現場連絡所																																																																																																																																																																																									
測定対象化学物質	厚生労働省の指針値(25℃の場合)																																																																																																																																																																																								
ホルムアルデヒド	0.08ppm (100μg/m ³)																																																																																																																																																																																								
トルエン	0.07ppm (260μg/m ³)																																																																																																																																																																																								
キシレン	0.20ppm (870μg/m ³)																																																																																																																																																																																								
エチルベンゼン	0.88ppm (3,800μg/m ³)																																																																																																																																																																																								
スチレン	0.05ppm (220μg/m ³)																																																																																																																																																																																								
本工事において、次の段階で中間検査を実施する。																																																																																																																																																																																									
実施対象建物名称	実施部位	実施時期																																																																																																																																																																																							
○	○基礎工事	配筋完了時																																																																																																																																																																																							
○	○階	躯体完了時																																																																																																																																																																																							
○	○階	鉄骨建方完了時																																																																																																																																																																																							
○	○階	完了時																																																																																																																																																																																							
○	○階	完了時																																																																																																																																																																																							

代表となる設計者: 太田 豊 一級建築士 216909号 (意匠)	創造設計・アトリエバンク 設計共同企業体	設計年月日		工事名称	縮尺
その他の設計者: 菅沼 秀樹 一級建築士 294080号 (意匠)		2023. 3 .			
	代表者: (株) 創造設計舎	査 閲	校 正	担 当	図面名称
	管理建築士: 一級建築士登録第216909号 太田 豊				
					図 面 番 号
					M-101

章 項目	特 記 事 項	章 項目	特 記 事 項	章 項目	特 記 事 項	章 項目	特 記 事 項
● 工事概要	▶1. 工事種目	4) 冷暖装置	外 径 [6.35 9.52 12.70 ~ 50.80] 被覆厚 製造者仕様	▶1. 冷暖方式	方式 ● 全空気 ● 空気-水 ● 全水 ● 冷媒式 ○ 蒸気暖房 ● 温水暖房 ● 温風暖房 ● 電気式 熱源 ● 蒸気 ● 温水 ● 冷水 ● 冷水 ● 電気 ● ガス ● その他 () 国内機器表による 容量等の表示、機器能力、容量等 (電動機出力は除く) は、原則として表示された数値以上とする	○ 環境配慮	▶1. アスベストの処理工事 建材のアスベスト含有調査は、次による なお含有調査の結果、設計図書と異なる場合は、工事監督員と協議する ○ 含有調査: _____ 箇所 (調査部位: _____) ○ 含有調査済: 含有建材等は、図面による 分析方法は、JIS A1481「建材製品中のアスベスト含有率測定法」とする 処理の工法 ● 除去工事 (公共建築改修工事標準仕様書及び以下による) (9.1.1) 施工調査 ● 行う ○ 行わない (9.1.2 9.1.3) アスベスト粉じん濃度測定 ● 行う ○ 行わない (9.1.2) 1. 除去工事共通事項 (1) 作業主責任者 アスベスト含有建材の除去は、石綿作業主責任者技能講習又は、平成18年3月以前の特 定化学物質等作業主責任者技能講習を受けた者のうちから、アスベスト作業主責任者を選 任し、必要な管理を行わせる (2) 除去作業者 アスベスト含有建材の除去に従事する作業者 (以下「除去作業者」という) は、石綿障 害予防規則に基づく特別教育を受けた者とする また、除去作業者は、一般健康診断、石綿健康診断、じん肺健康診断を受診した者とし 、肺機能に異常がない者とする (3) 表示及び届出 施工範囲の出入口に、「アスベスト作業主責任者名と職務の内容、関係者以外立入禁止、 喫煙・飲食の禁止、アスベスト作業中等」の表示を行う また、アスベストの有害性、取扱いの注意事項、使用すべき保護員の指示を行う なお、指示の種類は、次による ① 吹き付け等届出対象の場合の指示 建築物等の解体等の作業に関するお知らせ 当現場では、() 労働基準監督署へ ○ 労働安全衛生法第88条第4項 (労働安全衛生規則第90条第5項の2) の規定による計画の届出 ○ 石綿障害予防規則第5条第1項の規定による作業の届出 を行っています 届出年月日 令和 年 月 日 作業期間 令和 年 月 日～ 届出内容 令和 年 月 日 (石綿のばく露防止対策及び石綿粉じんの飛散防止対策の内容) 令和 年 月 日 石綿のばく露防止措置及び石綿粉じんの飛散防止措置の概要: 令和 年 月 日 (表示日) (氏名) を石綿作業主責任者に選任しています 施工事業者名: 石綿に係る特別教育を受講した者が作業を行っています 現場責任者氏名: 受講した特別教育 ○ ○ の実施した講習 (平成 年 月 受講) 連絡先: また、北海道知事 () へ ○ 大気汚染防止法第18条第15項の規定による作業の届出を行っています 届出年月日 令和 年 月 日 届出先 令和 年 月 日 届出者住所 届出者氏名 ② 成形板等の届出の必要が無い場合の指示 建築物等の解体等の作業に関するお知らせ 石綿障害予防規則に基づき、当現場では適切な石綿のばく露防止対策及び石綿粉じんの 飛散防止対策を行っています 届出年月日 令和 年 月 日 作業期間 令和 年 月 日～ 届出内容 令和 年 月 日 石綿のばく露防止対策及び石綿粉じんの飛散防止対策の内容) 令和 年 月 日 石綿のばく露防止措置及び石綿粉じんの飛散防止措置の概要: 令和 年 月 日 (表示日) ○ ○ を石綿作業主責任者に選任しています 施工事業者名: 石綿に係る特別教育を受講した者が作業を行っています 現場責任者氏名: 受講した特別教育 ○ ○ の実施した講習 (平成 年 月 受講) 連絡先: ③ アスベスト含有建材を使っていない場合 建築物等の解体等の作業に関するお知らせ 石綿障害予防規則に基づく石綿の使用の有無の調査を行った結果、当現場では石綿を使用 していません 調査方法 令和 年 月 日 作業期間 令和 年 月 日～ (調査年月日) 令和 年 月 日 現場責任者氏名: 連絡先: (4) 保護員・保護衣 除去作業者は、作業内容に応じた呼吸用保護員、保護めがねを使用するとともに、アス ベストが附着しにくく、付着したアスベストが容易に除去できる作業衣又は、保護衣を着 用する (5) 除去したアスベスト等の保管及び運搬 除去したアスベスト含有建材を届出するまでの間、現場に保管する場合は、一定の保管 場所を定め、他の内装材と分別して保管するものとし、シートで覆う等、飛散防止措置を 講ずる また、保管場所には、アスベスト等の保管場所であることを表示を行う (6) 確認及び後片付け 除去作業が終了後、高性能真空掃除機で、床等を清掃する また、工事監督員の立命の上で、除去が十分行われていることを目視確認を受ける 2. アスベスト含有保護材等の除去等 (1) 処理を行う保護材、耐火被覆板及び断熱材の種類及び除去 種類: 除去: ○ 掻き落とし ○ 塗剥 ○ 切削 ○ 作業場の隔離 種類: 除去: ○ 掻き落とし ○ 塗剥 ○ 切削 ○ 作業場の隔離 3. アスベスト含有成形板等の除去等 (1) 処理を行う成形板の種類 種類: 除去: _____
	1) 配管材料	管 種 冷 給 施 工 区 分 水 水 ドレ 太陽 給 給 排 通 雨 ガ 水 水 ン 熱 水 水 水 水 水 ス ● 配管用炭素鋼管(白) ● 配管用炭素鋼管(黒) ○ ステンレス鋼管 ● 炭素鋼ワイヤレス管 (床暖房) ● 炭素鋼ワイヤレス管(断熱材付) ● ビニル管 (V.P.) ○ (V.U) 125A以上 ○ ポリエチレン管 ○ ガス用ポリ被覆鋼管 (PLS) ○ 耐火二層管 (V.P.) (ビッド以外) ○ 耐衝撃性硬質ポリ塩ビ管 (HIVP) ○ 耐熱硬質塩ビ管 (HTVP) ○ 油用ポリ被覆鋼管 (PLP)	1) ダクト イ. 方式 ● 低速 ● 高速 ● その他 () ロ. 工法 ● アングルフランジ ● コーナポルト (● 共板 ○ スライド) ● (差込) () ハ. 種別 ● スパイラルダクト () ● 鉄板 () ● ビニル管 () ● その他 ()	▶1. 排煙方式 方式 ○ 機械排煙 ○ その他 () ▶2. 排煙口 イ. 形状 ○ スリット形 ○ スイング形 ロ. 開放装置 ○ 手動 ○ 手動及び遠隔操作可能なもの ▶3. 防煙ダンパー イ. 復帰方式 ○ 遠隔式 ○ 手動式 ロ. 操作方式 ○ 電気 ○ その他 ()	▶1. 地下オイルタンク イ. 基礎杭 ○ 要 ○ 不要 ○ 本工事 ○ 別途工事 ロ. タンク室 ○ 要 ○ 鋼製強化プラスチック製二重設タンク ハ. 市販品 ○ 製作 (板厚 mm) 「危険物の規制に関する技術上の基準の細目を定める告示」によるほか所轄消防署が承認した もの 防油堤 ○ 本工事 ○ 別途工事 ▶2. 地上オイルタンク イ. 給油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ロ. 返油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ▶3. オイルサービスタ イ. 給油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ロ. 返油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ▶4. 遠隔式油量計 イ. 取得方法 ○ 専用 ● 油槽 ● その他 () ロ. 指示ユニット: 製造者標準型とし届出による ※ 地下オイルタンク、オイルサービスタは既存品使用 (総合設備機械室)		
2) 弁類	※該当項目に ● 印をつける、2列書きになっている部分は左側屋外配管、右側屋内配管とする 水道直圧及び高圧タンクまで10kgf/cm ² 、他は5kgf/cm ² とする	2) チャンパー等 イ. 外壁に面するガラリに直接取付けるチャンパー、ホッパーには排水を設ける ロ. シーリングディフューザーには下記の接続ボックスを設ける イ) ネット径200φ以下 : 400×400×250H ロ) φ 200φをこえるもの: 500×500×300H ハ. 接続出口には、下記の接続ボックスボックスを設ける イ) BL-S、BL-D : 200×(長さ+100)×300H ロ) BL-T、BL-K : 250×(長さ+100)×300H ニ. 天井付制気口には、特記なき場合 (制気口寸法+100)×250Hの接続ボックスを設ける	▶4. 地下外及び付着品 1) ダクト イ. 方式 ● 低速 ● 高速 ● その他 () ロ. 工法 ● アングルフランジ ● コーナポルト (● 共板 ○ スライド) ● (差込) () ハ. 種別 ● スパイラルダクト () ● 鉄板 () ● ビニル管 () ● その他 ()	▶1. 換気方式 方式 ● 換気扇 ● ダクト式機械換気 ● その他 (全熱交換器)	▶1. 地下オイルタンク イ. 基礎杭 ○ 要 ○ 不要 ○ 本工事 ○ 別途工事 ロ. タンク室 ○ 要 ○ 鋼製強化プラスチック製二重設タンク ハ. 市販品 ○ 製作 (板厚 mm) 「危険物の規制に関する技術上の基準の細目を定める告示」によるほか所轄消防署が承認した もの 防油堤 ○ 本工事 ○ 別途工事 ▶2. 地上オイルタンク イ. 給油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ロ. 返油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ▶3. オイルサービスタ イ. 給油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ロ. 返油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ▶4. 遠隔式油量計 イ. 取得方法 ○ 専用 ● 油槽 ● その他 () ロ. 指示ユニット: 製造者標準型とし届出による ※ 地下オイルタンク、オイルサービスタは既存品使用 (総合設備機械室)		
3) 試験	配管途中若しくは隠ぺい、埋戻し前又は配管完了後の塗装又は被覆施工前に行う 圧力値、保持時間は、標準仕様書第2編 2.9.9から2.9.5による 試験終了後、報告書を監督職員へ提出すること	3) 防音フード イ. 材質 ステンレス鋼板製 (● SUS430 ○ SUS304 ○ その他 ()) ロ. 板厚 (1.0) mm/m	▶5. 制御方式 ● 電気式 ○ 電子式 ○ デジタル式 ● 遠隔 ○ 温度 ○ その他 () ▶6. 計測範囲 ● 室内機器表による ▶7. 計測機器 標準仕様書 (第4編 第2章第4節及び第3章第2節) による	▶1. 換気方式 方式 ● 換気扇 ● ダクト式機械換気 ● その他 (全熱交換器)	▶1. 地下オイルタンク イ. 基礎杭 ○ 要 ○ 不要 ○ 本工事 ○ 別途工事 ロ. タンク室 ○ 要 ○ 鋼製強化プラスチック製二重設タンク ハ. 市販品 ○ 製作 (板厚 mm) 「危険物の規制に関する技術上の基準の細目を定める告示」によるほか所轄消防署が承認した もの 防油堤 ○ 本工事 ○ 別途工事 ▶2. 地上オイルタンク イ. 給油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ロ. 返油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ▶3. オイルサービスタ イ. 給油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ロ. 返油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ▶4. 遠隔式油量計 イ. 取得方法 ○ 専用 ● 油槽 ● その他 () ロ. 指示ユニット: 製造者標準型とし届出による ※ 地下オイルタンク、オイルサービスタは既存品使用 (総合設備機械室)		
4) ステンレス鋼 継手の種類	工 種 冷 給 施 工 区 分 種 類 水 水 ドレ 太陽 給 給 排 通 雨 ガ ○ 圧縮・プレス(ダブル) ○ 拡管式 ○ 溶接 ○ ハウジング継手	4) 換気フード イ. 材質 ステンレス鋼板製 (● SUS430 ○ SUS304 ○ その他 ()) ロ. 板厚 (1.0) mm/m	▶8. 低圧屋内配線 ● 電気式 ○ 電子式 ○ デジタル式 ● 遠隔 ○ 温度 ○ その他 () ▶9. 計測範囲 ● 室内機器表による ▶10. 計測機器 標準仕様書 (第4編 第2章第4節及び第3章第2節) による	▶1. 換気方式 方式 ● 換気扇 ● ダクト式機械換気 ● その他 (全熱交換器)	▶1. 地下オイルタンク イ. 基礎杭 ○ 要 ○ 不要 ○ 本工事 ○ 別途工事 ロ. タンク室 ○ 要 ○ 鋼製強化プラスチック製二重設タンク ハ. 市販品 ○ 製作 (板厚 mm) 「危険物の規制に関する技術上の基準の細目を定める告示」によるほか所轄消防署が承認した もの 防油堤 ○ 本工事 ○ 別途工事 ▶2. 地上オイルタンク イ. 給油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ロ. 返油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ▶3. オイルサービスタ イ. 給油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ロ. 返油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ▶4. 遠隔式油量計 イ. 取得方法 ○ 専用 ● 油槽 ● その他 () ロ. 指示ユニット: 製造者標準型とし届出による ※ 地下オイルタンク、オイルサービスタは既存品使用 (総合設備機械室)		
5) 埋設配管	防食処理 ○ 土中 ○ ベトロタム系防食テープ ○ フチルゴム系防食テープ () () ○ コンクリート内 ○ プラスチックテープ ()	5) セルフード 材質 ● ステンレス製 ○ アルミニウム製 ● その他 (色指定あり)	▶11. 制御方式 ● 電気式 ○ 電子式 ○ デジタル式 ● 遠隔 ○ 温度 ○ その他 () ▶12. 計測範囲 ● 室内機器表による ▶13. 計測機器 標準仕様書 (第4編 第2章第4節及び第3章第2節) による	▶1. 換気方式 方式 ● 換気扇 ● ダクト式機械換気 ● その他 (全熱交換器)	▶1. 地下オイルタンク イ. 基礎杭 ○ 要 ○ 不要 ○ 本工事 ○ 別途工事 ロ. タンク室 ○ 要 ○ 鋼製強化プラスチック製二重設タンク ハ. 市販品 ○ 製作 (板厚 mm) 「危険物の規制に関する技術上の基準の細目を定める告示」によるほか所轄消防署が承認した もの 防油堤 ○ 本工事 ○ 別途工事 ▶2. 地上オイルタンク イ. 給油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ロ. 返油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ▶3. オイルサービスタ イ. 給油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ロ. 返油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ▶4. 遠隔式油量計 イ. 取得方法 ○ 専用 ● 油槽 ● その他 () ロ. 指示ユニット: 製造者標準型とし届出による ※ 地下オイルタンク、オイルサービスタは既存品使用 (総合設備機械室)		
6) 配管洗浄	地中埋設機 埋設表示テープ・屋外配管埋設機 地中埋設機 埋設表示テープ 給水配管 ○ 要 ○ 不要 ○ 要 ○ 不要 GL-1200mm以上 GL-1000mm以上 GL-1000mm以上 ガス配管 ○ 要 ○ 不要 ○ 要 ○ 不要 GL-600mm以上 GL-300mm以上 GL-300mm以上 油配管 ○ 要 ○ 不要 ○ 要 ○ 不要 GL-600mm以上 GL-300mm以上 要の場合、地中埋設機は図示する箇所、埋設表示テープは屋外埋設配管部分に適用する	6) 風量測定口 取付箇所 1. 特記した風量調整ダンパーの上流又は下流 2. 送排風機、空調機に近接した風道の部分 3. 外気取入風道の部分 4. その他指定部分	▶14. 制御方式 ● 電気式 ○ 電子式 ○ デジタル式 ● 遠隔 ○ 温度 ○ その他 () ▶15. 計測範囲 ● 室内機器表による ▶16. 計測機器 標準仕様書 (第4編 第2章第4節及び第3章第2節) による	▶1. 換気方式 方式 ● 換気扇 ● ダクト式機械換気 ● その他 (全熱交換器)	▶1. 地下オイルタンク イ. 基礎杭 ○ 要 ○ 不要 ○ 本工事 ○ 別途工事 ロ. タンク室 ○ 要 ○ 鋼製強化プラスチック製二重設タンク ハ. 市販品 ○ 製作 (板厚 mm) 「危険物の規制に関する技術上の基準の細目を定める告示」によるほか所轄消防署が承認した もの 防油堤 ○ 本工事 ○ 別途工事 ▶2. 地上オイルタンク イ. 給油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ロ. 返油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ▶3. オイルサービスタ イ. 給油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ロ. 返油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ▶4. 遠隔式油量計 イ. 取得方法 ○ 専用 ● 油槽 ● その他 () ロ. 指示ユニット: 製造者標準型とし届出による ※ 地下オイルタンク、オイルサービスタは既存品使用 (総合設備機械室)		
▶2. 保温	1) 配管 断熱材は、特定フロン、代替フロン等、オゾン層を破壊する物質を含有していないこと 外壁より1.5m以内の通気管は保温を行う 保温材 ● グラスウール ○ ロックウール ○ ポリスチレンフォーム () () () 外装材 1) 屋内露出 ○ 合成樹脂カバー ○ カラー亜鉛鉄板 ○ アルミニウム板 ○ ステンレス鋼板 ○ アルミガラスクロス ○ その他 () 2) 機械室・倉庫 ○ アルミガラスクロス ○ 綿布 ● その他 (カラー電甲金網巻) ○ 合成樹脂カバー ● その他 (カラー電甲金網巻) ハ) 天井内・パイプシャフト内及び空調壁中 ○ アルミガラスクロス ● その他 (アルミ箔 + 電甲金網巻) ニ) 天井内・パイプシャフト内及び空調壁中 ○ アルミガラスクロス ● その他 (アルミ箔 + 電甲金網巻)	7) 吊り及び支持 紙製又は木材を使用し、外壁の地中部分等水密を要する部分はつば付鋼管を使用する	▶17. 制御方式 ● 電気式 ○ 電子式 ○ デジタル式 ● 遠隔 ○ 温度 ○ その他 () ▶18. 計測範囲 ● 室内機器表による ▶19. 計測機器 標準仕様書 (第4編 第2章第4節及び第3章第2節) による	▶1. 換気方式 方式 ● 換気扇 ● ダクト式機械換気 ● その他 (全熱交換器)	▶1. 地下オイルタンク イ. 基礎杭 ○ 要 ○ 不要 ○ 本工事 ○ 別途工事 ロ. タンク室 ○ 要 ○ 鋼製強化プラスチック製二重設タンク ハ. 市販品 ○ 製作 (板厚 mm) 「危険物の規制に関する技術上の基準の細目を定める告示」によるほか所轄消防署が承認した もの 防油堤 ○ 本工事 ○ 別途工事 ▶2. 地上オイルタンク イ. 給油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ロ. 返油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ▶3. オイルサービスタ イ. 給油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ロ. 返油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ▶4. 遠隔式油量計 イ. 取得方法 ○ 専用 ● 油槽 ● その他 () ロ. 指示ユニット: 製造者標準型とし届出による ※ 地下オイルタンク、オイルサービスタは既存品使用 (総合設備機械室)		
7) 共 通 事 項	2) ダクト 外気取入用ダクト及び外壁より1.5m以内の排気用ダクトは保温を行う 保温材 ● グラスウール ○ ロックウール ○ ポリスチレンフォーム ○ その他 () () () () 外装材 1) 屋内露出 ○ 合成樹脂カバー ○ カラー亜鉛鉄板 ○ アルミニウム板 ○ ステンレス鋼板 ○ アルミガラスクロス ○ その他 () 2) 機械室・倉庫 ○ アルミガラスクロス ○ 綿布 ● その他 (カラー電甲金網巻) ○ 合成樹脂カバー ● その他 (カラー電甲金網巻) ハ) 天井内・パイプシャフト内及び空調壁中 ○ アルミガラスクロス ● その他 (アルミ箔 + 電甲金網巻) ニ) 天井内・パイプシャフト内及び空調壁中 ○ アルミガラスクロス ● その他 (アルミ箔 + 電甲金網巻)	8) 耐震措置 「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」(日本建築センター発行)に基づき、 耐震施工を行う ● 特定の施設 ○ 一般の施設	▶20. 制御方式 ● 電気式 ○ 電子式 ○ デジタル式 ● 遠隔 ○ 温度 ○ その他 () ▶21. 計測範囲 ● 室内機器表による ▶22. 計測機器 標準仕様書 (第4編 第2章第4節及び第3章第2節) による	▶1. 換気方式 方式 ● 換気扇 ● ダクト式機械換気 ● その他 (全熱交換器)	▶1. 地下オイルタンク イ. 基礎杭 ○ 要 ○ 不要 ○ 本工事 ○ 別途工事 ロ. タンク室 ○ 要 ○ 鋼製強化プラスチック製二重設タンク ハ. 市販品 ○ 製作 (板厚 mm) 「危険物の規制に関する技術上の基準の細目を定める告示」によるほか所轄消防署が承認した もの 防油堤 ○ 本工事 ○ 別途工事 ▶2. 地上オイルタンク イ. 給油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ロ. 返油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ▶3. オイルサービスタ イ. 給油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ロ. 返油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ▶4. 遠隔式油量計 イ. 取得方法 ○ 専用 ● 油槽 ● その他 () ロ. 指示ユニット: 製造者標準型とし届出による ※ 地下オイルタンク、オイルサービスタは既存品使用 (総合設備機械室)		
8) 機 械 類	3) 機器類 ● 冷水水ヘッダー ○ 冷水水ヘッダー ○ 冷水水タンク ○ 冷水水タンク ○ 温水タンク ● 蒸気ヘッダー ○ 給水ヘッダー ○ 熱交換器 ○ 温水タンク ○ 膨張タンク 保温材 ● グラスウール ○ ロックウール ○ その他 () 外装材 ● カラー亜鉛鉄板 ○ アルミニウム板 ○ ステンレス鋼板 ○ その他 (カラー電甲金網巻)	9) 耐震措置 「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」(日本建築センター発行)に基づき、 耐震施工を行う ● 特定の施設 ○ 一般の施設	▶23. 制御方式 ● 電気式 ○ 電子式 ○ デジタル式 ● 遠隔 ○ 温度 ○ その他 () ▶24. 計測範囲 ● 室内機器表による ▶25. 計測機器 標準仕様書 (第4編 第2章第4節及び第3章第2節) による	▶1. 換気方式 方式 ● 換気扇 ● ダクト式機械換気 ● その他 (全熱交換器)	▶1. 地下オイルタンク イ. 基礎杭 ○ 要 ○ 不要 ○ 本工事 ○ 別途工事 ロ. タンク室 ○ 要 ○ 鋼製強化プラスチック製二重設タンク ハ. 市販品 ○ 製作 (板厚 mm) 「危険物の規制に関する技術上の基準の細目を定める告示」によるほか所轄消防署が承認した もの 防油堤 ○ 本工事 ○ 別途工事 ▶2. 地上オイルタンク イ. 給油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ロ. 返油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ▶3. オイルサービスタ イ. 給油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ロ. 返油ポンプ ○ 要 ○ 要しない ○ 要しない ▶4. 遠隔式油量計 イ. 取得方法 ○ 専用 ● 油槽 ● その他 () ロ. 指示ユニット: 製造者標準型とし届出による ※ 地下オイルタンク、オイルサービスタは既存品使用 (総合設備機械室)		

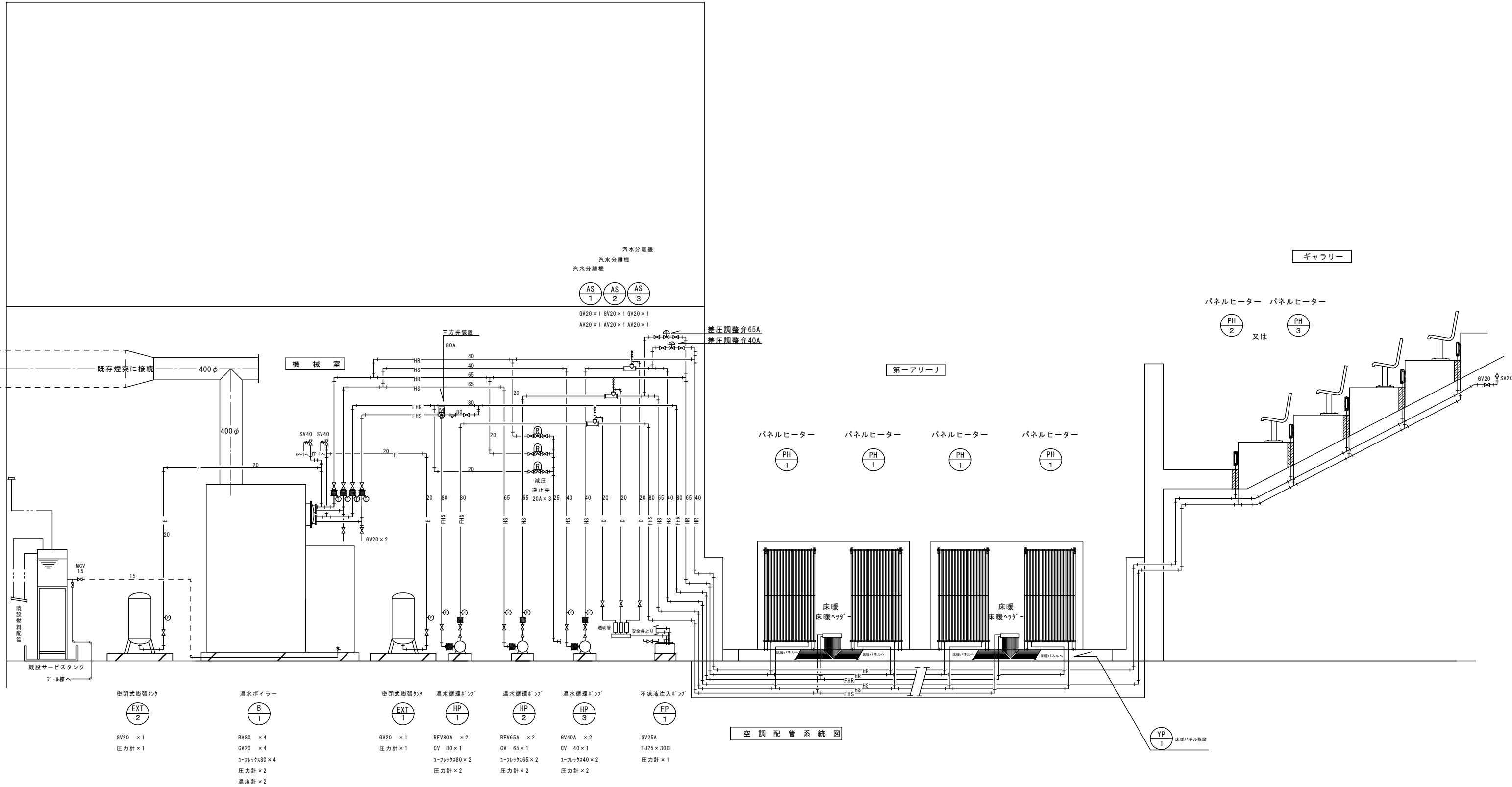
代表となる設計者: 太田 豊 一級建築士 216909号 (意匠)	創造設計・アトリエバンク 設計共同企業体	設計年月日 2023. 3.	工事名称 芽室町総合体育館改修工事	縮尺 NO SCALE	
その他の設計者: 菅沼 秀樹 一級建築士 294080号 (意匠)					
代表者: (株) 創造設計 管理建築士: 一級建築士登録第216909号 太田 豊	査 閲	校 正	担 当	図面名称 特記仕様書 (2) 衛生・空調共通	図 面 番 号 M-102

大枠機器はAエリア工事分

空調機器表									
記号	名称	仕様	数量	動力			設置場所	基礎	備考
				相(φ)	電圧(V)	動力(kw)			
B-1	アリーナ暖房用ボイラー	型式：真空式2回路型、缶体出力：465KW/H 暖房能力：179,000kcal/H(温水温度40℃→30℃) 暖房能力：229,000kcal/H(温水温度65℃→75℃) バーナー：A重油焚(51.8L/H)	1	3	200	2.08	1階機械室	標準基礎(A) H=150	タクマKSAN-400 一括故障表示端子付
HP-1	温水循環ポンプ	渦巻きポンプ：80φ×400L/min×20m 防振架台、不凍液対応型	1	3	200	3.7	1階機械室	標準基礎(A) H=150	床暖パネル系統
HP-2	温水循環ポンプ	渦巻きポンプ：65φ×300L/min×20m 防振架台、不凍液対応型	1	3	200	3.7	1階機械室	標準基礎(A) H=150	第一アリーナーパネルヒーター系統
HP-3	温水循環ポンプ	渦巻きポンプ：32φ×100L/min×20m 防振架台、不凍液対応型	1	3	200	2.2	1階機械室	標準基礎(A) H=150	ギャラリーパーネルヒーター系統
FP-1	不凍液注入ポンプ	受水槽付小型定圧給水ポンプ、単独運転型 2.5φ×2.5L/min×20m 受水槽FRP製500L	1	3	200	0.4	1階機械室	標準基礎(A) H=150	不凍液系統
EXT-1	膨張タンク	型式：密閉式、最高使用圧力：0.6kg/m ² 最大吸収量：109L、タンク容量：215L	1				1階機械室	標準基礎(A) H=150	床暖パネル系統
EXT-2	膨張タンク	型式：密閉式、最高使用圧力：0.6kg/m ² 最大吸収量：66L、タンク容量：130L	1				1階機械室	標準基礎(A) H=150	パネルヒーター系統
SM-1	ばい煙濃度計	投光器、受光器(ファン付)	1				1階機械室		既存再使用
AS-1	汽水分離機	防蝕サイレンサー 口径80A、自動17-抜き弁共 空調用	1				1階機械室		床暖パネル系統
AS-2	汽水分離機	防蝕サイレンサー 口径65A、自動17-抜き弁共 空調用	1				1階機械室		第一アリーナーパネルヒーター系統
AS-3	汽水分離機	防蝕サイレンサー 口径40A、自動17-抜き弁共 空調用	1				1階機械室		ギャラリーパーネルヒーター系統
YP-1	床暖パネル	ゴムチップパネル 放熱能力2,080W/m ² 放熱器循環水量4.0L/min 12.17L/枚	100				第一アリーナ		床暖パネル系統
PH-1	パネルヒーター	暖房能力10,313W 1,400×2,500×164D 自立型金物、壁固定金物、サーモバルブ共 防球ネット(建築工事)	20				第一アリーナ		第一アリーナーパネルヒーター系統
PH-2	パネルヒーター	暖房能力1,437W 3,500×218H×57D 自立型、サーモバルブ、保護カバー共	10				ギャラリ		ギャラリーパーネルヒーター系統
PH-3	パネルヒーター	暖房能力1,848W 4,500×218H×57D 自立型、サーモバルブ、保護カバー共	25				ギャラリ		ギャラリーパーネルヒーター系統

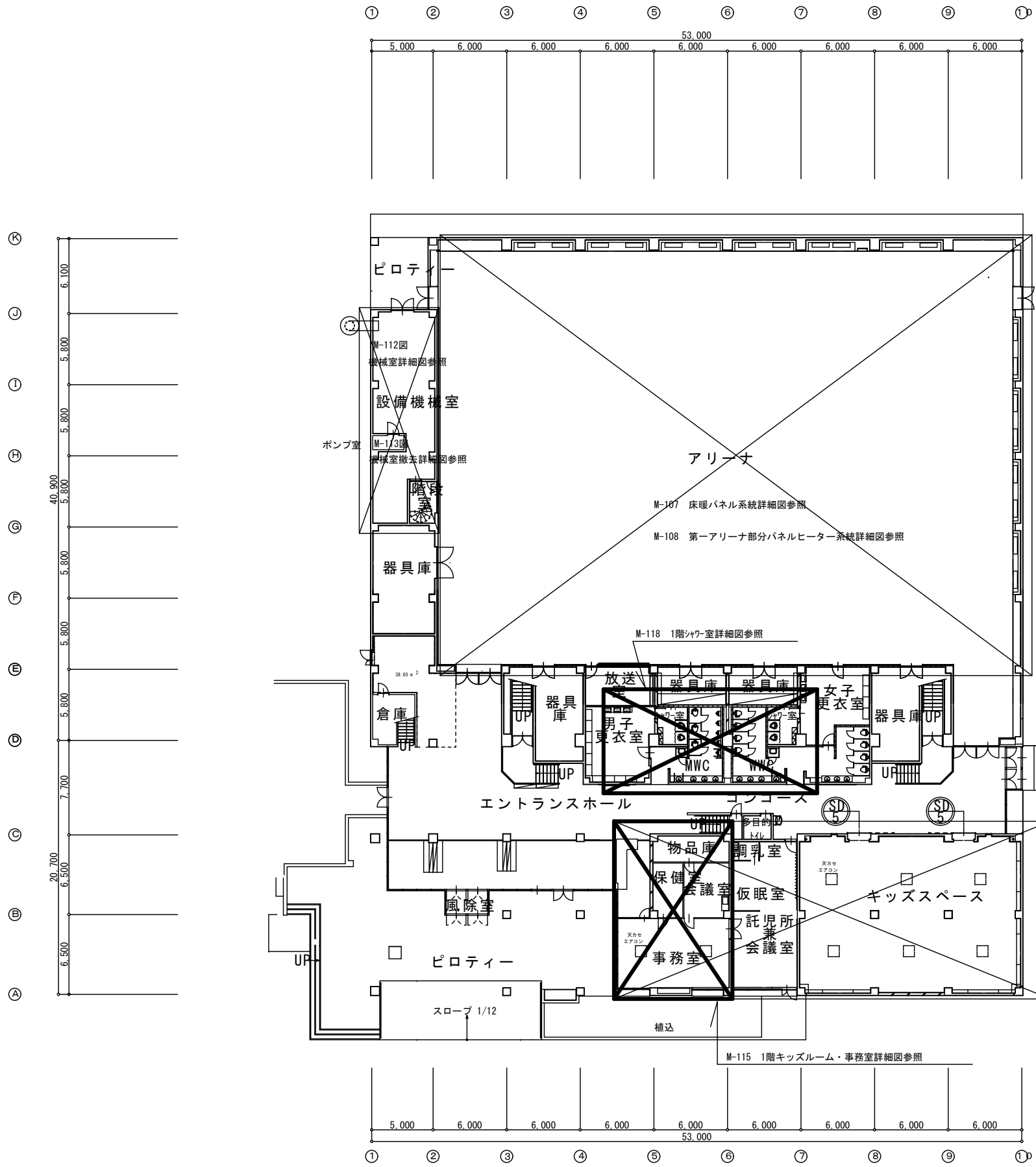
空調機器表									
記号	名称	仕様	数量	動力			設置場所	基礎	備考
				相(φ)	電圧(V)	動力(kw)			
EHP-1	空冷ヒートポンプエアコン	マルチ型室外機、寒冷地用冷暖切換え型 定格冷房能力85.0KW 暖房能力95.0KW 防振架台、防雪フード、室外機鉄骨架台共	1	3	200	38.85	屋外1階		建築工事 PUHY-WP650SDMG5
EHP-1-1	空冷ヒートポンプエアコン	室内機、天井カセット4方向型 冷房能力11.2KW、暖房能力12.5KW 昇降パネル、多機能リモコン共	8	1	200	0.08	2階第二アリーナ		PUFY-P112EMG8
EHP-2	空冷ヒートポンプエアコン	マルチ型室外機、寒冷地用冷暖切換え型 定格冷房能力14.0KW 暖房能力16.0KW 防振架台、防雪フード、室外機鉄骨架台共	1	3	200	7.9	屋外1階		建築工事 (将来工事) PUSY-HP140MH3
EHP-2-1	空冷ヒートポンプエアコン	室内機、天井カセット4方向型 冷房能力7.1KW、暖房能力8.5KW 昇降パネル、多機能リモコン共	2	1	200	0.04	2階研修室		(将来工事) PLFY-P71EMG8
EHP-3	空冷ヒートポンプエアコン	マルチ型室外機、寒冷地用冷暖切換え型 定格冷房能力16.0KW 暖房能力18.0KW 防振架台、防雪フード、室外機鉄骨架台共	1	3	200	9.1	屋外1階		建築工事 PUSY-HP160MH3
EHP-3-1	空冷ヒートポンプエアコン	室内機、天井カセット4方向型 冷房能力5.6KW、暖房能力6.3KW 昇降パネル、多機能リモコン共	3	1	200	0.02	1階キッズスペース		PUSY-P56EMG8
EHP-4	空冷ヒートポンプエアコン	マルチ型室外機、寒冷地用冷暖切換え型 定格冷房能力11.2KW 暖房能力12.5KW 防振架台、防雪フード、室外機鉄骨架台共	1	3	200	6.86	屋外1階		建築工事 PUSY-HP112MH3
EHP-4-1	空冷ヒートポンプエアコン	室内機、天井カセット4方向型 冷房能力5.6KW、暖房能力6.3KW 昇降パネル、多機能リモコン共	2	1	200	0.02	1階事務所		PLSY-P56EMG8
	システムコントローラ	運転発停、温度管理、異常表示、キッズルームの空調換気扇の発停	1	1	100		1階事務所		PAC-SF50AT2
HEU-1	空調換気扇	天井埋込型空調換気扇 200φ×480m3/H×100Pa ジーニアスリモコン(電気工事に支給)、防振吊り金物共	2	1	100	0.32	1階キッズスペース		LGH-N50RXW
EF-1	排風機	ストレートシロッコファン 消音型耐湿タイプ 150φ×180m3/H×150Pa	2	1	100	0.057	男女シャワー室		BFS-40SYA2

代表となる設計者：太田 豊 一級建築士 216909号 (意匠)	創造設計・アトリエバンク 設計共同企業体	設計年月日		工事名称	縮尺
その他の設計者：菅沼 秀樹 一級建築士 294080号 (意匠)		2023.3.			
	代表者：(株)創造設計舎	査 閲	校 正	担 当	図面名称
	管理建築士：一級建築士登録第216909号 太田 豊				空調機器表
					図面番号 M-103



本図面は令和6年度以降

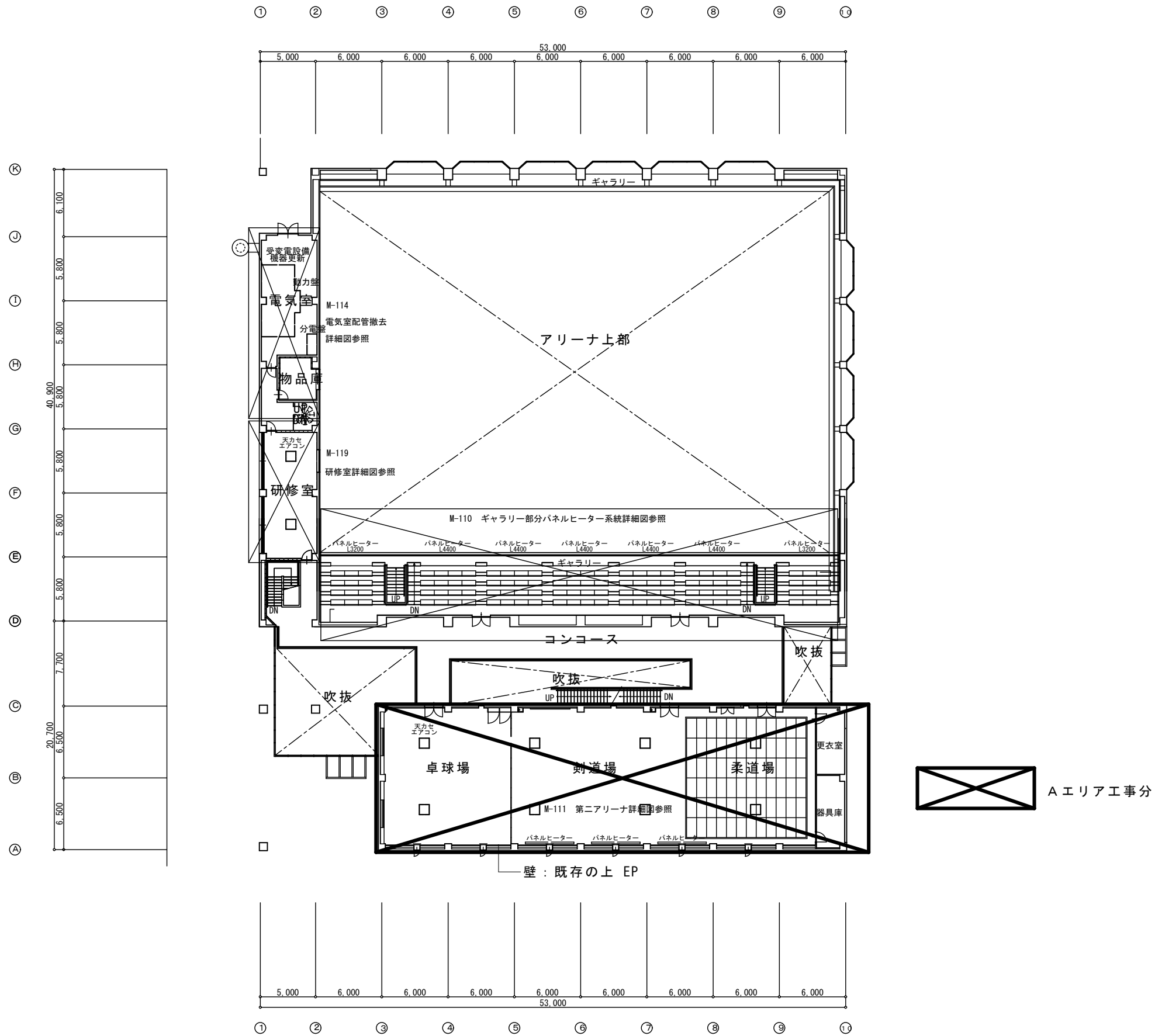
代表となる設計者: 太田 豊 一級建築士 216909号 (意匠) その他の設計者: 菅沼 秀樹 一級建築士 294080号 (意匠)	創造設計・アトリエバンク 設計共同企業体 代表者: (株)創造設計舎 管理建築士: 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日	2023. 3 .	工事名称	茅室町総合体育館改修工事	縮尺	NO SCALE
		査 閲 校 正 担 当		図面名称	空調配管系統図	図面番号	M-104



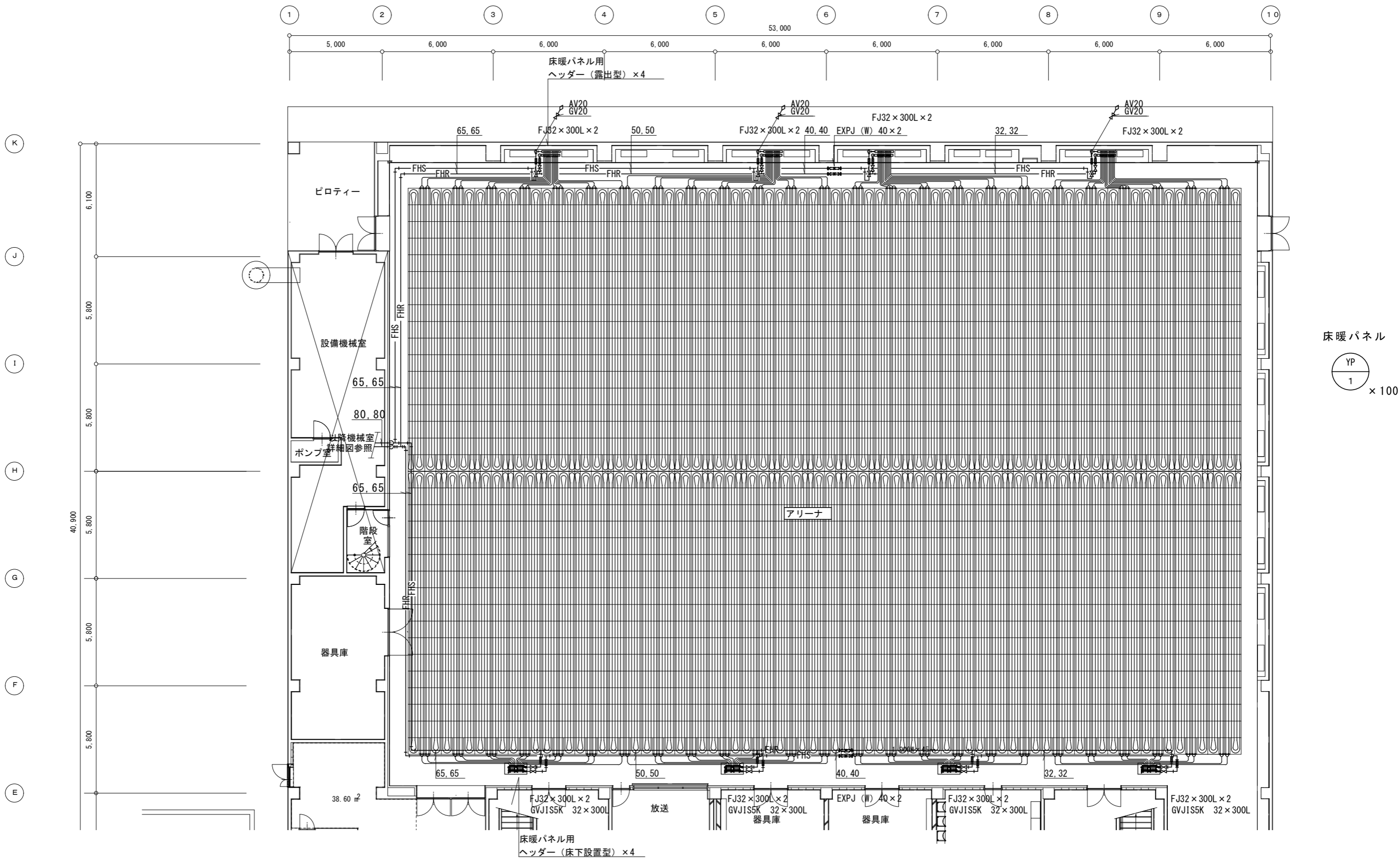
 A エリア工事分

改修後平面図 1 : 400

代表となる設計者: 太田 豊 一級建築士 216909号 (意匠) その他の設計者: 菅沼 秀樹 一級建築士 294080号 (意匠)	創造設計・アトリエブク 設計共同企業体	設計年月日 2023. 3 .	工事名称 茅室町総合体育館改修工事	縮尺 A1:1/200 A3:1/400
	代表者: (株) 創造設計舎 管理建築士: 一級建築士登録第216909号 太田 豊	査 閲 校 正 担 当	図面名称 空調設備 1階平面図	図面番号 M-105



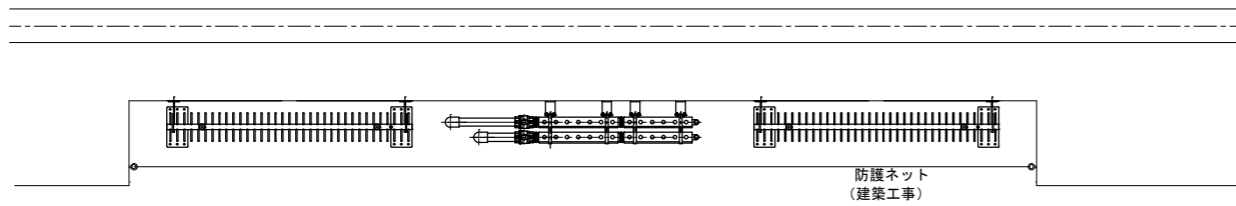
代表となる設計者: 太田 豊 一級建築士 216909号 (意匠) その他の設計者: 菅沼 秀樹 一級建築士 294080号 (意匠)	創造設計・アトリエバンク 設計共同企業体 代表者: (株) 創造設計舎 管理建築士: 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2023. 3.		工事名称 茅室町総合体育館改修工事	縮尺 A1:1/200 A3:1/400
		査閲	校正	担当	
					図面番号 M-106



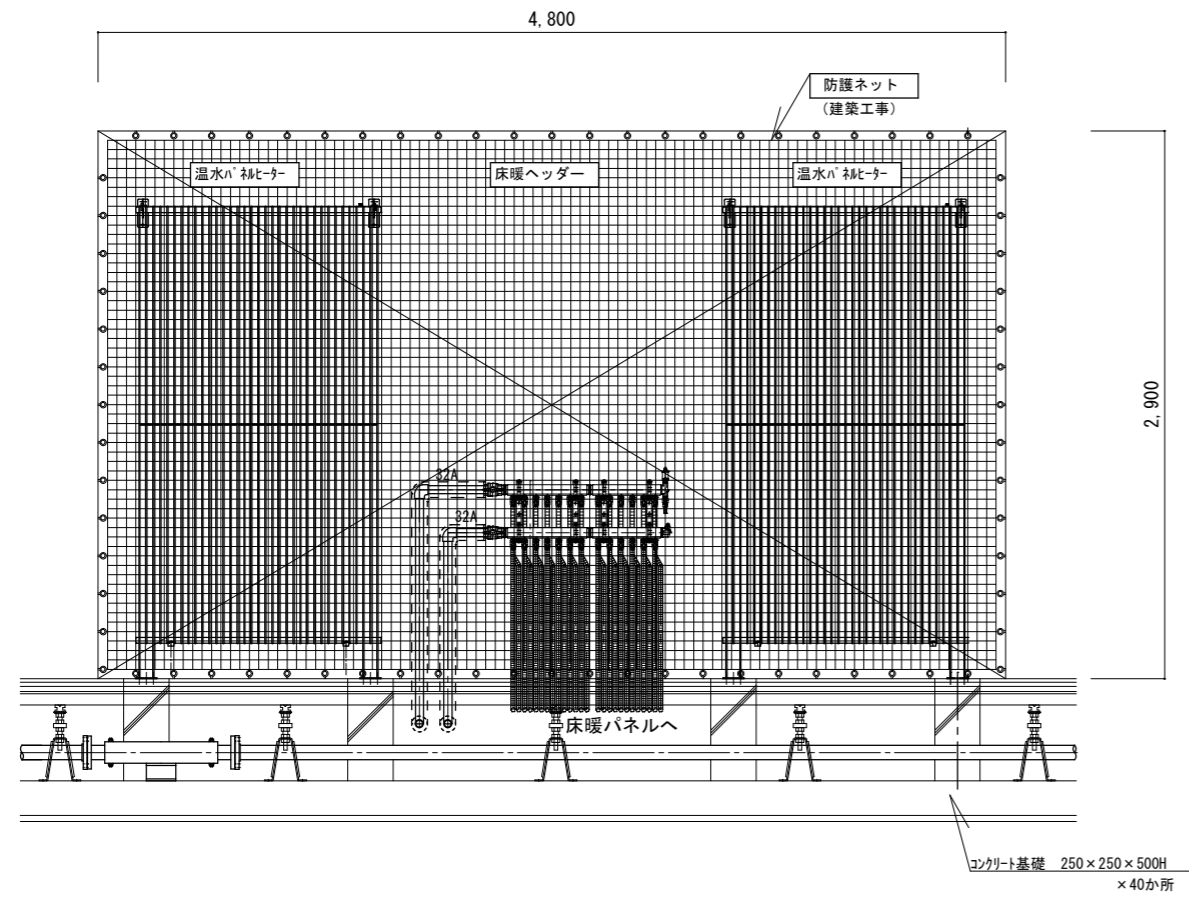
1階第一アリーナ平面図

本図面は令和6年度以降

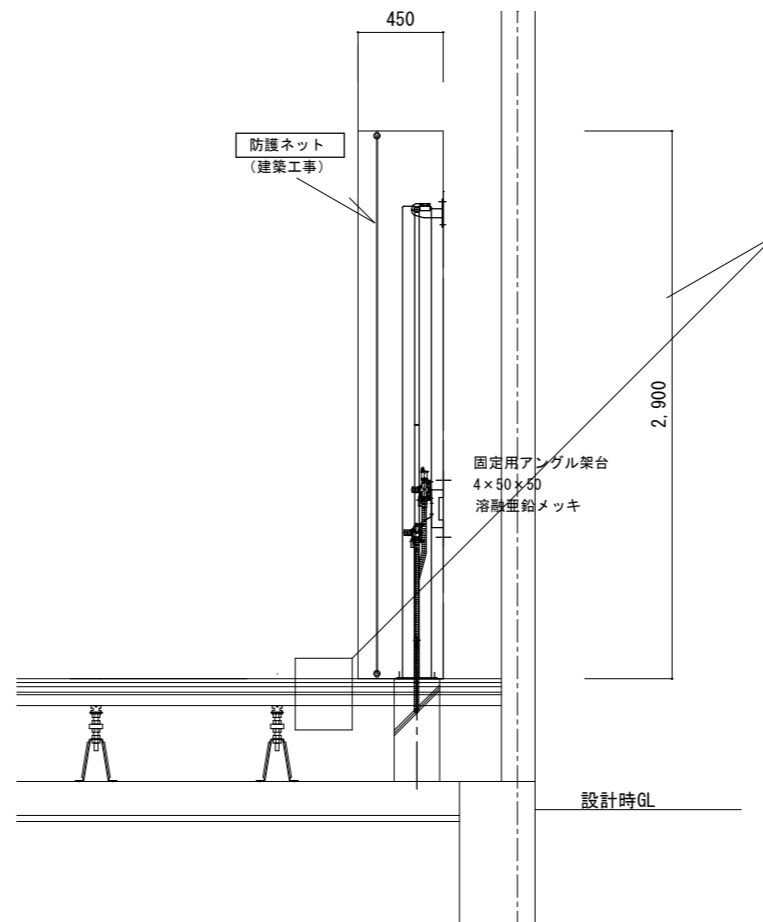
代表となる設計者: 太田 豊 一級建築士 216909号 (意匠) その他の設計者: 菅沼 秀樹 一級建築士 294080号 (意匠)	創造設計・アトリエバンク 設計共同企業体 代表者: (株) 創造設計舎 管理建築士: 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日	2023. 3 .	工事名称	芽室町総合体育館改修工事	縮尺	A1:1/100 A3:1/200
		査 閲	校 正	担 当	図面名称	床暖パネル系統詳細図	図 面 番 号



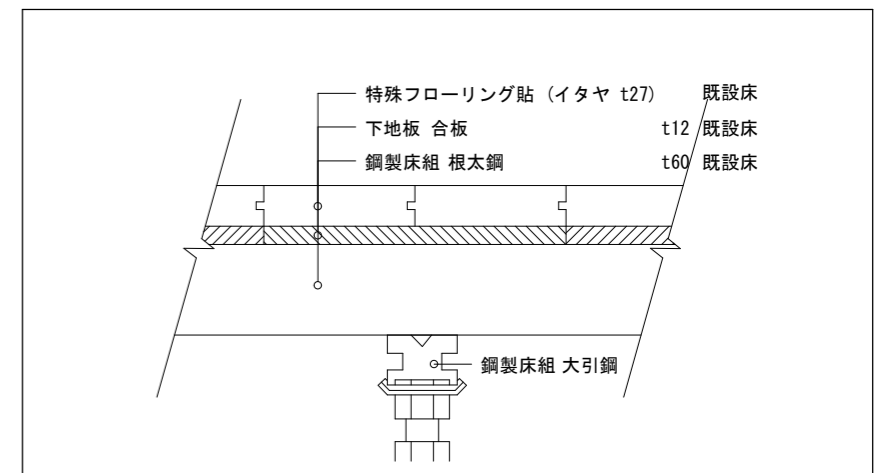
アリーナ 改修後 平面詳細図



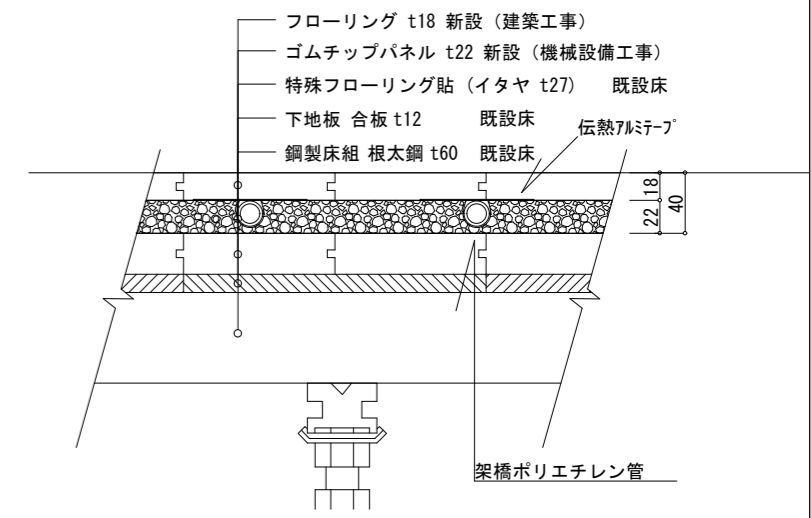
アリーナ 改修後 断面図



アリーナ 改修後 側面図



既存床改修前

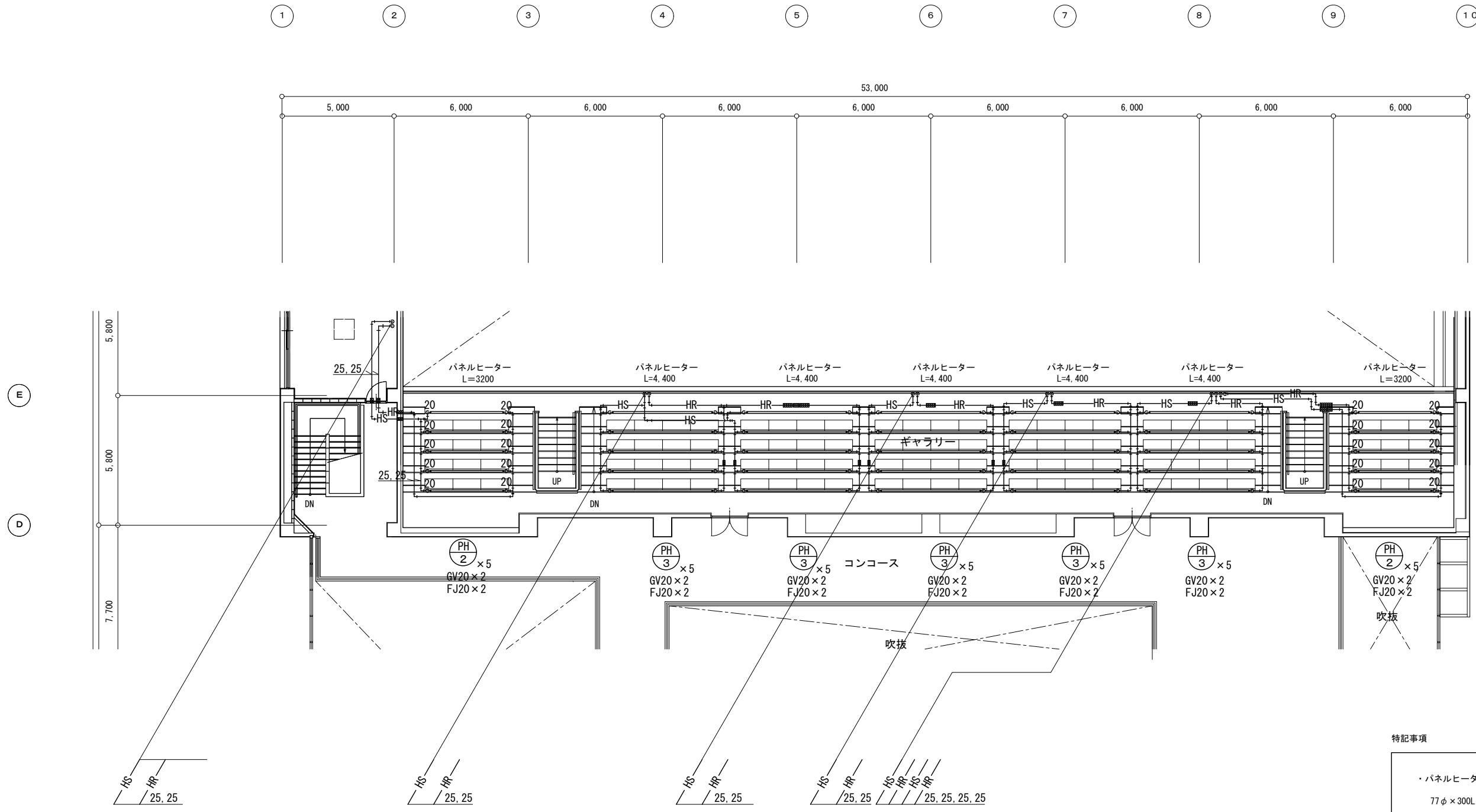


床改修後

床仕上詳細図 1/5

本図面は令和6年度以降

代表となる設計者: 太田 豊 一級建築士 216909号 (意匠) その他の設計者: 菅沼 秀樹 一級建築士 294080号 (意匠)	創造設計・アトリエバンク 設計共同企業体 代表者: (株)創造設計舎 管理建築士: 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日	2023. 3 .	工事名称	茅室町総合体育館改修工事	縮尺	NO SCALE
		査 閲	校 正	担 当	図面名称	パネルヒーター部分詳細図	図 面 番 号



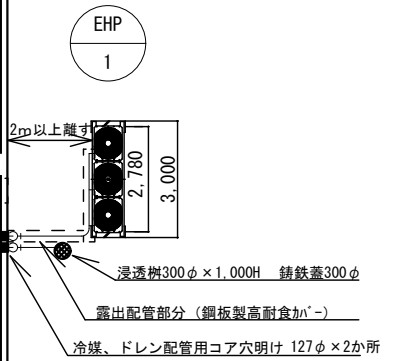
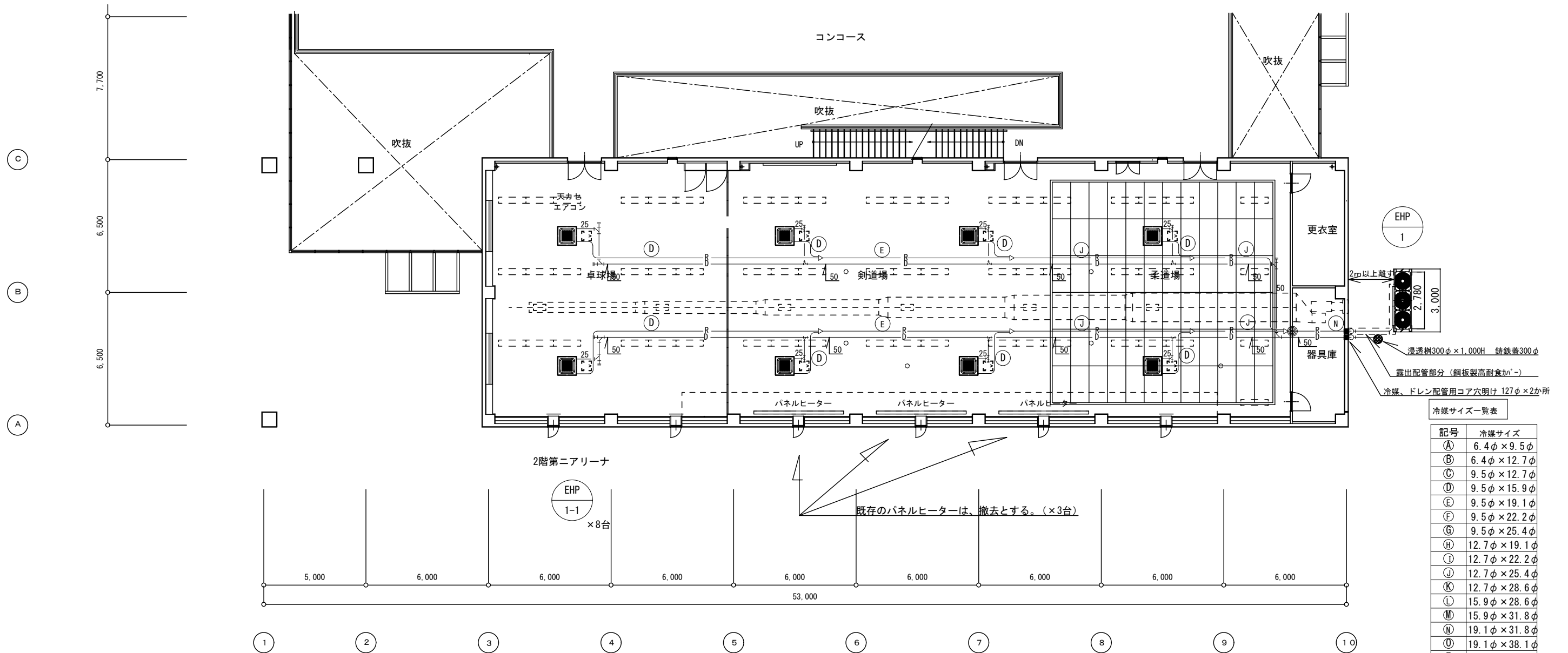
2階ギャラリー平面図

特記事項

- ・パネルヒーター用暖房配管コア抜き数量 77φ×400L×7か所
77φ×300L×2か所 , 77φ×250L×1か所 , 77φ×200L×8か所
- ・パネルヒーター用暖房配管立上げ部分は、コア抜きとする。
- 上記数量 77φ×300L×70か所
- 配管用コア穴明け部分については、非破壊検査を行い
監督員の許可を得る事。

本図面は令和6年度以降

代表となる設計者: 太田 豊 一級建築士 216909号 (意匠)	創造設計・アトリエバンク 設計共同企業体	設計年月日	2023. 3 .		工事名称	茅室町総合体育館改修工事	縮尺	A1:1/100 A3:1/200
その他の設計者 : 菅沼 秀樹 一級建築士 294080号 (意匠)		管理建築士: 一級建築士登録第216909号 太田 豊	査 閲	校 正	担 当	図面名称	ギャラリー部分パネルヒーター系統詳細図	図 面 番 号

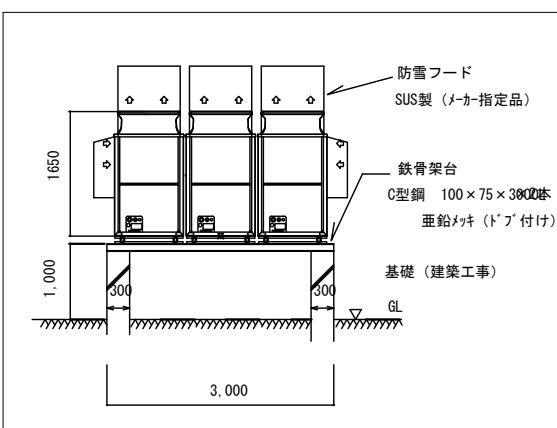


冷媒サイズ一覧表

記号	冷媒サイズ
(A)	6.4φ×9.5φ
(B)	6.4φ×12.7φ
(C)	9.5φ×12.7φ
(D)	9.5φ×15.9φ
(E)	9.5φ×19.1φ
(F)	9.5φ×22.2φ
(G)	9.5φ×25.4φ
(H)	12.7φ×19.1φ
(I)	12.7φ×22.2φ
(J)	12.7φ×25.4φ
(K)	12.7φ×28.6φ
(L)	15.9φ×28.6φ
(M)	15.9φ×31.8φ
(N)	19.1φ×31.8φ
(O)	19.1φ×38.1φ
(P)	22.2φ×38.1φ

既存のパネルヒーターは、撤去とする。(×3台)

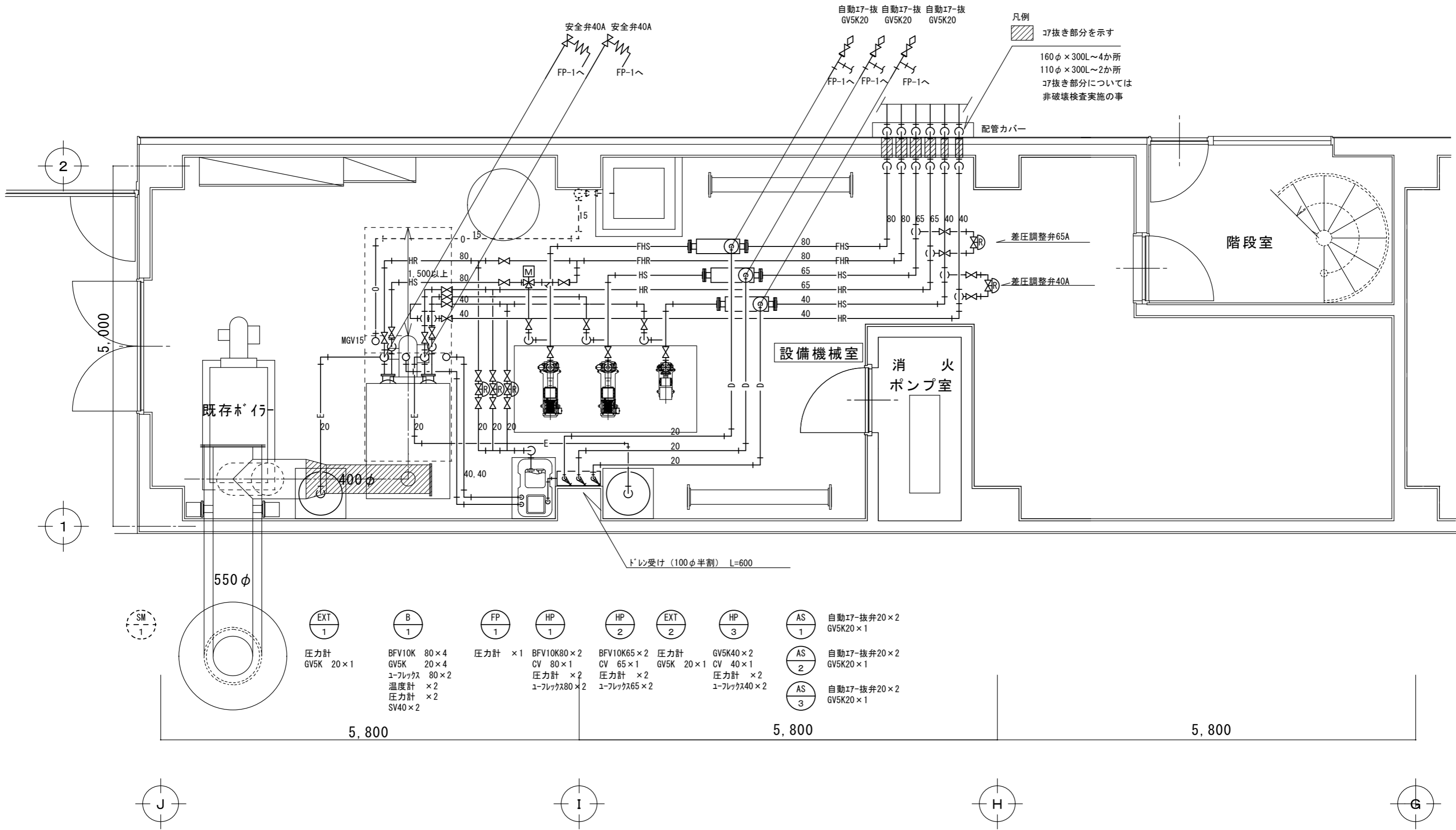
A エリア工事分



室外機廻り詳細図 1/100

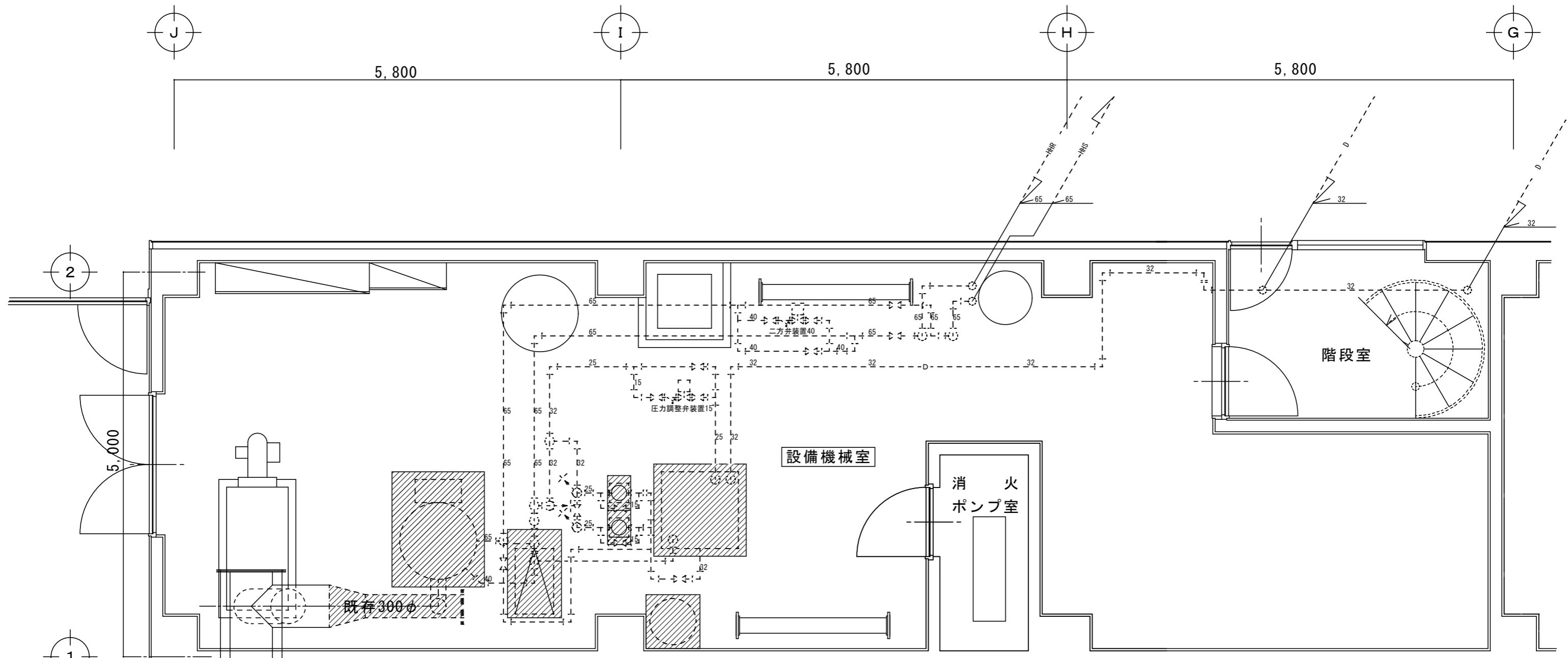
- 特記事項
- ・室内機の設置位置、及びリモコンのグループ分け、取付位置は監督員と協議の上決定する。
 - ・屋外露出配管部分はRDカバー(高耐食製)を施す。
 - 防火区画貫通部は、日本消防設備安全センター評定品
 - ・国土交通大臣認定工法による区画処理を行う。
 - ・集中リモコンは、1階事務所設置とする。
 - ・個別リモコンは、室内設置とする。
 - ・天井点検口450φ(建築工事)を示す
 - ・区画処理材 国土交通大臣認定 PS060FL-9369(床)
 - ・国土交通大臣認定 PS060WL-0534(壁) PS060WL-0467(壁・中空壁)
 - ・配管用コア穴明け部分については、非破壊検査を行い監督員の

代表となる設計者: 太田 豊 一級建築士 216909号 (意匠)	創造設計・アトリエバンク 設計共同企業体	設計年月日	2023. 3.	工事名称	茅室町総合体育館改修工事	縮尺	A1:1/100 A3:1/200
その他の設計者: 菅沼 秀樹 一級建築士 294080号 (意匠)		代表者: (株) 創造設計舎 管理建築士: 一級建築士登録第216909号 太田 豊	2023. 3.	図面名称	第二アリーナ詳細図	図面番号	M-111
		査 閲	校 正	担 当			



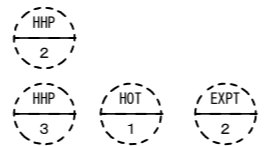
本図面は令和6年度以降

代表となる設計者: 太田 豊 一級建築士 216909号 (意匠) その他の設計者: 菅沼 秀樹 一級建築士 294080号 (意匠)	創造設計・アトリエバンク 設計共同企業体 代表者: (株)創造設計舎 管理建築士: 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日	2023. 3 .	工事名称	芽室町総合体育館改修工事	縮尺	A1:1/25 A3:1/50
		査 閲	校 正	担 当	図面名称	機械室詳細図	図 面 番 号



特記事項

- は、撤去部分を示す。(基礎撤去は建築工事)
- は、撤去器具番号を示す。
- は、撤去配管を示す。
- B-2の熱媒体ボイラーに関するオイル関係は、産業廃棄物処理とする。

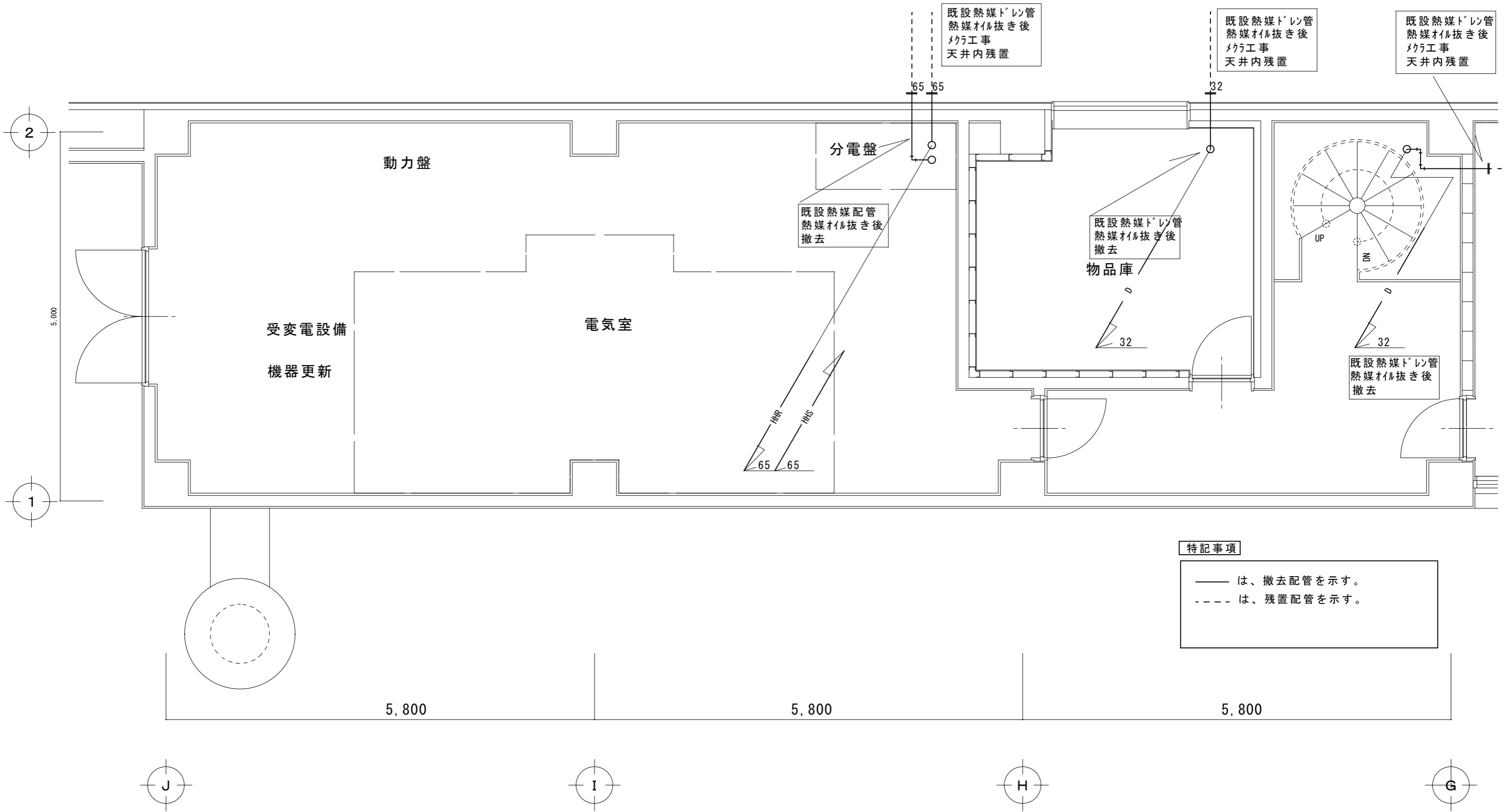


撤去機器一覧表

記号	名称	仕様	数量	動力			設置場所	基礎	備考
				相(φ)	電圧(V)	動力(kw)			
B-2	アリーナ暖房用ボイラー	熱媒体ヒーター A重油焚き 熱出力：400,000kcal/H(熱媒体温度115℃→145℃)	1	3	200		1階機械室	標準基礎(A) H=150	タクマNH-40A 一括故障表示端子付
HHP-1	熱媒体循環ポンプ	渦巻きポンプ：65φ×500L/min×45m	1	3	200	7.5	1階機械室	H=300	耐熱150℃
HHP-2	熱媒体加圧ポンプ	多段渦巻きポンプ：25φ×16L/min×60m	1	3	200	0.75	1階機械室	H=300	耐熱130℃
HHP-3	熱媒体加圧ポンプ	多段渦巻きポンプ：25φ×16L/min×28m	1	3	200	0.37	1階機械室	H=150	耐熱150℃
EXPT-2	膨張タンク	熱媒体用膨張タンク 1,000φ×1,500H 解放式 架台1,000H,SUS444製	1				1階機械室	H=150	
HOT-1	加圧タンク	密閉式タンク,瞬間使用圧力10KG/m ² 恒温槽付,第二種圧力容器	1				1階機械室	H=150	

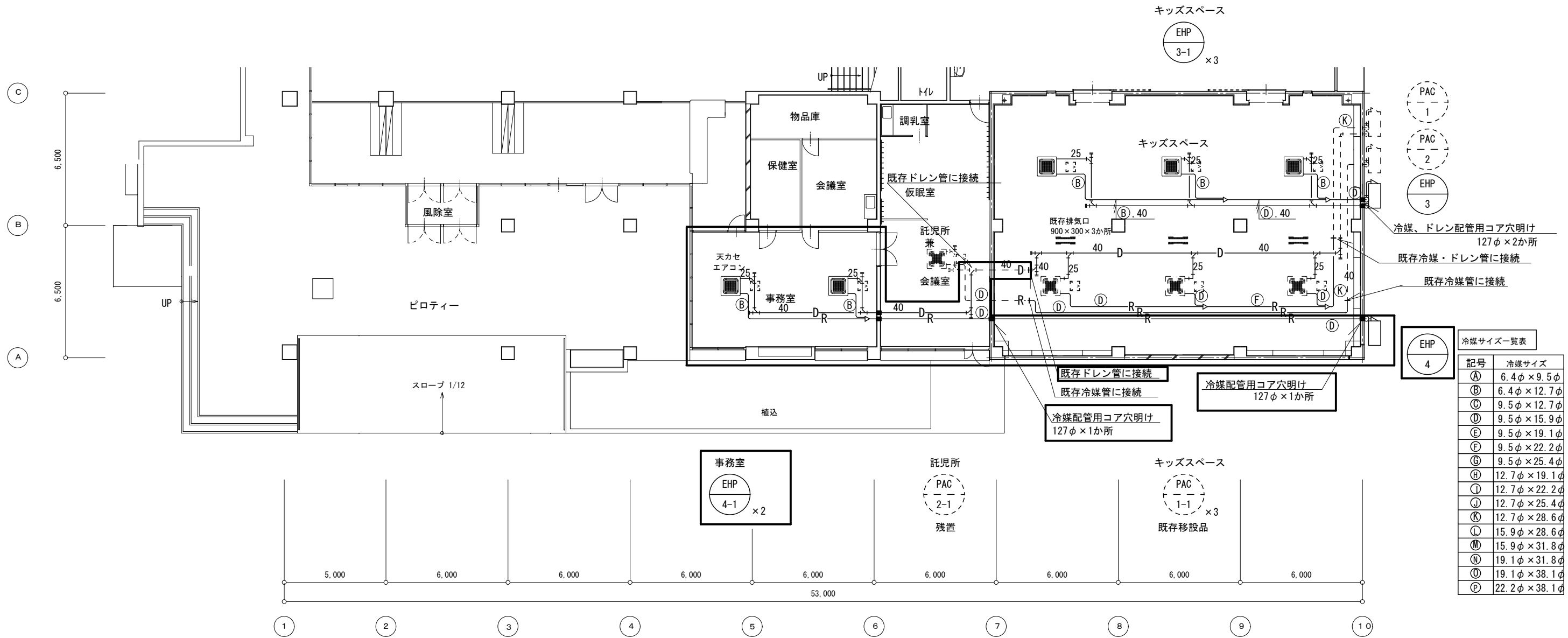
本図面は令和6年度以降

代表となる設計者：太田 豊 一級建築士 216909号 (意匠)	創造設計・アトリエバンク 設計共同企業体	設計年月日	2023.3.	工事名称	芽室町総合体育館改修工事	縮尺	A1:1/25 A3:1/50
その他の設計者：菅沼 秀樹 一級建築士 294080号 (意匠)		代表者：(株)創造設計舎 管理建築士：一級建築士登録第216909号 太田 豊	2023.3.	図面名称	機械室撤去詳細図	図面番号	M-113



本図面は令和6年度以降

代表となる設計者: 太田 豊 一級建築士 216909号 (意匠) その他の設計者: 菅沼 秀樹 一級建築士 294080号 (意匠)	創造設計・アトリエブंक 設計共同企業体 代表者: (株) 創造設計舎 管理建築士: 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2023. 3 .			工事名称 茅室町総合体育館改修工事	縮尺 A1: 1/25 A3: 1/50
		査 閲	校 正	担 当		



記号	冷媒サイズ
(A)	6.4φ × 9.5φ
(B)	6.4φ × 12.7φ
(C)	9.5φ × 12.7φ
(D)	9.5φ × 15.9φ
(E)	9.5φ × 19.1φ
(F)	9.5φ × 22.2φ
(G)	9.5φ × 25.4φ
(H)	12.7φ × 19.1φ
(I)	12.7φ × 22.2φ
(J)	12.7φ × 25.4φ
(K)	12.7φ × 28.6φ
(L)	15.9φ × 28.6φ
(M)	15.9φ × 31.8φ
(N)	19.1φ × 31.8φ
(O)	19.1φ × 38.1φ
(P)	22.2φ × 38.1φ

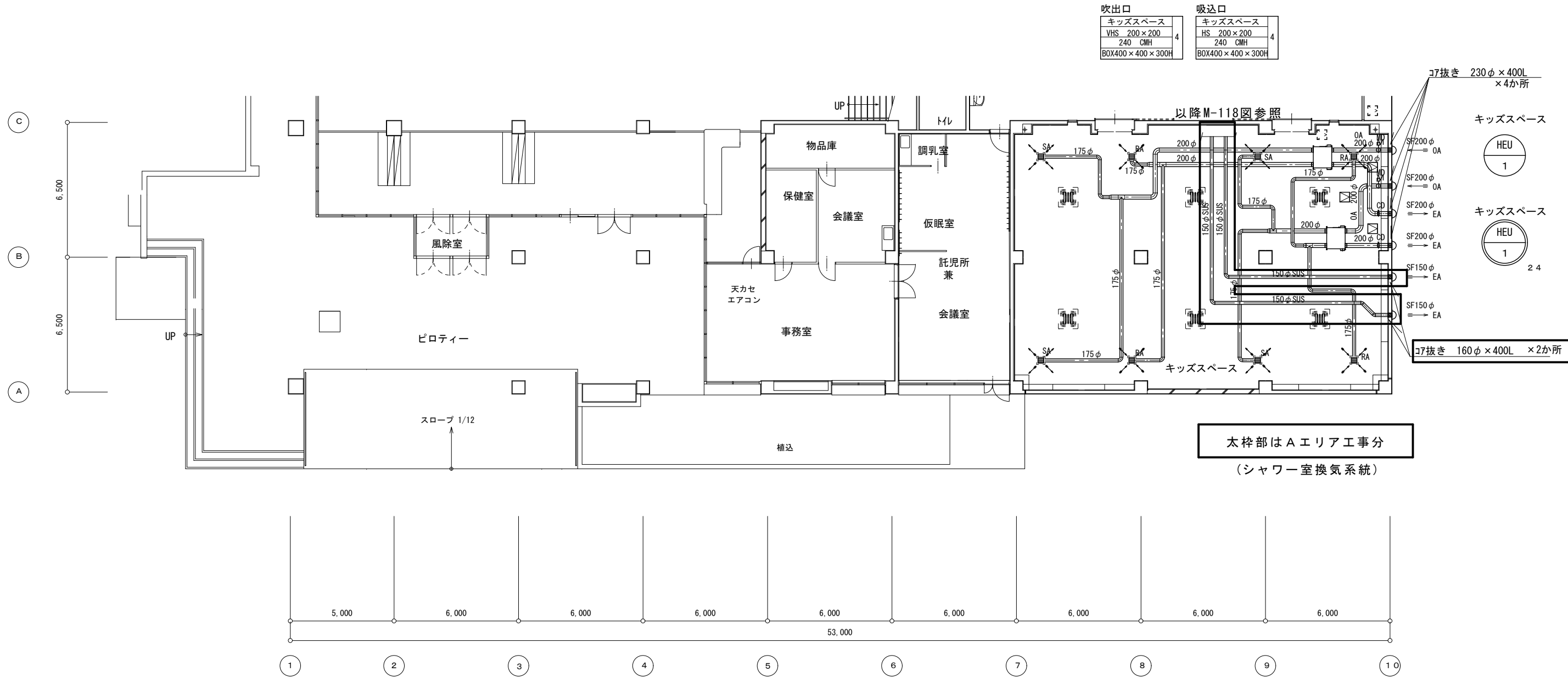
太柱部はAエリア工事分

特記事項②

- は、既存器具番号を示す。
- は、既存配管を示す。
- 配管コア穴明け部分については、非破壊検査を行い監督員の許可を得る事。

特記事項①

- 室内機の設置位置、及びリモコンのグループ分け、取付位置は監督員と協議の上決定する。
- 屋外露出配管部分はR Dカバー(高耐食製)を施す。
- 防火区画貫通部は、日本消防設備安全センター評定品 国土交通大臣認定工法による区画処理を行う。
- 集中リモコンは、1階事務所設置とする。
- 個別リモコンは、室内設置とする。
- 天井点検口450□(建築工事)を示す
- 区画処理材 国土交通大臣認定 PS060FL-9369(床)
- 国土交通大臣認定 PS060WL-0534(壁) PS060WL-0467(壁・中空壁)



換気計算表

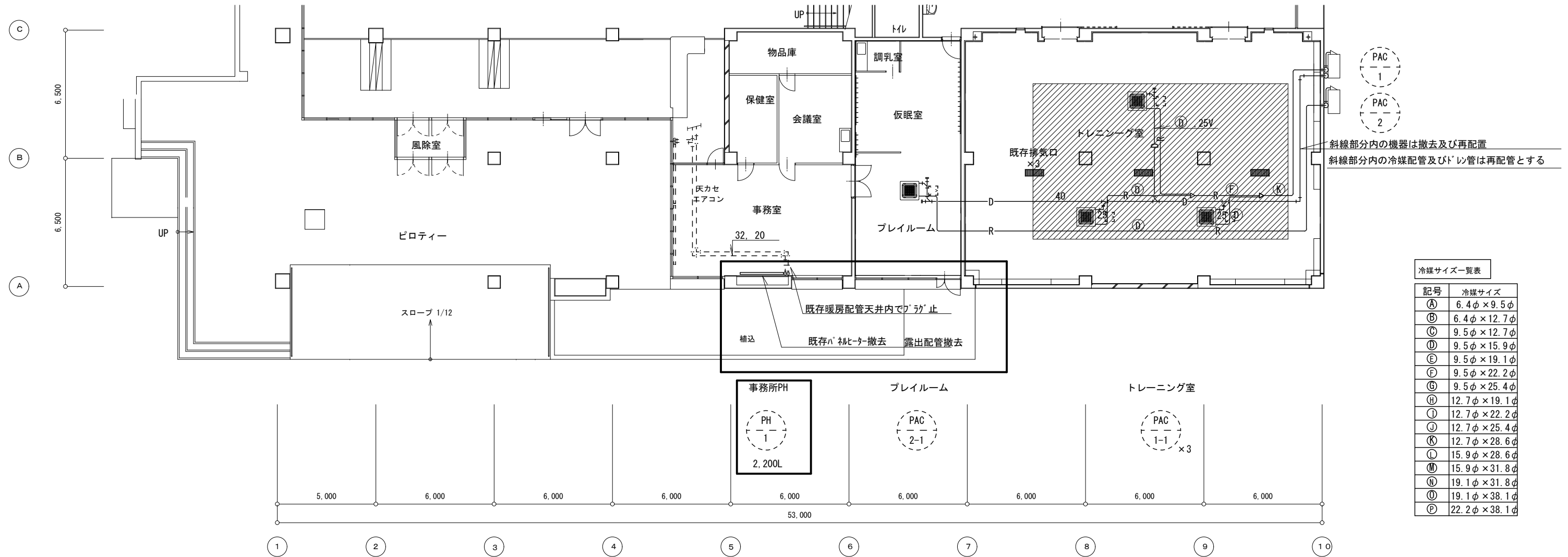
室名	各室条件			シックハウス対策の換気計算 (V = 室容積 x 換気回数)				床面積による換気計算 (V=20x床面積/占有面積)		換気回数による換気計算 (V=室容積x換気回数)		必要換気量計 (m3/h)	設計換気量	
	床面積 m2	天井高さ m	室容積 m3	対象	換気回数 (回/h)	必要風量 (m3/h)	設計風量 (m3/h)	占有面積 (m2)	必要風量(A) (m3/h)	換気回数 (回/h)	必要風量(B) (m3/h)		給気 (m3/h)	排気 (m3/h)
【1階】														
キッズスペース HEU-1 x 2	236.93	3.60	852.95	○	0.5	427	430	5	948			960 (480x2)	960	960

共通事項

- 1: 一般排気ダクトはスパイラルダクトとし外壁より2m部分はGW25t(防露施工)とする。
- 2: 一般給気ダクトはスパイラルダクトとし全てGW25t(防露施工)とする。
- 3: 全熱交換器のSAダクトは全てGW25t(防露施工)とする。
 24時間対応換気機器を示す。
- 4: 天井点検口450x450(建築工事)を示す。
- 5: ドアガラリ(建築工事)を示す。
- 6: ・配管用コア穴明け部分については、非破壊検査を行い監督員の許可を得る事。

移設機器一覧表

記号	名称	仕様	台数	動力		設置場所	備考
				相(φ)	電圧(V) 動力(kw)		
PAC-1	空冷ヒートポンプエアコン	室外機 冷房能力/暖房能力=22.4/24.0KW マルチ型、壁取付、防雪フード共	1	3	200 10.1	屋外室外機置場	既存再使用
PAC-1	空冷ヒートポンプエアコン	室内機 天井吐口4方向吹出し型 冷房能力/暖房能力=7.1/8.0KW	3	1	200 0.057	トレーニング室	移設再使用
PAC-2	空冷ヒートポンプエアコン	室外機 冷房能力/暖房能力=7.1/8.0KW	1	3	200 3.7	屋外室外機置場	既存再使用
PAC-2-1	空冷ヒートポンプエアコン	室内機 天井吐口4方向吹出し型	1	1	200 0.057	屋外室外機置場	既存再使用、配管ルート変更
PH-1	パナソニック	温水パナソニック GF37/30 L=2,200	1			事務所	既存撤去



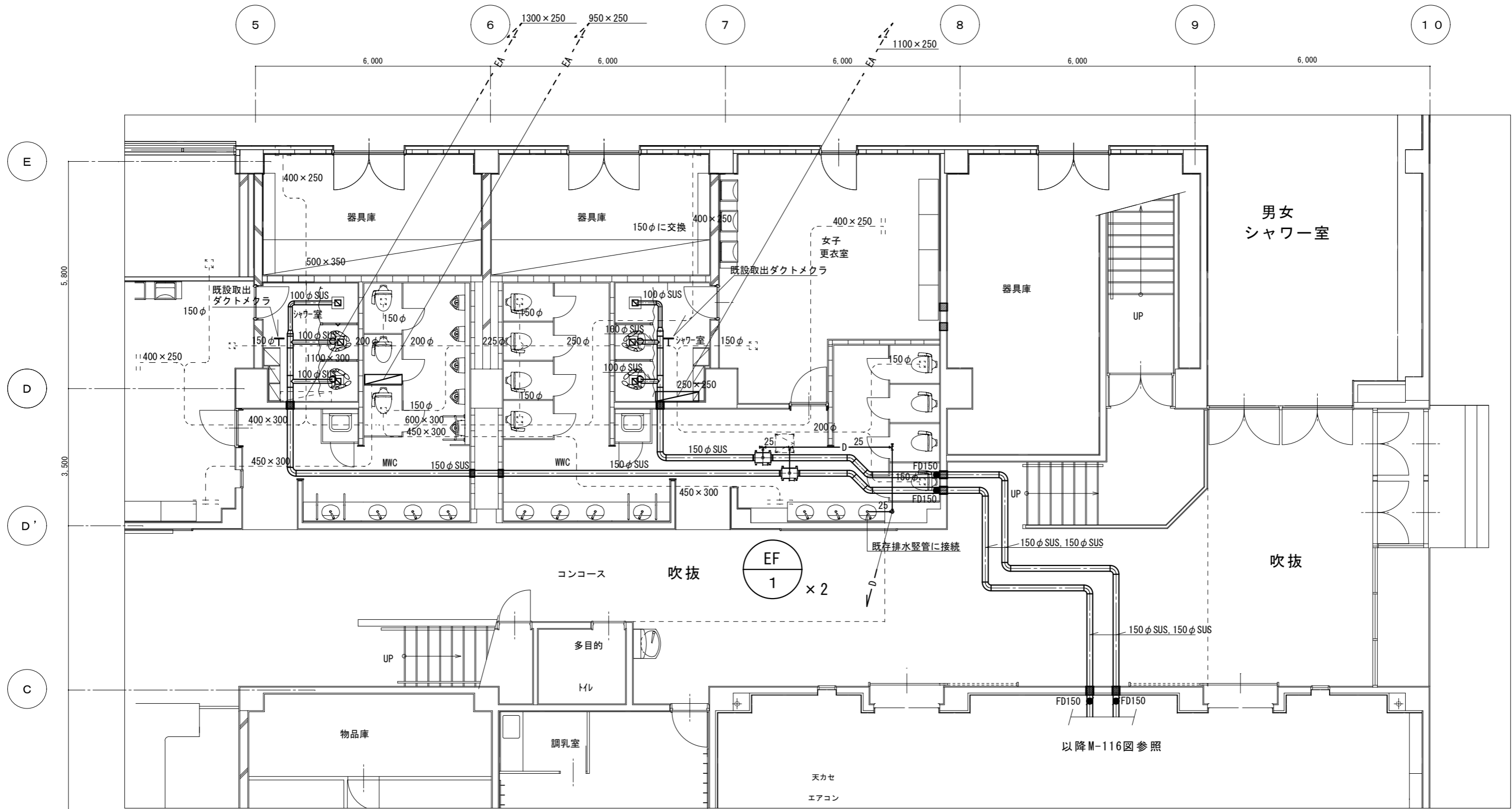
斜線部分内の機器は撤去及び再配置
斜線部分内の冷媒配管及びドレン管は再配管とする

冷媒サイズ一覧表

記号	冷媒サイズ
Ⓐ	6.4φ×9.5φ
Ⓑ	6.4φ×12.7φ
Ⓒ	9.5φ×12.7φ
Ⓓ	9.5φ×15.9φ
Ⓔ	9.5φ×19.1φ
Ⓕ	9.5φ×22.2φ
Ⓖ	9.5φ×25.4φ
Ⓗ	12.7φ×19.1φ
Ⓙ	12.7φ×22.2φ
Ⓚ	12.7φ×25.4φ
Ⓛ	12.7φ×28.6φ
Ⓜ	15.9φ×28.6φ
Ⓝ	15.9φ×31.8φ
Ⓟ	19.1φ×31.8φ
Ⓡ	19.1φ×38.1φ
Ⓢ	22.2φ×38.1φ

太枠部はAエリア工事分

代表となる設計者: 太田 豊 一級建築士 216909号 (意匠)	創造設計・アトリエバンク 設計共同企業体	設計年月日	2023. 3 .	工事名称	茅室町総合体育館改修工事	縮尺	A1:1/100 A3:1/200
その他の設計者: 菅沼 秀樹 一級建築士 294080号 (意匠)		代表者: (株)創造設計舎 管理建築士: 一級建築士登録第216909号 太田 豊		査 閲		校 正	
					既存トレーニング室・事務室撤去図	M-117	



換気計算 現状	
既存換気量	50CMH
既存器具	SR 150×150
既存シャワー室	床面積7.3㎡
天井高さ	2.4H
室体積	17.6㎡
現状換気回数	3回/H
接続ダクト径	100φ

改修案	
換気量	180CMH
排気器具	HS 200×200
シャワー室	床面積7.3㎡
天井高さ	2.4H
室体積	17.6㎡
換気回数	10回/H
接続ダクト径	150φ

変更前

男子シャワー室	1
SR 150×150	
50 CMH	

変更後

男子シャワー室	3
HS 100×100 (SUS製)	
60 CMH	
BOX (SUS製) 250×250×200H	

変更前

女子シャワー室	1
SR 150×150	
50 CMH	

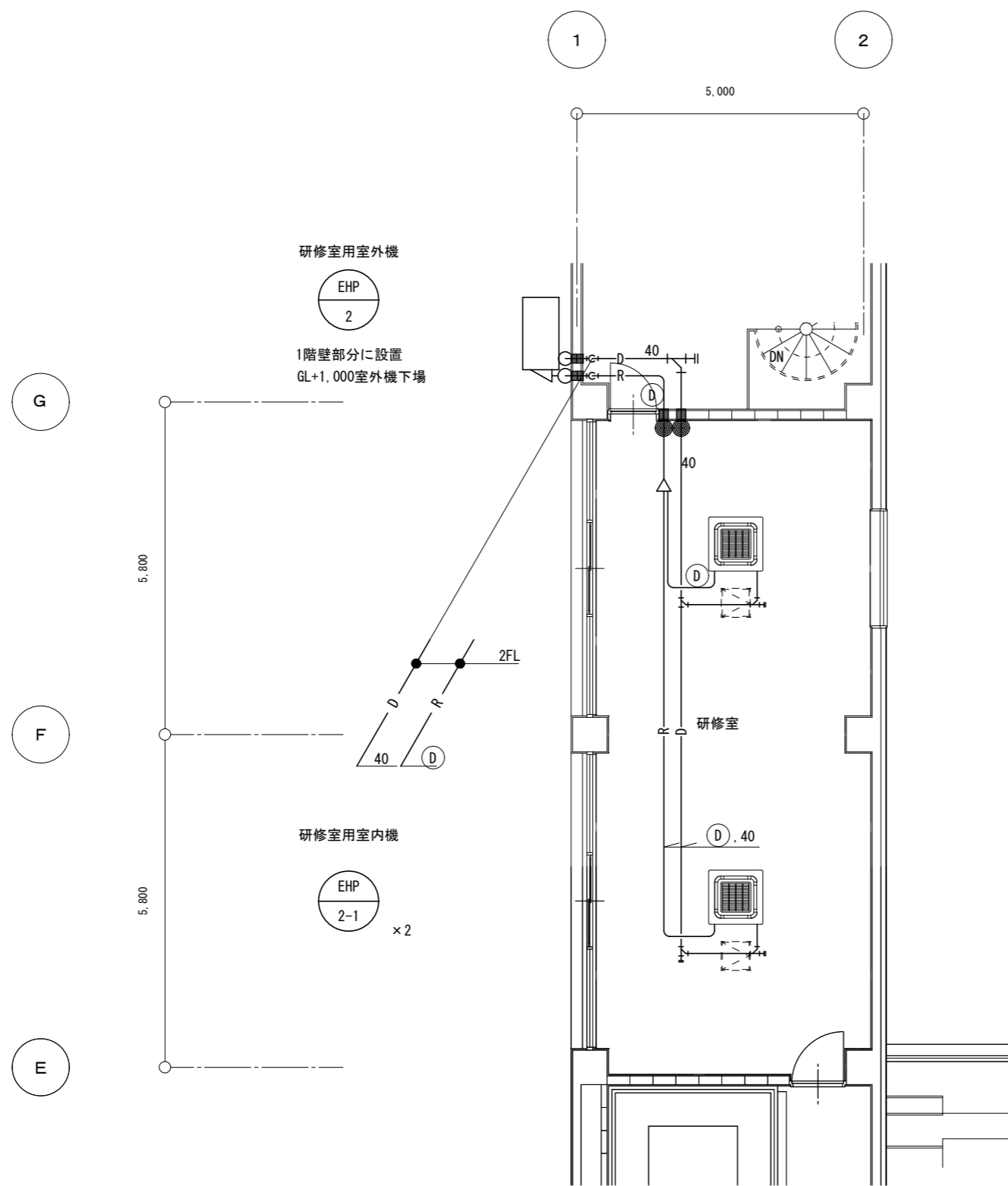
変更後

女子シャワー室	3
HS 100×100 (SUS製)	
60 CMH	
BOX (SUS製) 250×250×200H	

【吹抜き施工箇所】

160φ×150L ~ 8か所
 ・配管用コア穴明け部分については、
 非破壊検査を行い監督員の許可を得る事。

A エリア工事分



記号	冷媒サイズ
Ⓐ	6.4φ×9.5φ
Ⓑ	6.4φ×12.7φ
Ⓒ	9.5φ×12.7φ
Ⓓ	9.5φ×15.9φ
Ⓔ	9.5φ×19.1φ
Ⓕ	9.5φ×22.2φ
Ⓖ	9.5φ×25.4φ
Ⓗ	12.7φ×19.1φ
Ⓘ	12.7φ×22.2φ
Ⓙ	12.7φ×25.4φ
Ⓚ	12.7φ×28.6φ
Ⓛ	15.9φ×28.6φ
Ⓜ	15.9φ×31.8φ
Ⓝ	19.1φ×31.8φ
Ⓟ	19.1φ×38.1φ
Ⓔ	22.2φ×38.1φ

- 特記事項
- ・室内機の設置位置、及びリモコンのグループ分け、取付位置は監督員と協議の上決定する。
 - ・屋外露出配管部分はR Dカバー（高耐食製）を施す。
 - 防火区画貫通部は、日本消防設備安全センター評定品
国土交通大臣認定工法による区画処理を行う。
 - ・集中リモコンは、1階事務所設置とする。
 - ・個別リモコンは、室内設置とする。
 - Ⓜ 天井点検口450口（建築工事）を示す
 - ・区画処理材 国土交通大臣認定 PS060FL-9369（床）
 - ・国土交通大臣認定 PS060WL-0534（壁） PS060WL-0467（壁・中空壁）
 - Ⓧ 既存機器番号を示す
 - 配管用コア穴明け部分については、非破壊検査を行い監督員の許可を得る事。

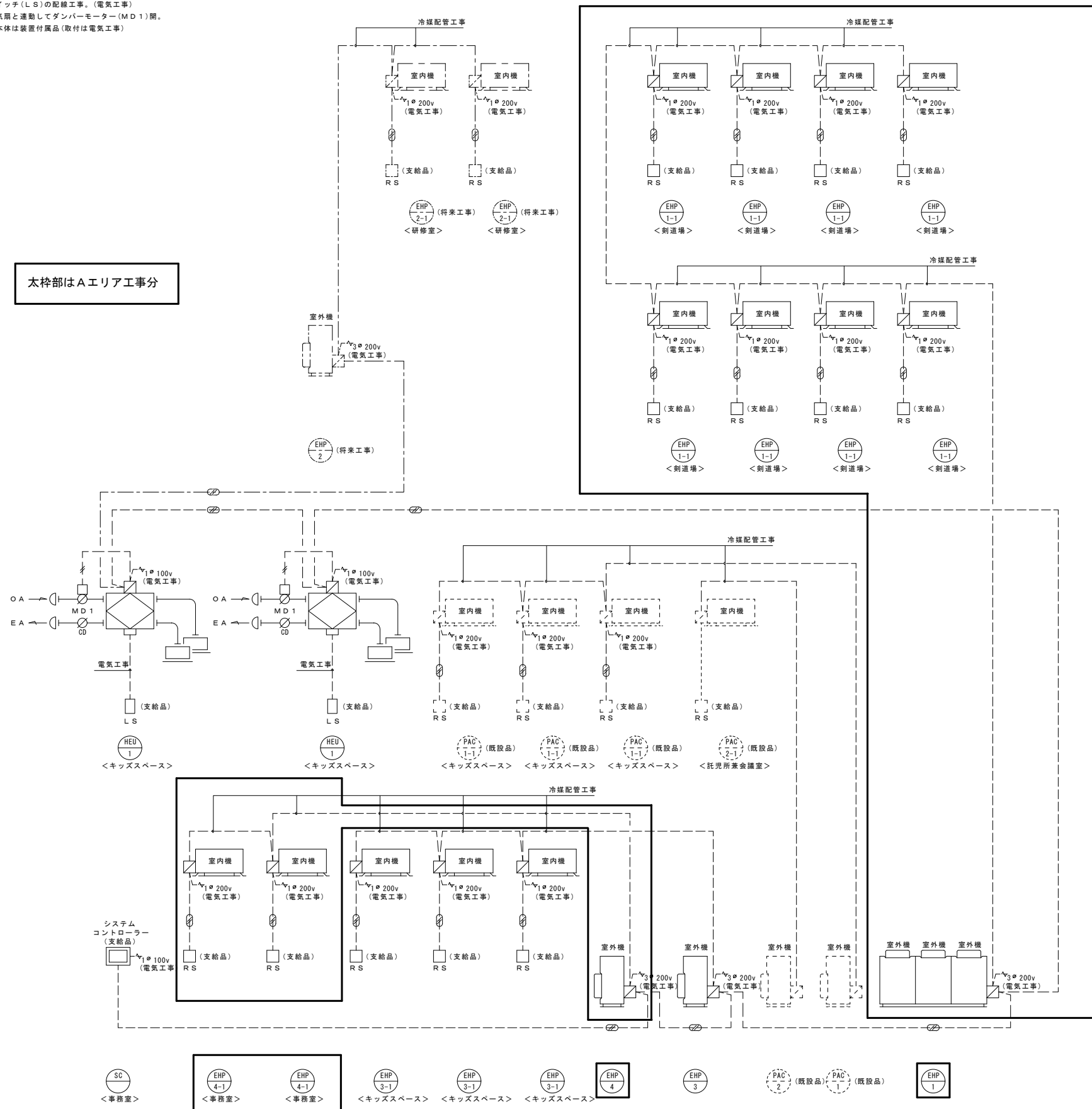
本図面は令和6年度以降

代表となる設計者: 太田 豊 一級建築士 216909号 (意匠) その他の設計者: 菅沼 秀樹 一級建築士 294080号 (意匠)	創造設計・アトリエバンク 設計共同企業体 代表者: (株) 創造設計舎 管理建築士: 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日	2023. 3.	工事名称	茅室町総合体育館改修工事	縮尺	A1:1/50 A3:1/100
		査 閲	校 正	担 当	図面名称	2階研修室詳細図 (将来工事)	図面番号

エアコン・空調換気扇廻り工事 1set

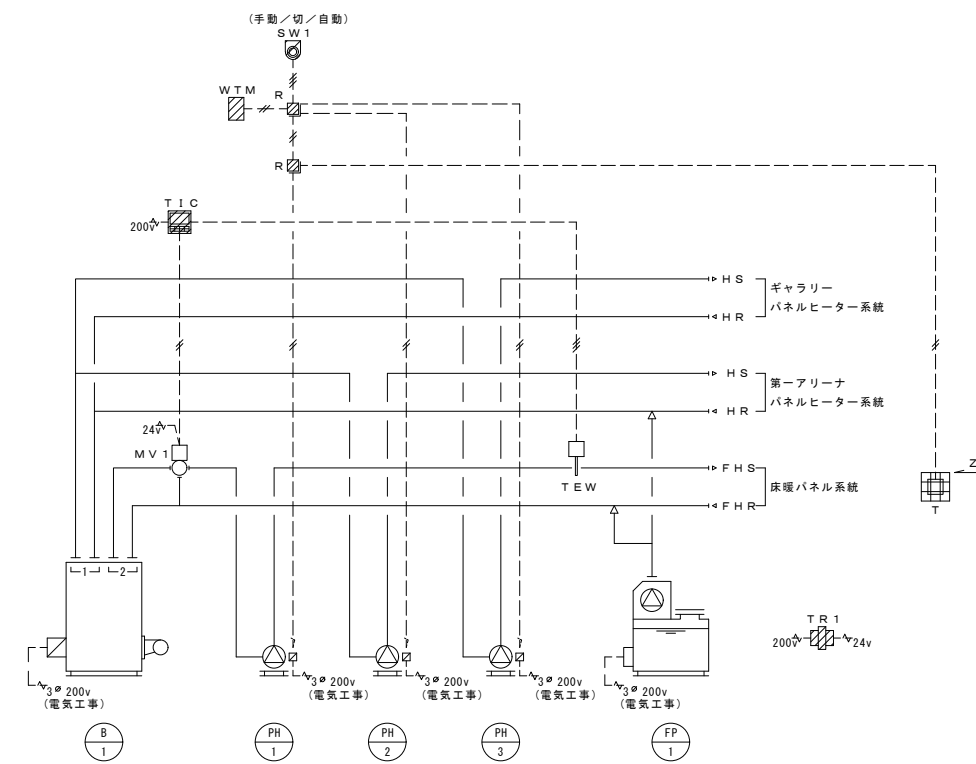
- <制御項目>
- ・システムコントローラー(S C)の配線工事。
- ・リモコンスイッチ(R S)の配線工事。
- ・室内機と室外機の渡り配線工事。(冷媒配管工事)
- ※ S C、R S 本体は装置付属品
- ・運転スイッチ(L S)の配線工事。(電気工事)
- ・空調換気扇と連動してダンパーモーター(M D 1)開。
- ※ L S 本体は装置付属品(取付は電気工事)

太枠部はAエリア工事分



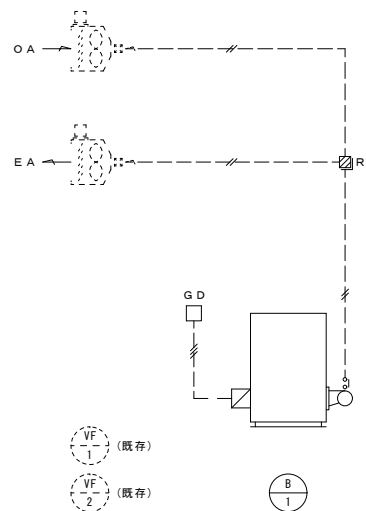
熱源制御 1set

- <制御項目>
- ・週間タイマー(W T M)で温水ポンプ発停制御。(S W 1で手動操作可)
- ・室内温度(T)で床暖パネル系統ポンプのハイカット制御。
- ・送水温度(T E W)で三方弁(M V 1)比例制御。



設備機械室換気制御 1set

- <制御項目>
- ・温水ボイラーのバーナー運転信号で、換気ファン運転による燃焼空気取り入れ制御。
- ・感震装置(G D)が地震感知時、温水ボイラー強制停止。



注記

- ▨ : 制御室内機器を示す。
- : 電源供給を示す。
- : 既設部分を示す。
- - - : 将来工事を示す。

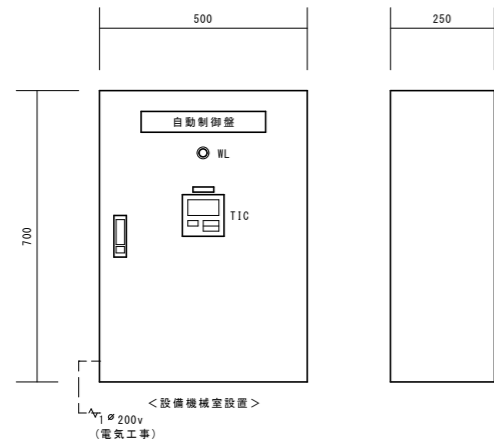
代表となる設計者: 太田 豊 一級建築士 216909号 (意匠)	創造設計・アトリエンク 設計共同企業体	設計年月日	2023. 3 .	工事名称	茅室町総合体育館改修工事	縮尺	NO SCALE
その他の設計者: 菅沼 秀樹 一級建築士 294080号 (意匠)		代表者: (株)創造設計舎 管理建築士: 一級建築士登録第216909号 太田 豊		2023. 3 .		図面名称	
		査 閲	校 正	担 当			

自動制御機器表

記号	名称	型番	備考
TIC	デジタル指示調節器	RPD500-1-GN	設定・指示共デジタル表示
TEW	送水温度検出器	QAE2111.015/ALT-SS150/GRA-1	
T	室内温度調節器	RAA21/ARG70	
Z	防球ガード		1個用
GD	感震装置		
MV1	電動三方弁	SKC62/VXF43...J	比例動作
MD1	ダンパーモーター	SFA	直結型 AC100v 2位置動作 スプリングリターン式
TR1	電源トランス		
WTM	週間タイマー		
SW1	切替スイッチ		手動/切/自動
R	補助リレー		

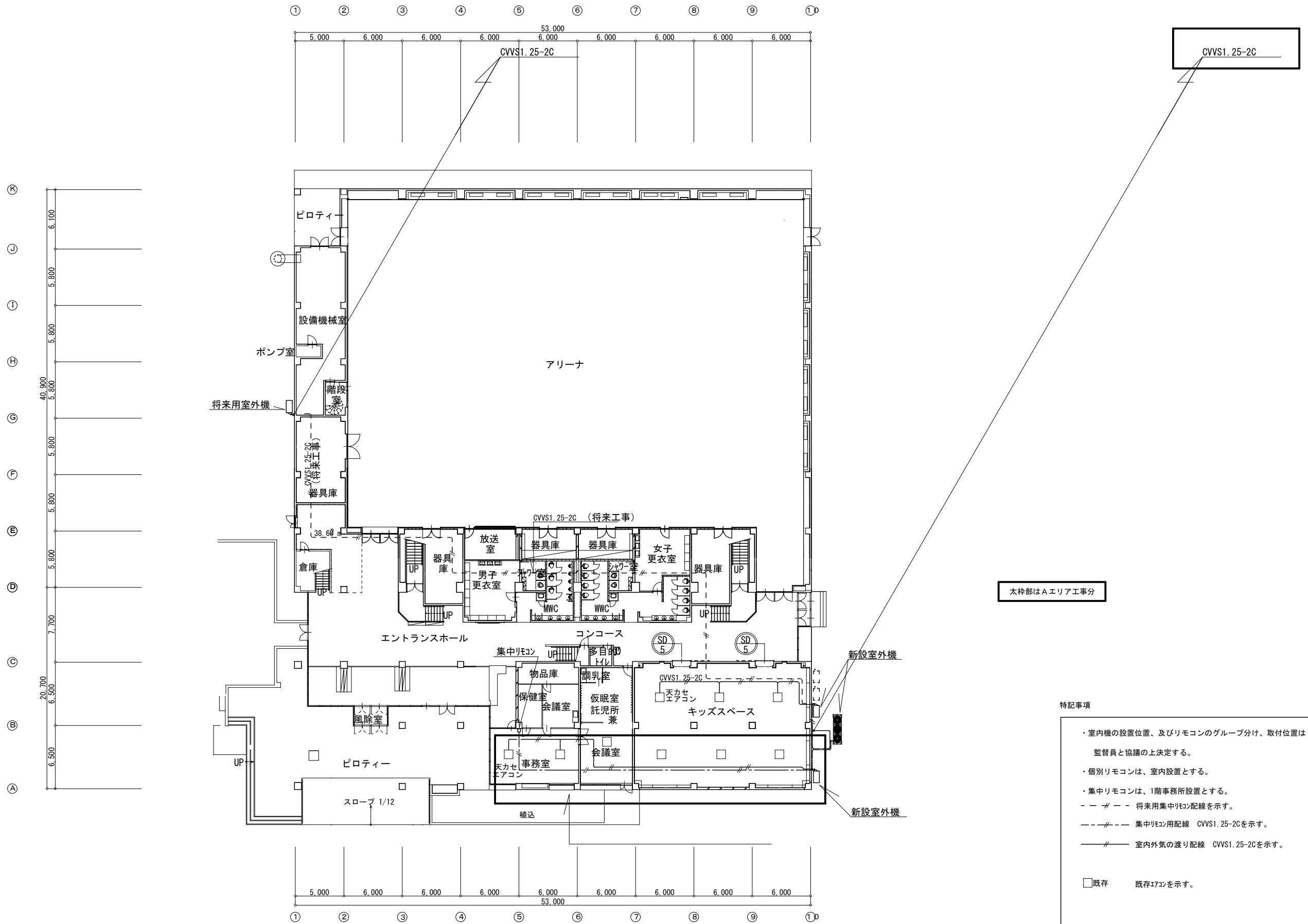
バルブ選定表

記号	系統名	型番	流体	流量	差圧	Kv	口径	備考
				l/min	kPa	m ³ /h		
MV1	熱源制御	SKC62/VXF43.80-100J	温水	400	30	43.9	80A	床暖バルブ



本図面は令和6年度以降

代表となる設計者: 太田 豊 一級建築士 216909号 (意匠) その他の設計者: 菅沼 秀樹 一級建築士 294080号 (意匠)	創造設計・アトリエブク 設計共同企業体 代表者: (株)創造設計舎 管理建築士: 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2023. 3 .			工事名称 芽室町総合体育館改修工事	縮尺 NO SCALE
		査 閲	校 正	担 当		



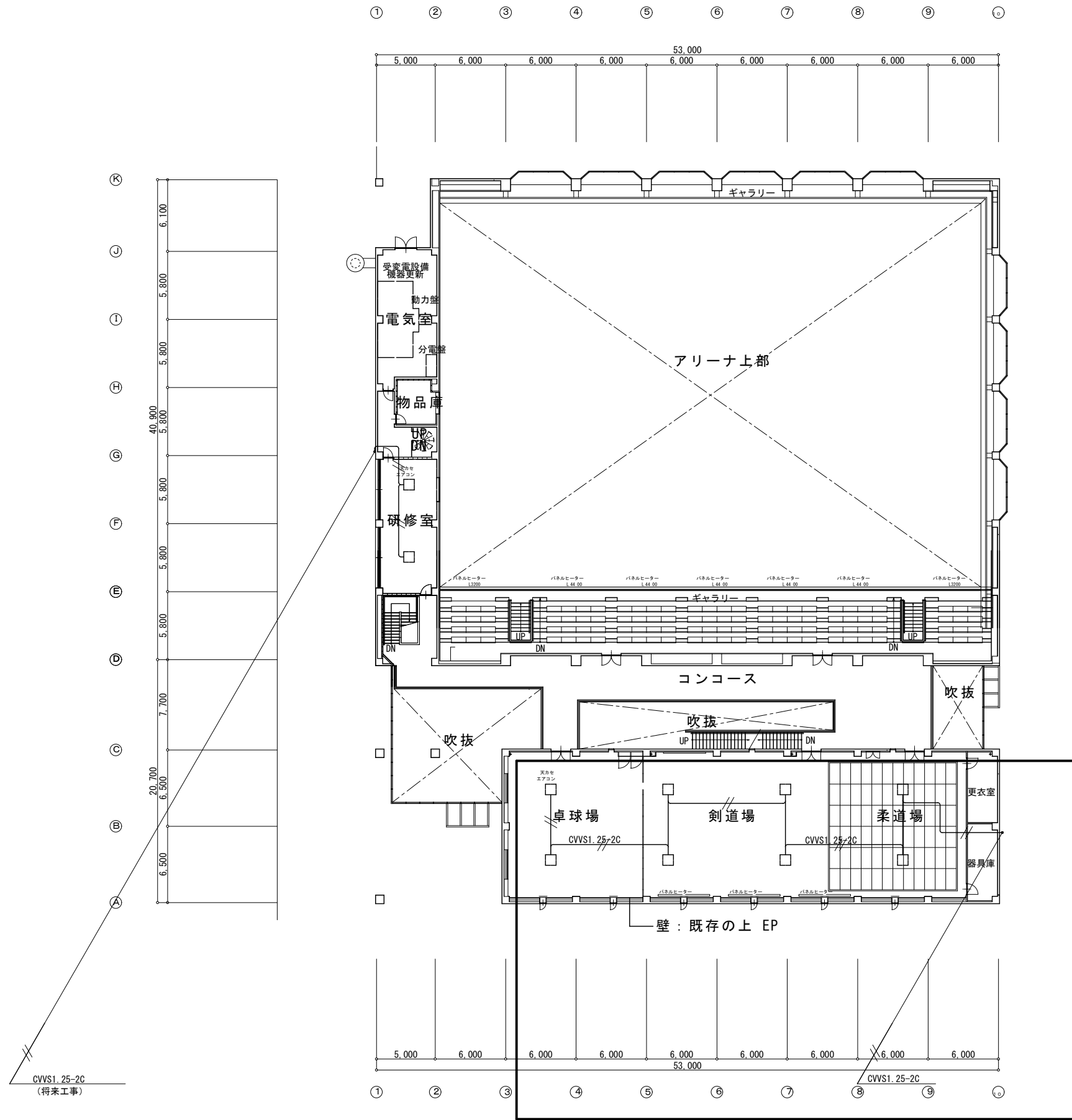
改修後平面図 1 : 400

特記事項

- ・室内機の設置位置、及びリモコンのグループ分け、取付位置は監督員と協議の上決定する。
- ・個別リモコンは、室内設置とする。
- ・集中リモコンは、1階事務所設置とする。
- - - 将来用集中リモコン配線を示す。
- - / - - 集中リモコン用配線 CVVS1.25-2Cを示す。
- /// 室内外気の渡り配線 CVVS1.25-2Cを示す。

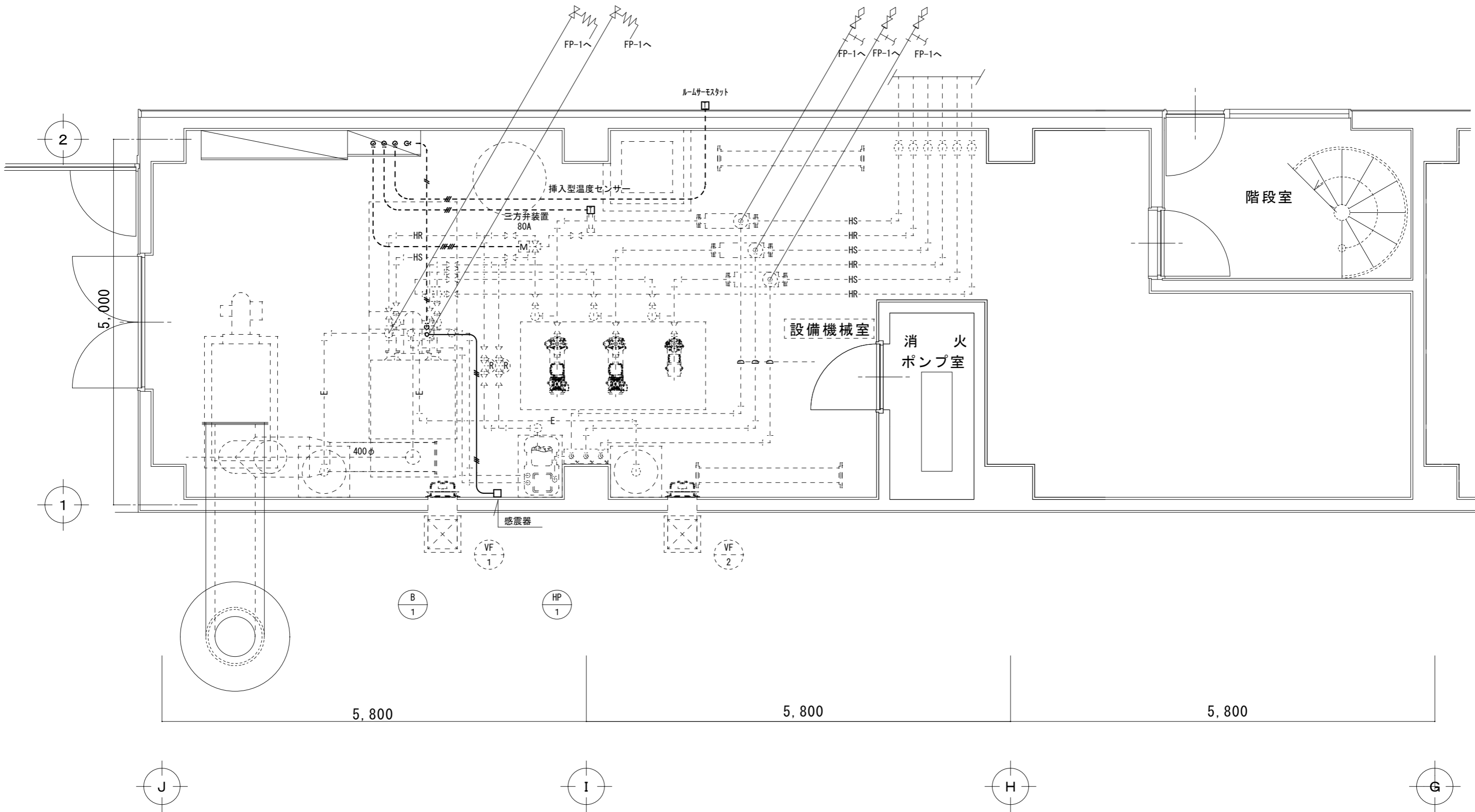
□ 既存 既存リモコンを示す。

代表となる設計者：太田 豊 一級建築士 その他の設計者：菅沼 秀樹 一級建築士	216909号 (意匠) 創造設計・アドリエブUNK 設計共同企業体 294080号 (意匠) 代表者：(株)創造設計舎 管理建築士：級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日	2023. 3 .	工事名称	芽室町総合体育館改修工事	縮尺	A1:1/100 A3:1/200
		査 閲	校 正	担 当	図面名称	自動制御設備設備 1階平面図	図 面 番 号



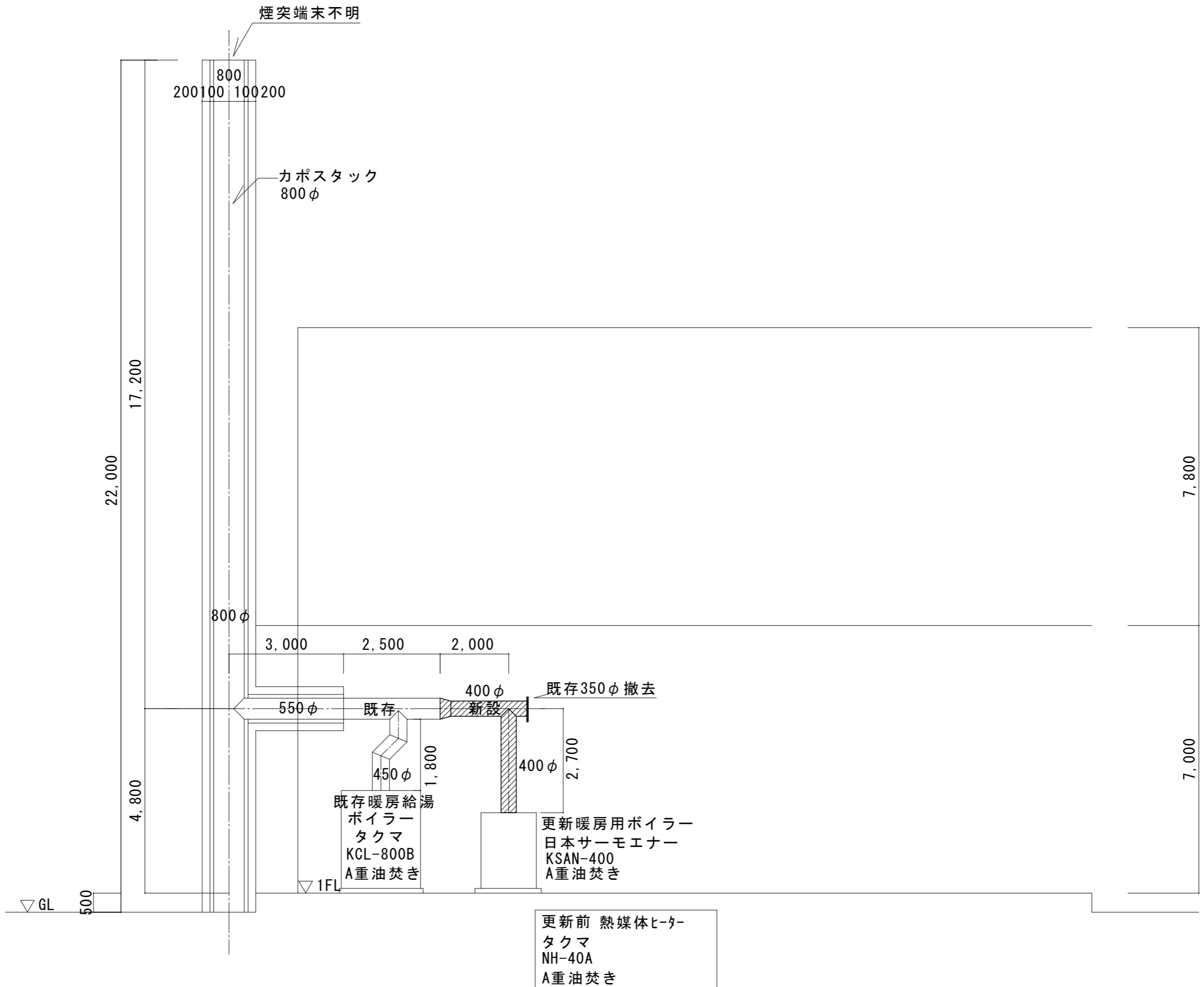
太枠部はAエリア工事分

代表となる設計者：太田 豊 一級建築士 216909号 (意匠) その他の設計者：菅沼 秀樹 一級建築士 294080号 (意匠)	創造設計・アトリエバンク 設計共同企業体 代表者：(株)創造設計舎 管理建築士：一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日	2023. 3 .	工事名称	芽室町総合体育館改修工事	縮尺	A1:1/100 A3:1/200
		査 閲 校 正 担 当		図面名称	自動制御設備 2階平面図	図面番号	M-123



本図面は令和6年度以降

代表となる設計者: 太田 豊 一級建築士 216909号 (意匠) その他の設計者: 菅沼 秀樹 一級建築士 294080号 (意匠)	創造設計・アトリエバンク 設計共同企業体 代表者: (株)創造設計舎 管理建築士: 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2023. 3 .			工事名称 茅室町総合体育館改修工事	縮尺 A1:1/25 A3:1/50
		査 閲	校 正	担 当		



本図面は令和6年度以降

代表となる設計者: 太田 豊 一級建築士 216909号 (意匠) その他の設計者: 菅沼 秀樹 一級建築士 294080号 (意匠)	創造設計・アトリエブク 設計共同企業体 代表者: (株) 創造設計舎 管理建築士: 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2023. 3 .			工事名称 芽室町総合体育館改修工事	縮尺 NO SCALE
		査 閲	校 正	担 当		

芽室町総合体育館改修工事

機械設備工事（Bエリア）

2023・03

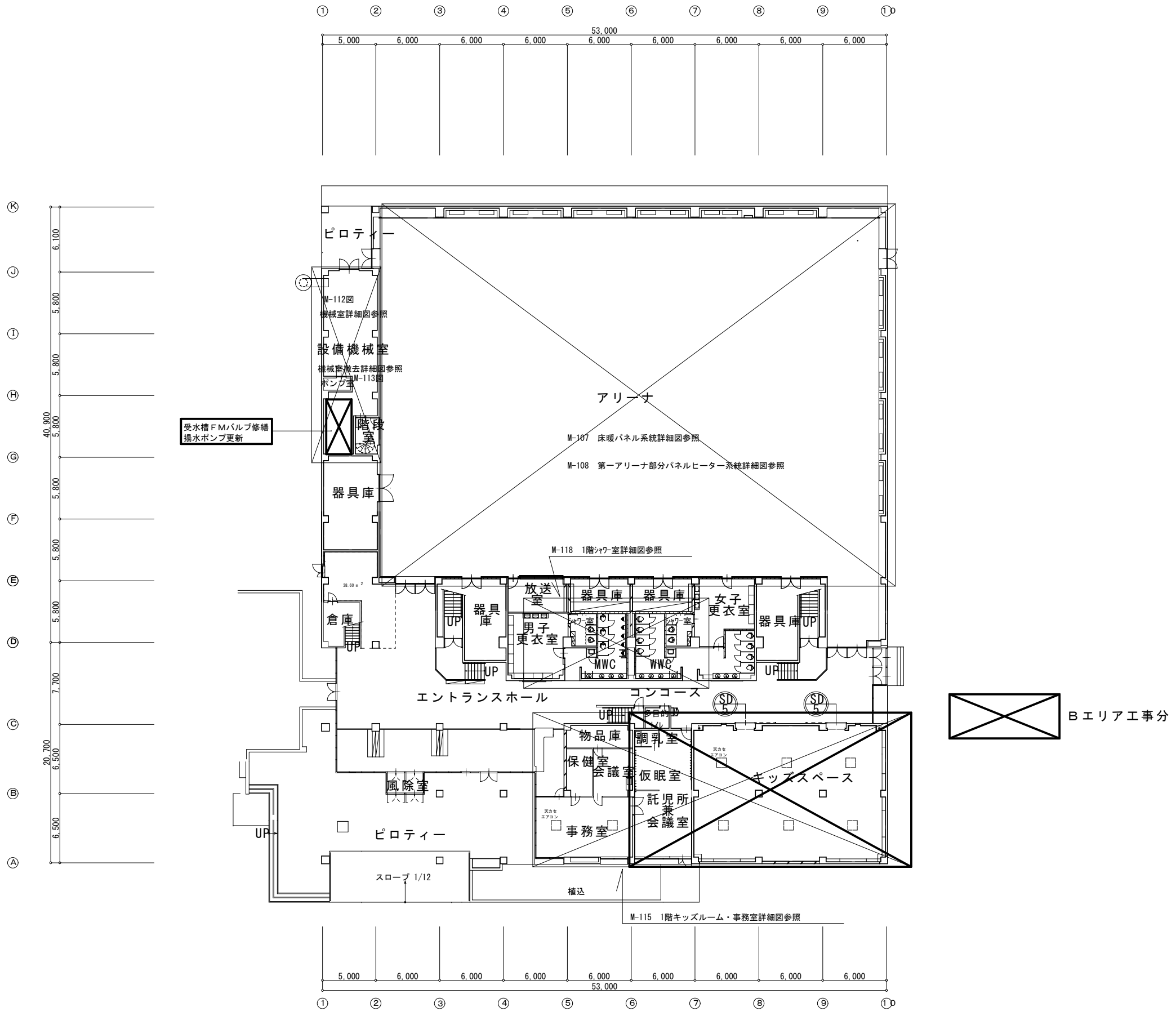
章 項目	特 記 事 項	章 項目	特 記 事 項	章 項目	特 記 事 項	章 項目	特 記 事 項	
● 工事概要	▶1. 工事種目	4) 冷暖装置	外 径 [6.35 9.52 12.70 ~ 50.80] 壁厚 製造者仕様	▶1. 冷暖房方式	方式 ○ 全空気 ○ 空気-水 ○ 全水 ○ 冷媒式 ○ 蒸気暖房 ○ 温水暖房 ○ 温風暖房 ○ 電気式 熱源 ○ 蒸気 ○ 温水 ○ 冷水 ○ 冷水 ○ 電気 ○ ガス ○ その他 () 国内機器表による 容量等の表示、機器能力、容量等(電動機出力は除く)は、原則として表示された数値以上とする	● 環境配慮	▶1. アスベストの処理工事	建物のアスベスト含有調査は、次による なお含有調査の結果、設計図書と異なる場合は、工事監督員と協議する ○含有調査: _____ヶ所(調査部位: _____) ○含有調査済: 含有建材等は、図面による 分析方法は、JIS A1481「建材製品中のアスベスト含有率測定法」とする 処理の工法 *除去工事(公共建築改修工事標準仕様書及び以下による) (9.1.1) 施工調査 *行う ○行わない (9.1.2 9.1.3) アスベスト粉じん濃度測定 *行う ○行わない (9.1.2)
	▶2. 設備	5) 排気筒	保温材 ● ロックウール ○ その他() 外装材 ○ カラー亜鉛鉄板 ○ アルミニウム板 ● ステンレス鋼板 ○ その他()	▶2. 主要熱源機器及び付属機器	▶3. ばい煙濃度計		○ 空調設備	1. 除去工事共通事項 (1) 作業主従事項 アスベスト含有建材の除去は、石綿作業主任者技能講習又は、平成18年3月以前の特 定化学物質等作業主任者技能講習を受けた者のうちから、アスベスト作業主任者を選任 し、必要な管理を行わせる (2) 除去作業者 アスベスト含有建材の除去に従事する作業者(以下「除去作業者」という)は、石綿障 害予防規則に基づく特別教育を受けた者とする また、除去作業者は、一般健康診断、石綿健康診断、じん肺健康診断を受診した者とし 、肺機能に異常がない者とする (3) 表示及び届出 施工範囲の出入口に、「アスベスト作業主任者名と職務の内容、関係者以外立入禁止、 喫煙・飲食の禁止、アスベスト作業中等」の表示を行う また、アスベストの有害性、取扱いの注意事項、使用すべき保護具の掲示を行う なお、掲示の種類は、次による ① 吹き付け等届出対象の場合の掲示
● 機械設備	▶1. 配管	6) 消音内貼り	施工方法は標準仕様書の当該事項による 施工箇所は図示したダクト及びチャンパー類とする 使用材料 ● グラスウール ○ その他() 厚さ ● 25mm/m ○ 50mm/m 消音内貼チャンパーの寸法は外注法とする ラス押え ○ 有() ● 無	▶3. 換気方式	方式 ● 換気扇 ● ダクト式機械換気 ● その他(全熱交換器)	● 環境配慮	② 成形板等の届出の必要が無い場合の掲示	建築物等の解体等の作業に関するお知らせ 当現場では、()労働基準監督署へ ○労働安全衛生法第88条第4項(労働安全衛生規則第90条第5項の2)の規定による計画の届出 ○石綿障害予防規則第5条第1項の規定による作業の届出 を行っています 届出年月日 令和 年 月 日 作業期間 令和 年 月 日~ 届出内容 令和 年 月 日 (石綿のばく露防止対策及び石綿粉じんの飛散防止対策の内容) 令和 年 月 日 石綿のばく露防止措置及び石綿粉じんの飛散防止措置の概要: 令和 年 月 日(表示日) (氏名)を石綿作業主任者に選任しています 施工事業者名: 石綿に係る特別教育を受講した者が作業を行っています 現場責任者氏名: 受講した特別教育: ○の実施した講習(平成 年 月受講) 連絡先: また、北海道知事()へ ○大気汚染防止法第18条第15項の規定による作業の届出を行っています 届出年月日 令和 年 月 日 届出先 届出者住所 届出者氏名
	▶2. 空調	7) 3. 塗装	イ. 屋内露出(室内環境対応・配産形塗料) 調査ペイント 但し、煙突は耐熱塗装とする。 ロ. 接合部 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント 蒸気管露出は、アルミニウムペイント 隠ぺいは、さび止めペイント ハ. 支持金物及び架台類 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント	▶4. 換気方式	方式 ● 換気扇 ● ダクト式機械換気 ● その他(全熱交換器)		● 環境配慮	③ アスベスト含有建材を使っていない場合
● 備 通 事 項	▶1. 配管材料	8) 4. 釘及び釘付商品	1) ダクト イ. 方式 ● 低速 ○ 高速 ○ その他() ロ. 工法 ○ アングルフランジ ○ 給 送 ○ コーナポルト (● 共板 ○ スライド) ● (差込) ハ. 種別 ● スパイラルダクト () ● 鉄板 () ● ビニル管 () ● その他 ()	▶5. 制御方式	▶1. 制御方式 ● 電気式 ○ 電子式 ○ デジタル式 ● 遠隔 ○ 温度 ○ その他() 表示による 国内機器表による 標準仕様書(第4編 第2章第4節及び第3章第2節)による	● 環境配慮	④ 2. アスベスト含有建材等使用の有無の調査	建築物等の解体等の作業に関するお知らせ 石綿障害予防規則に基づく石綿の使用の有無の調査を行った結果、当現場では石綿を使用 していません 調査方法 (調査年月日) 令和 年 月 日 作業期間 令和 年 月 日~ 届出年月日 令和 年 月 日 施工事業者名: 現場責任者氏名: 連絡先:
	▶2. 空調	9) 5. 制気口	2) チャンパー等 イ. 外壁に面するガラリに直接取付けるチャンパー、ホッパーには排水を設ける ロ. シーリングディフューザーには下記の接続ボックスを設ける イ) ネット径200φ以下 : 400×400×250H ロ) # 200φをこえるもの: 500×500×300H ハ. 接続出口には、下記の接続ボックスボックスを設ける イ) BL-S、BL-D : 200×(長さ+100)×300H ロ) BL-T、BL-K : 250×(長さ+100)×300H ニ. 天井付制気口には、特記なき場合(制気口寸法+100)×250Hの接続ボックスを設ける	▶6. 配管材料	▶1. 給湯方式		○ 水直送給湯方式 ○ 受水槽方式 (○ 上水 ○ 井水) ○ 圧力タンク方式 (○ 上水 ○ 井水) ○ ポンプ直送方式 (○ 上水 ○ 井水) 本等施工内容 ○ 既設フル棟引込み給湯配管を切り替え ○ 負担金(町負担) ○ 借用品 ○ 新品購入(水道管理者指定品) ○ 水道管理者指定品 ○ 国内規格品 イ. タンク容量(呼称容量: 24t 有効容量: 18t) ○ 本工事 ○ 建築工事 ロ. 河川処理水タンク() ○ 本工事 ○ 別途工事 ハ. 制御方法 ○ フロートスイッチ ○ ボールタップ・水位調整弁 ○ その他(電機)	● 環境配慮
● 備 通 事 項	▶3. 空調	10) 6. 貫通部の処理	1) 穴埋め 穴埋めは無収縮モルタル又はロックウール保温材で補修する なお、ロックウール保温材の場合は脱脂防止の措置を施す 2) 防水区画の処理 イ. 不燃材料の配管で貫通する場合は、その隙間をモルタル又はロックウール保温材で埋める ロ. 不燃材料以外の配管で貫通する場合は、建築基準法に適合する工法とする イ. インサート金物は、吊りボルトに対し、適正サイズのものを選定する ロ. 断熱材使用箇所におけるインサート金物は、断熱インサート金物とする ハ. 吊り用ボルトは、ヒット内及び床下は被覆金ねじ又は丸鋼とする	▶7. 給湯装置	▶1. 給湯方式	● 環境配慮	⑥ 4. アスベスト含有建材等使用の有無の調査	建築物等の解体等の作業に関するお知らせ 石綿障害予防規則に基づく石綿の使用の有無の調査を行った結果、当現場では石綿を使用 していません 調査方法 (調査年月日) 令和 年 月 日 作業期間 令和 年 月 日~ 届出年月日 令和 年 月 日 施工事業者名: 現場責任者氏名: 連絡先:
	▶4. 空調	11) 7. 吊り及び支持	3) 防雪フード イ. 材質 ステンレス鋼板製 (○ SUS430 ○ SUS304 ○ その他()) ロ. 板厚 (1.0) mm/m	▶8. 給湯装置	▶2. 給湯方式		● 環境配慮	⑦ 5. アスベスト含有建材等使用の有無の調査
● 備 通 事 項	▶5. 空調	12) 8. スリーブ	4) 排気フード イ. 材質 ステンレス鋼板製 ○ SUS430 ○ SUS304 ○ 別途工事	▶9. 給湯装置	▶3. 給湯方式	● 環境配慮	⑧ 6. アスベスト含有建材等使用の有無の調査	建築物等の解体等の作業に関するお知らせ 石綿障害予防規則に基づく石綿の使用の有無の調査を行った結果、当現場では石綿を使用 していません 調査方法 (調査年月日) 令和 年 月 日 作業期間 令和 年 月 日~ 届出年月日 令和 年 月 日 施工事業者名: 現場責任者氏名: 連絡先:
	▶6. 空調	13) 9. 折り及び穴あけ	5) セルフード 材質 ● ステンレス製 ○ アルミニウム製 ● その他(色指定あり)	▶10. 給湯装置	▶4. 給湯方式		● 環境配慮	⑨ 7. アスベスト含有建材等使用の有無の調査
● 備 通 事 項	▶7. 空調	14) 10. 耐震措置	6) 風量測定口 取付箇所 1. 特記した風量調整ダンパーの上流又は下流 2. 送排風機、空調機に近接した風道の部分 3. 外気取入風道の部分 4. その他指定部分	▶11. 給湯装置	▶5. 給湯方式	● 環境配慮	⑩ 8. アスベスト含有建材等使用の有無の調査	建築物等の解体等の作業に関するお知らせ 石綿障害予防規則に基づく石綿の使用の有無の調査を行った結果、当現場では石綿を使用 していません 調査方法 (調査年月日) 令和 年 月 日 作業期間 令和 年 月 日~ 届出年月日 令和 年 月 日 施工事業者名: 現場責任者氏名: 連絡先:
	▶8. 空調	15) 11. 総合調整	7) 8. スリーブ 紙製又は木材を使用し、外壁の地中部分等水密を要する部分はつば付管を使用する	▶12. 給湯装置	▶6. 給湯方式		● 環境配慮	⑪ 9. アスベスト含有建材等使用の有無の調査
● 備 通 事 項	▶9. 空調	16) 12. 仮設工事	8) 9. 折り及び穴あけ 既存のコンクリート床、壁等の配管貫通部の穴あけは、原則として、 ダイヤモンドカッターによる 口径は、原則として管の外径(保温されるものにあつては保温材の厚さを含む)より 20mm程度大きなものとする	▶13. 給湯装置	▶7. 給湯方式	● 環境配慮	⑫ 10. アスベスト含有建材等使用の有無の調査	建築物等の解体等の作業に関するお知らせ 石綿障害予防規則に基づく石綿の使用の有無の調査を行った結果、当現場では石綿を使用 していません 調査方法 (調査年月日) 令和 年 月 日 作業期間 令和 年 月 日~ 届出年月日 令和 年 月 日 施工事業者名: 現場責任者氏名: 連絡先:
	▶10. 空調	17) 13. 土工事	9) 10. 耐震措置 「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」(日本建築センター発行)に基づき、 耐震施工を行う ● 特定の施設 ○ 一般の施設	▶14. 給湯装置	▶8. 給湯方式		● 環境配慮	⑬ 11. アスベスト含有建材等使用の有無の調査
● 備 通 事 項	▶11. 空調	18) 14. 地業工事	10) 11. 総合調整 穴埋めは無収縮モルタル又はロックウール保温材で補修する なお、ロックウール保温材の場合は脱脂防止の措置を施す イ. 不燃材料の配管で貫通する場合は、その隙間をモルタル又はロックウール保温材で埋める ロ. 不燃材料以外の配管で貫通する場合は、建築基準法に適合する工法とする イ. インサート金物は、吊りボルトに対し、適正サイズのものを選定する ロ. 断熱材使用箇所におけるインサート金物は、断熱インサート金物とする ハ. 吊り用ボルトは、ヒット内及び床下は被覆金ねじ又は丸鋼とする	▶15. 給湯装置	▶9. 給湯方式	● 環境配慮	⑭ 12. アスベスト含有建材等使用の有無の調査	建築物等の解体等の作業に関するお知らせ 石綿障害予防規則に基づく石綿の使用の有無の調査を行った結果、当現場では石綿を使用 していません 調査方法 (調査年月日) 令和 年 月 日 作業期間 令和 年 月 日~ 届出年月日 令和 年 月 日 施工事業者名: 現場責任者氏名: 連絡先:
	▶12. 空調	19) 15. コンクリート工事	11) 12. 仮設工事 構内既存の施設 ● 利用できる (● 有償 無償) * 利用できない 構内既存の施設 ● 利用できる (● 有償 無償) * 利用できない 別契約の関係請負者の設置する足場、浅槽の種類は、無償で使用できる	▶16. 給湯装置	▶10. 給湯方式		● 環境配慮	⑮ 13. アスベスト含有建材等使用の有無の調査
● 備 通 事 項	▶13. 空調	20) 16. 使用材料	12) 13. 土工事 * 山砂の種類 ○ 良質土 ○ その他 * 掘削土の良質土 ○ 山砂の種類 掘り出し (約 km 捨て場所 捨て土均し (○ 有り ○ 無し) ○ 構内敷均し ○ 構内指示の場所に堆積 ○ 構外敷均し ○ 処理費 * 有償 ○ 無償	▶17. 給湯装置	▶11. 給湯方式	● 環境配慮	⑯ 14. アスベスト含有建材等使用の有無の調査	建築物等の解体等の作業に関するお知らせ 石綿障害予防規則に基づく石綿の使用の有無の調査を行った結果、当現場では石綿を使用 していません 調査方法 (調査年月日) 令和 年 月 日 作業期間 令和 年 月 日~ 届出年月日 令和 年 月 日 施工事業者名: 現場責任者氏名: 連絡先:
	▶14. 空調	21) 17. 機器類	13) 14. 地業工事 * 再生クラッシュ ○ 切込砂利 ○ 切込砕石 砂利地業の厚さ * 100mm以上 ○ mm () JIS A5001(道路用砕石) C-40程度	▶18. 給湯装置	▶12. 給湯方式		● 環境配慮	⑰ 15. アスベスト含有建材等使用の有無の調査
● 備 通 事 項	▶15. 空調	22) 18. 機器類	14) 15. コンクリート工事 1) コンクリート強度 機器類基礎等のコンクリート強度、鉄筋 強 度 ○ 16N/mm ² ○ 18N/mm ² ○ 21N/mm ² スランプ cm 施工箇所	▶19. 給湯装置	▶13. 給湯方式	● 環境配慮	⑱ 16. アスベスト含有建材等使用の有無の調査	建築物等の解体等の作業に関するお知らせ 石綿障害予防規則に基づく石綿の使用の有無の調査を行った結果、当現場では石綿を使用 していません 調査方法 (調査年月日) 令和 年 月 日 作業期間 令和 年 月 日~ 届出年月日 令和 年 月 日 施工事業者名: 現場責任者氏名: 連絡先:
	▶16. 空調	23) 19. 機器類	15) 16. 使用材料 使用する機材は本仕様書のメーカーリストによる ● メーカーリスト(下記同等品以上) 機 器 名 指 定 定 製 造 所 電気式1770(HIP) ダイキン工業株式会社 三菱電機(株) 日立製作所(株) 真空温水機 株式会社モリタ 昭和電工(株) 前田鉄工機 株式会社 床暖房パネル 長野製作所 パネルヒーター P3000 旭イノベーション 電気暖房器 (株)イナベ社 (株)ホクエイ 換気扇類 三菱電機(株) パナソニック(株)	▶20. 給湯装置	▶14. 給湯方式		● 環境配慮	⑳ 17. アスベスト含有建材等使用の有無の調査
● 備 通 事 項	▶17. 空調	24) 20. 機器類	16) 17. 機器類 イ. 屋内露出(室内環境対応・配産形塗料) 調査ペイント 但し、煙突は耐熱塗装とする。 ロ. 接合部 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント 蒸気管露出は、アルミニウムペイント 隠ぺいは、さび止めペイント ハ. 支持金物及び架台類 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント	▶21. 給湯装置	▶15. 給湯方式	● 環境配慮	㉑ 18. アスベスト含有建材等使用の有無の調査	建築物等の解体等の作業に関するお知らせ 石綿障害予防規則に基づく石綿の使用の有無の調査を行った結果、当現場では石綿を使用 していません 調査方法 (調査年月日) 令和 年 月 日 作業期間 令和 年 月 日~ 届出年月日 令和 年 月 日 施工事業者名: 現場責任者氏名: 連絡先:
	▶18. 空調	25) 21. 機器類	17) 18. 機器類 イ. 屋内露出(室内環境対応・配産形塗料) 調査ペイント 但し、煙突は耐熱塗装とする。 ロ. 接合部 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント 蒸気管露出は、アルミニウムペイント 隠ぺいは、さび止めペイント ハ. 支持金物及び架台類 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント	▶22. 給湯装置	▶16. 給湯方式		● 環境配慮	㉒ 19. アスベスト含有建材等使用の有無の調査
● 備 通 事 項	▶19. 空調	26) 22. 機器類	18) 19. 機器類 イ. 屋内露出(室内環境対応・配産形塗料) 調査ペイント 但し、煙突は耐熱塗装とする。 ロ. 接合部 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント 蒸気管露出は、アルミニウムペイント 隠ぺいは、さび止めペイント ハ. 支持金物及び架台類 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント	▶23. 給湯装置	▶17. 給湯方式	● 環境配慮	㉓ 20. アスベスト含有建材等使用の有無の調査	建築物等の解体等の作業に関するお知らせ 石綿障害予防規則に基づく石綿の使用の有無の調査を行った結果、当現場では石綿を使用 していません 調査方法 (調査年月日) 令和 年 月 日 作業期間 令和 年 月 日~ 届出年月日 令和 年 月 日 施工事業者名: 現場責任者氏名: 連絡先:
	▶20. 空調	27) 23. 機器類	19) 20. 機器類 イ. 屋内露出(室内環境対応・配産形塗料) 調査ペイント 但し、煙突は耐熱塗装とする。 ロ. 接合部 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント 蒸気管露出は、アルミニウムペイント 隠ぺいは、さび止めペイント ハ. 支持金物及び架台類 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント	▶24. 給湯装置	▶18. 給湯方式		● 環境配慮	㉔ 21. アスベスト含有建材等使用の有無の調査
● 備 通 事 項	▶21. 空調	28) 24. 機器類	20) 21. 機器類 イ. 屋内露出(室内環境対応・配産形塗料) 調査ペイント 但し、煙突は耐熱塗装とする。 ロ. 接合部 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント 蒸気管露出は、アルミニウムペイント 隠ぺいは、さび止めペイント ハ. 支持金物及び架台類 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント	▶25. 給湯装置	▶19. 給湯方式	● 環境配慮	㉕ 22. アスベスト含有建材等使用の有無の調査	建築物等の解体等の作業に関するお知らせ 石綿障害予防規則に基づく石綿の使用の有無の調査を行った結果、当現場では石綿を使用 していません 調査方法 (調査年月日) 令和 年 月 日 作業期間 令和 年 月 日~ 届出年月日 令和 年 月 日 施工事業者名: 現場責任者氏名: 連絡先:
	▶22. 空調	29) 25. 機器類	21) 22. 機器類 イ. 屋内露出(室内環境対応・配産形塗料) 調査ペイント 但し、煙突は耐熱塗装とする。 ロ. 接合部 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント 蒸気管露出は、アルミニウムペイント 隠ぺいは、さび止めペイント ハ. 支持金物及び架台類 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント	▶26. 給湯装置	▶20. 給湯方式		● 環境配慮	㉖ 23. アスベスト含有建材等使用の有無の調査
● 備 通 事 項	▶23. 空調	30) 26. 機器類	22) 23. 機器類 イ. 屋内露出(室内環境対応・配産形塗料) 調査ペイント 但し、煙突は耐熱塗装とする。 ロ. 接合部 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント 蒸気管露出は、アルミニウムペイント 隠ぺいは、さび止めペイント ハ. 支持金物及び架台類 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント	▶27. 給湯装置	▶21. 給湯方式	● 環境配慮	㉗ 24. アスベスト含有建材等使用の有無の調査	建築物等の解体等の作業に関するお知らせ 石綿障害予防規則に基づく石綿の使用の有無の調査を行った結果、当現場では石綿を使用 していません 調査方法 (調査年月日) 令和 年 月 日 作業期間 令和 年 月 日~ 届出年月日 令和 年 月 日 施工事業者名: 現場責任者氏名: 連絡先:
	▶24. 空調	31) 27. 機器類	23) 24. 機器類 イ. 屋内露出(室内環境対応・配産形塗料) 調査ペイント 但し、煙突は耐熱塗装とする。 ロ. 接合部 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント 蒸気管露出は、アルミニウムペイント 隠ぺいは、さび止めペイント ハ. 支持金物及び架台類 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント	▶28. 給湯装置	▶22. 給湯方式		● 環境配慮	㉘ 25. アスベスト含有建材等使用の有無の調査
● 備 通 事 項	▶25. 空調	32) 28. 機器類	24) 25. 機器類 イ. 屋内露出(室内環境対応・配産形塗料) 調査ペイント 但し、煙突は耐熱塗装とする。 ロ. 接合部 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント 蒸気管露出は、アルミニウムペイント 隠ぺいは、さび止めペイント ハ. 支持金物及び架台類 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント	▶29. 給湯装置	▶23. 給湯方式	● 環境配慮	㉙ 26. アスベスト含有建材等使用の有無の調査	建築物等の解体等の作業に関するお知らせ 石綿障害予防規則に基づく石綿の使用の有無の調査を行った結果、当現場では石綿を使用 していません 調査方法 (調査年月日) 令和 年 月 日 作業期間 令和 年 月 日~ 届出年月日 令和 年 月 日 施工事業者名: 現場責任者氏名: 連絡先:
	▶26. 空調	33) 29. 機器類	25) 26. 機器類 イ. 屋内露出(室内環境対応・配産形塗料) 調査ペイント 但し、煙突は耐熱塗装とする。 ロ. 接合部 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント 蒸気管露出は、アルミニウムペイント 隠ぺいは、さび止めペイント ハ. 支持金物及び架台類 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント	▶30. 給湯装置	▶24. 給湯方式		● 環境配慮	㉚ 27. アスベスト含有建材等使用の有無の調査
● 備 通 事 項	▶27. 空調	34) 30. 機器類	26) 27. 機器類 イ. 屋内露出(室内環境対応・配産形塗料) 調査ペイント 但し、煙突は耐熱塗装とする。 ロ. 接合部 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント 蒸気管露出は、アルミニウムペイント 隠ぺいは、さび止めペイント ハ. 支持金物及び架台類 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント	▶31. 給湯装置	▶25. 給湯方式	● 環境配慮	㉛ 28. アスベスト含有建材等使用の有無の調査	建築物等の解体等の作業に関するお知らせ 石綿障害予防規則に基づく石綿の使用の有無の調査を行った結果、当現場では石綿を使用 していません 調査方法 (調査年月日) 令和 年 月 日 作業期間 令和 年 月 日~ 届出年月日 令和 年 月 日 施工事業者名: 現場責任者氏名: 連絡先:
	▶28. 空調	35) 31. 機器類	27) 28. 機器類 イ. 屋内露出(室内環境対応・配産形塗料) 調査ペイント 但し、煙突は耐熱塗装とする。 ロ. 接合部 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント 蒸気管露出は、アルミニウムペイント 隠ぺいは、さび止めペイント ハ. 支持金物及び架台類 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント	▶32. 給湯装置	▶26. 給湯方式		● 環境配慮	㉜ 29. アスベスト含有建材等使用の有無の調査
● 備 通 事 項	▶29. 空調	36) 32. 機器類	28) 29. 機器類 イ. 屋内露出(室内環境対応・配産形塗料) 調査ペイント 但し、煙突は耐熱塗装とする。 ロ. 接合部 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント 蒸気管露出は、アルミニウムペイント 隠ぺいは、さび止めペイント ハ. 支持金物及び架台類 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント	▶33. 給湯装置	▶27. 給湯方式	● 環境配慮	㉝ 30. アスベスト含有建材等使用の有無の調査	建築物等の解体等の作業に関するお知らせ 石綿障害予防規則に基づく石綿の使用の有無の調査を行った結果、当現場では石綿を使用 していません 調査方法 (調査年月日) 令和 年 月 日 作業期間 令和 年 月 日~ 届出年月日 令和 年 月 日 施工事業者名: 現場責任者氏名: 連絡先:
	▶30. 空調	37) 33. 機器類	29) 30. 機器類 イ. 屋内露出(室内環境対応・配産形塗料) 調査ペイント 但し、煙突は耐熱塗装とする。 ロ. 接合部 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント 蒸気管露出は、アルミニウムペイント 隠ぺいは、さび止めペイント ハ. 支持金物及び架台類 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント	▶34. 給湯装置	▶28. 給湯方式		● 環境配慮	㉞ 31. アスベスト含有建材等使用の有無の調査
● 備 通 事 項	▶31. 空調	38) 34. 機器類	30) 31. 機器類 イ. 屋内露出(室内環境対応・配産形塗料) 調査ペイント 但し、煙突は耐熱塗装とする。 ロ. 接合部 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント 蒸気管露出は、アルミニウムペイント 隠ぺいは、さび止めペイント ハ. 支持金物及び架台類 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント	▶35. 給湯装置	▶29. 給湯方式	● 環境配慮	㉟ 32. アスベスト含有建材等使用の有無の調査	建築物等の解体等の作業に関するお知らせ 石綿障害予防規則に基づく石綿の使用の有無の調査を行った結果、当現場では石綿を使用 していません 調査方法 (調査年月日) 令和 年 月 日 作業期間 令和 年 月 日~ 届出年月日 令和 年 月 日 施工事業者名: 現場責任者氏名: 連絡先:
	▶32. 空調	39) 35. 機器類	31) 32. 機器類 イ. 屋内露出(室内環境対応・配産形塗料) 調査ペイント 但し、煙突は耐熱塗装とする。 ロ. 接合部 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント 蒸気管露出は、アルミニウムペイント 隠ぺいは、さび止めペイント ハ. 支持金物及び架台類 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント	▶36. 給湯装置	▶30. 給湯方式		● 環境配慮	㊱ 33. アスベスト含有建材等使用の有無の調査
● 備 通 事 項	▶33. 空調	40) 36. 機器類	32) 33. 機器類 イ. 屋内露出(室内環境対応・配産形塗料) 調査ペイント 但し、煙突は耐熱塗装とする。 ロ. 接合部 ● 調査ペイント ○ アルミニウムペイント 蒸気管露出は、アルミニウムペイント 隠ぺいは、さび					

本棟機器はBエリア工事分

記号	名称	仕様	数量	動力			設置場所	基礎	備考
				相(φ)	電圧(V)	動力(kw)			
B-1	アリーナ暖房用ボイラー	型式：真空式2回路型、缶体出力：465KW/H 暖房能力：179,000kcal/H(温水温度40℃→30℃) 暖房能力：229,000kcal/H(温水温度65℃→75℃) バーナー：A重油焚(51.8L/H)	1	3	200	2.08	1階機械室	標準基礎(A) H=150	タクマKSAN-400 一括故障表示端子付
HP-1	温水循環ポンプ	渦巻きポンプ：80φ×400L/min×20m 防振架台、不凍液対応型	1	3	200	3.7	1階機械室	標準基礎(A) H=150	床暖パネル系統
HP-2	温水循環ポンプ	渦巻きポンプ：65φ×300L/min×20m 防振架台、不凍液対応型	1	3	200	3.7	1階機械室	標準基礎(A) H=150	第一アリーナーパネルヒーター系統
HP-3	温水循環ポンプ	渦巻きポンプ：32φ×100L/min×20m 防振架台、不凍液対応型	1	3	200	2.2	1階機械室	標準基礎(A) H=150	ギャラリーパーネルヒーター系統
FP-1	不凍液注入ポンプ	受水槽付小型定圧給水ポンプ、単独運転型 2.5φ×25L/min×20m 受水槽FRP製500L	1	3	200	0.4	1階機械室	標準基礎(A) H=150	不凍液系統
EXT-1	膨張タンク	型式：密閉式、最高使用圧力：0.6kg/m ² 最大吸収量：109L、タンク容量：215L	1				1階機械室	標準基礎(A) H=150	床暖パネル系統
EXT-2	膨張タンク	型式：密閉式、最高使用圧力：0.6kg/m ² 最大吸収量：66L、タンク容量：130L	1				1階機械室	標準基礎(A) H=150	パネルヒーター系統
SM-1	ばい煙濃度計	投光器、受光器(ファン付)	1				1階機械室		既存再使用
AS-1	汽水分離機	防蝕サイレンサー 口径80A、自動17-抜き弁共 空調用	1				1階機械室		床暖パネル系統
AS-2	汽水分離機	防蝕サイレンサー 口径65A、自動17-抜き弁共 空調用	1				1階機械室		第一アリーナーパネルヒーター系統
AS-3	汽水分離機	防蝕サイレンサー 口径40A、自動17-抜き弁共 空調用	1				1階機械室		ギャラリーパーネルヒーター系統
YP-1	床暖パネル	ゴムチップパネル 放熱能力2,080W/m ² 放熱器循環水量4.0L/min 12.17L/枚	100				第一アリーナ		床暖パネル系統
PH-1	パネルヒーター	暖房能力10,313W 1,400×2,500×164D 自立型金物、壁固定金物、サーモバルブ共 防球ネット(建築工事)	20				第一アリーナ		第一アリーナーパネルヒーター系統
PH-2	パネルヒーター	暖房能力1,437W 3,500×218H×57D 自立型、サーモバルブ、保護カバー共	10				ギャラリ		ギャラリーパーネルヒーター系統
PH-3	パネルヒーター	暖房能力1,848W 4,500×218H×57D 自立型、サーモバルブ、保護カバー共	25				ギャラリ		ギャラリーパーネルヒーター系統

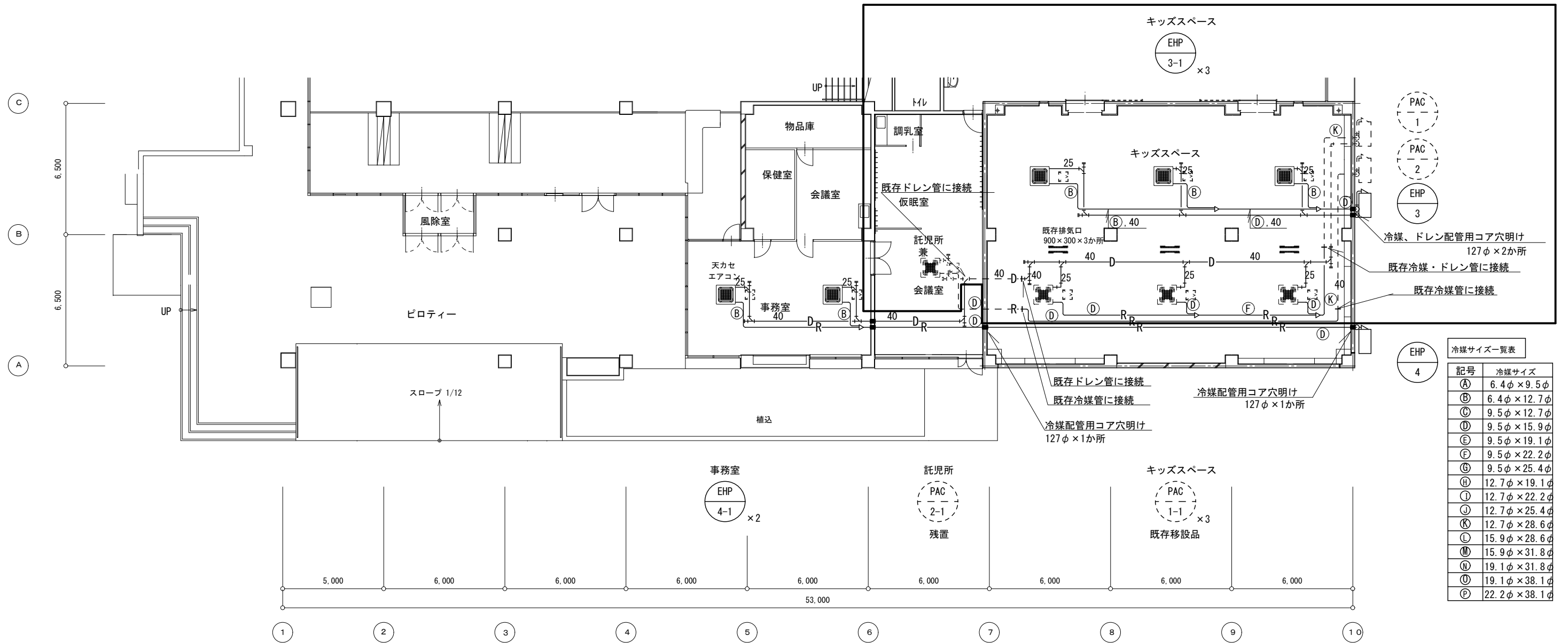
記号	名称	仕様	数量	動力			設置場所	基礎	備考
				相(φ)	電圧(V)	動力(kw)			
EHP-1	空冷ヒートポンプエアコン	マルチ型室外機、寒冷地用冷暖切換え型 定格冷房能力85.0KW 暖房能力95.0KW 防振架台、防雪フード、室外機鉄骨架台共	1	3	200	38.85	屋外1階	建築工事	PUHY-WP650SDMG5
EHP-1-1	空冷ヒートポンプエアコン	室内機、天井カセット4方向型 冷房能力11.2KW、暖房能力12.5KW 昇降パネル、多機能リモコン共	8	1	200	0.08	2階第二アリーナ		PUFY-P112EMG8
EHP-2	空冷ヒートポンプエアコン	マルチ型室外機、寒冷地用冷暖切換え型 定格冷房能力14.0KW 暖房能力16.0KW 防振架台、防雪フード、室外機鉄骨架台共	1	3	200	7.9	屋外1階	建築工事	(将来工事) PUSY-HP140MH3
EHP-2-1	空冷ヒートポンプエアコン	室内機、天井カセット4方向型 冷房能力7.1KW、暖房能力8.5KW 昇降パネル、多機能リモコン共	2	1	200	0.04	2階研修室		(将来工事) PLFY-P71EMG8
EHP-3	空冷ヒートポンプエアコン	マルチ型室外機、寒冷地用冷暖切換え型 定格冷房能力16.0KW 暖房能力18.0KW 防振架台、防雪フード、室外機鉄骨架台共	1	3	200	9.1	屋外1階	建築工事	PUSY-HP160MH3
EHP-3-1	空冷ヒートポンプエアコン	室内機、天井カセット4方向型 冷房能力5.6KW、暖房能力6.3KW 昇降パネル、多機能リモコン共	3	1	200	0.02	1階キッズスペース		PUSY-P56EMG8
EHP-4	空冷ヒートポンプエアコン	マルチ型室外機、寒冷地用冷暖切換え型 定格冷房能力11.2KW 暖房能力12.5KW 防振架台、防雪フード、室外機鉄骨架台共	1	3	200	6.86	屋外1階	建築工事	PUSY-HP112MH3
EHP-4-1	空冷ヒートポンプエアコン	室内機、天井カセット4方向型 冷房能力5.6KW、暖房能力6.3KW 昇降パネル、多機能リモコン共	2	1	200	0.02	1階事務所		PLSY-P56EMG8
SC-1	システムコントローラ	運転発停、温度管理、異常表示、キッズルームの空調換気扇の発停	1	1	100		1階事務所		PAC-SF50AT2
HEU-1	空調換気扇	天井埋込型空調換気扇 200φ×480m3/H×100Pa ジーニアスリモコン(電気工事に支給)、防振吊り金物共	2	1	100	0.32	1階キッズスペース		LGH-N50RXW
EF-1	排風機	ストレートシロッコファン 消音型耐湿タイプ 150φ×180m3/H×150Pa	2	1	100	0.057	男女シャワー室		BFS-40SYA2

代表となる設計者：太田 豊 一級建築士 216909号 (意匠)	創造設計・アトリエバンク 設計共同企業体	設計年月日		工事名称	縮尺
その他の設計者：菅沼 秀樹 一級建築士 294080号 (意匠)		2023.3.			
	代表者：(株)創造設計舎	査 閲	校 正	担 当	図面名称
	管理建築士：一級建築士登録第216909号 太田 豊				
					図面番号 M-103



改修後平面図 1 : 400

代表となる設計者: 太田 豊 一級建築士 216909号 (意匠) その他の設計者: 菅沼 秀樹 一級建築士 294080号 (意匠)	創造設計・アトリエバンク 設計共同企業体 代表者: (株)創造設計舎 管理建築士: 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日	2023. 3 .		工事名称	茅室町総合体育館改修工事	縮尺	A1:1/200 A3:1/400
		査 閲	校 正	担 当	図面名称	空調設備 1階平面図	図面番号	M-105



記号	冷媒サイズ
Ⓐ	6.4φ×9.5φ
Ⓑ	6.4φ×12.7φ
Ⓒ	9.5φ×12.7φ
Ⓓ	9.5φ×15.9φ
Ⓔ	9.5φ×19.1φ
Ⓕ	9.5φ×22.2φ
Ⓖ	9.5φ×25.4φ
Ⓗ	12.7φ×19.1φ
Ⓙ	12.7φ×22.2φ
Ⓚ	12.7φ×25.4φ
Ⓛ	12.7φ×28.6φ
Ⓜ	15.9φ×28.6φ
Ⓝ	15.9φ×31.8φ
Ⓟ	19.1φ×31.8φ
Ⓡ	19.1φ×38.1φ
Ⓢ	22.2φ×38.1φ

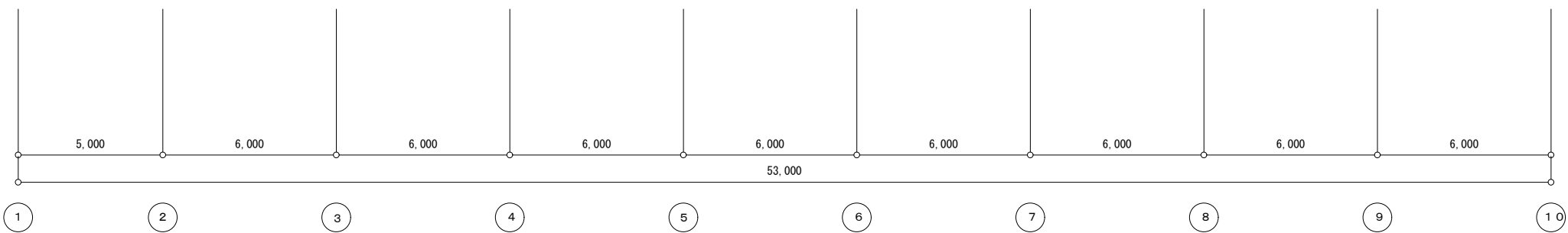
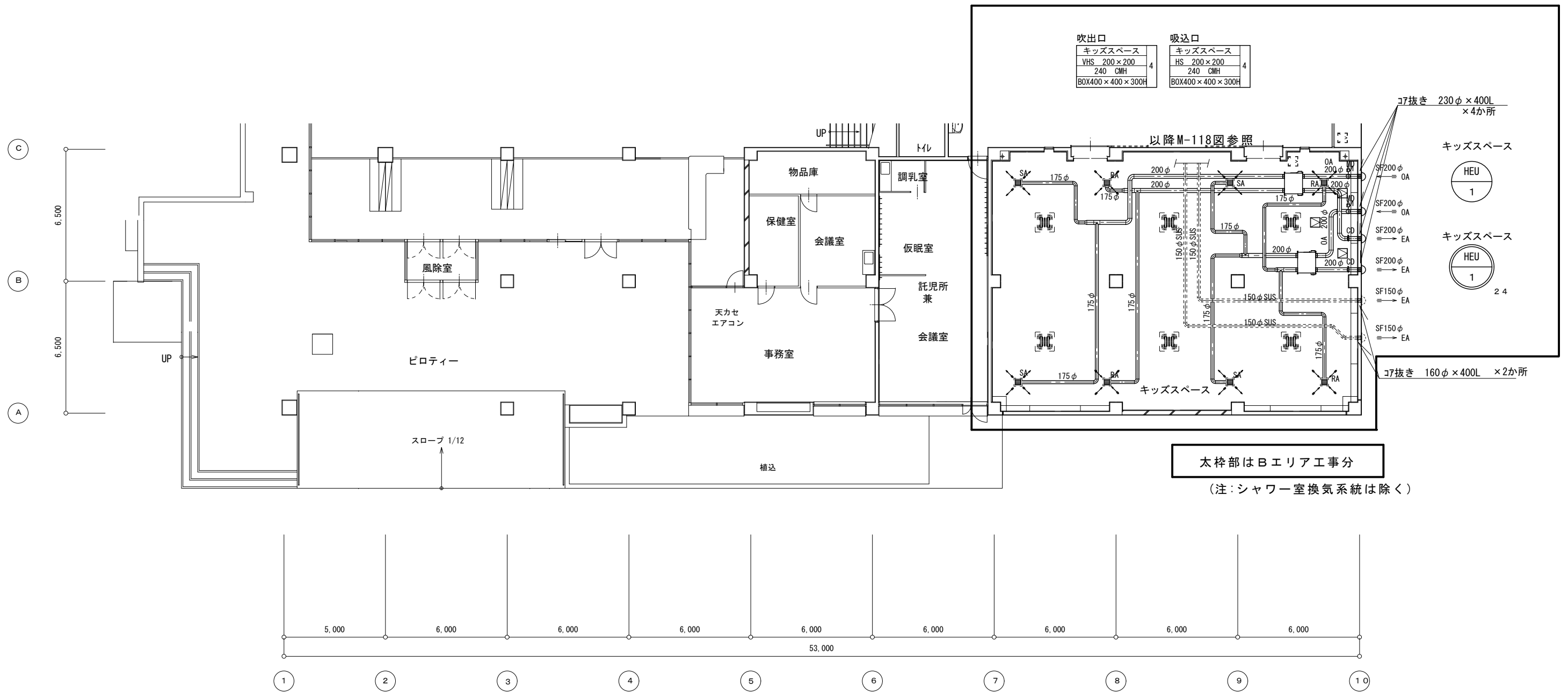
太枠部はBエリア工事分

特記事項②

- Ⓢ は、既存器具番号を示す。
- は、既存配管を示す。
- 配管用コア穴明け部分については、非破壊検査を行い監督員の許可を得る事。

特記事項①

- 室内機の設置位置、及びリモコンのグループ分け、取付位置は監督員と協議の上決定する。
- 屋外露出配管部分はRDカバー(高耐食製)を施す。
- 防火区画貫通部は、日本消防設備安全センター評定品 国土交通大臣認定工法による区画処理を行う。
- 集中リモコンは、1階事務所設置とする。
- 個別リモコンは、室内設置とする。
- 天井点検口450φ(建築工事)を示す
- 区画処理材 国土交通大臣認定 PS060FL-9369(床)
- 国土交通大臣認定 PS060WL-0534(壁) PS060WL-0467(壁・中空壁)

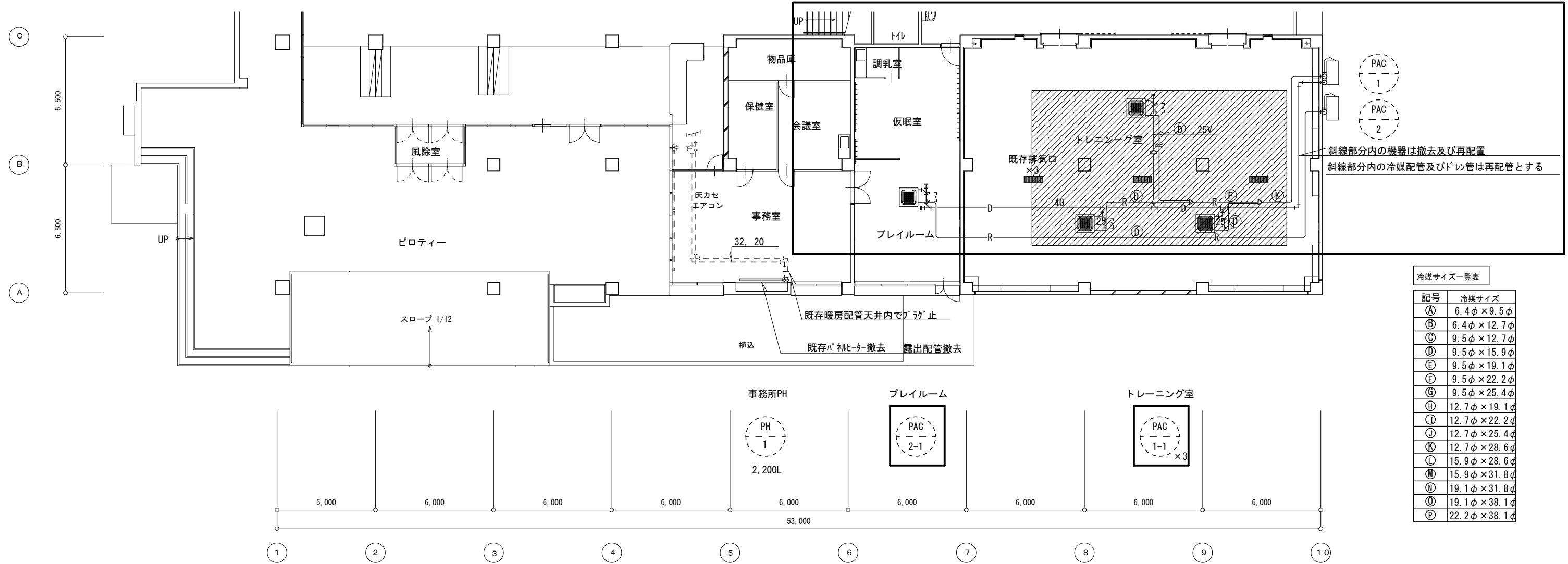


換気計算表														
室名	各室条件			シックハウス対策の換気計算 (V = 室容積 × 換気回数)				床面積による換気計算 (V=20×床面積/占有面積)		換気回数による換気計算 (V=室容積×換気回数)		必要換気量計 (m3/h)	設計換気量	
	床面積 m2	天井高さ m	室容積 m3	対象	換気回数 (回/h)	必要風量 (m3/h)	設計風量 (m3/h)	占有面積 (m2)	必要風量(A) (m3/h)	換気回数 (回/h)	必要風量(B) (m3/h)		給気 (m3/h)	排気 (m3/h)
【1階】														
キッズスペース	236.93	3.60	852.95	○	0.5	427	430	5	948			960	960	960
HEU-1 × 2												(480×2)		

- 共通事項**
- 1: 一般排気ダクトはスパイラルダクトとし外壁より2m部分はGW25t(防露施工)とする。
 - 2: 一般給気ダクトはスパイラルダクトとし全てGW25t(防露施工)とする。
 - 3: 全熱交換器のSAダクトは全てGW25t(防露施工)とする。
 24時間対応換気機器を示す。
 - 4: 天井点検口450×450(建築工事)を示す。
 - 5: ドアガラリ(建築工事)を示す。
 - 6: ・配管用コア穴明け部分については、非破壊検査を行い監督員の許可を得る事。

移設機器一覧表

記号	名称	仕様	台数	動力		設置場所	備考
				相(φ)	電圧(V)動力(kw)		
PAC-1	空冷ヒートポンプエアコン	室外機 冷房能力/暖房能力=22.4/24.0KW マルチ型、壁取付、防雪フード共	1	3	200 10.1	屋外室外機置場	既存再使用
PAC-1-1	空冷ヒートポンプエアコン	室内機 天井吊り4方向吹出し型 冷房能力/暖房能力=7.1/8.0KW	3	1	200 0.057	トレーニング室	移設再使用
PAC-2	空冷ヒートポンプエアコン	室外機 冷房能力/暖房能力=7.1/8.0KW	1	3	200 3.7	屋外室外機置場	既存再使用
PAC-2-1	空冷ヒートポンプエアコン	室内機 天井吊り4方向吹出し型	1	1	200 0.057	プレイルーム	既存再使用、配管ルート変更
PH-1	パナソニック	温水パナソニック GF37/30 L=2,200	1			事務所	既存撤去



PAC 1
PAC 2

斜線部分内の機器は撤去及び再配置
斜線部分内の冷媒配管及びドレン管は再配管とする

冷媒サイズ一覧表

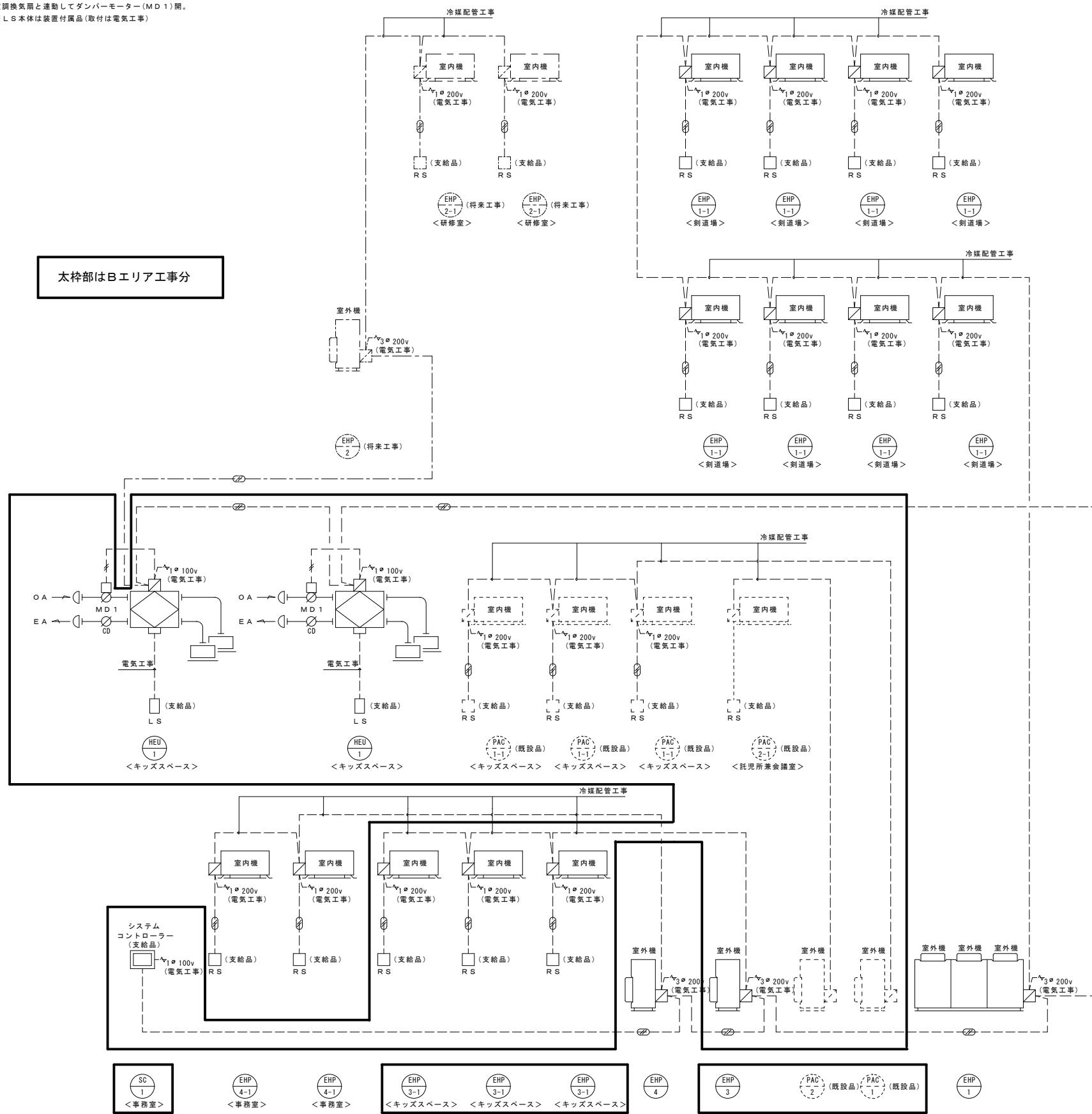
記号	冷媒サイズ
Ⓐ	6.4φ×9.5φ
Ⓑ	6.4φ×12.7φ
Ⓒ	9.5φ×12.7φ
Ⓓ	9.5φ×15.9φ
Ⓔ	9.5φ×19.1φ
Ⓕ	9.5φ×22.2φ
Ⓖ	9.5φ×25.4φ
Ⓗ	12.7φ×19.1φ
Ⓙ	12.7φ×22.2φ
Ⓚ	12.7φ×25.4φ
Ⓛ	12.7φ×28.6φ
Ⓜ	15.9φ×28.6φ
Ⓝ	15.9φ×31.8φ
Ⓟ	19.1φ×31.8φ
Ⓡ	19.1φ×38.1φ
Ⓢ	22.2φ×38.1φ

太枠部はBエリア工事分

エアコン・空調換気扇廻り工事 1 set

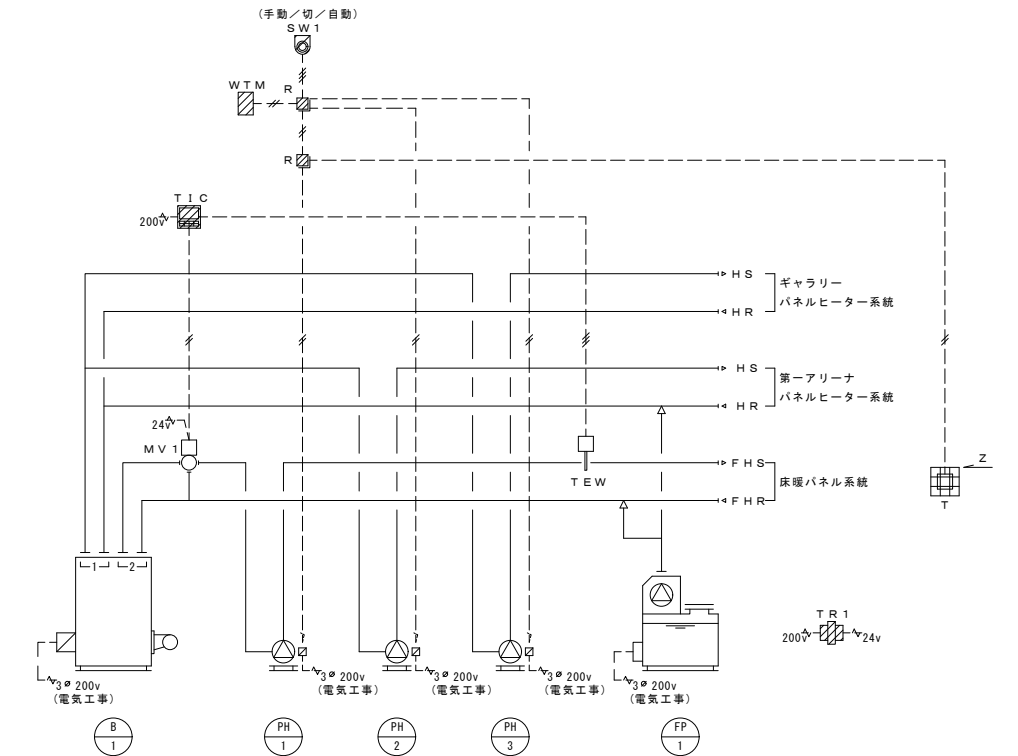
- <制御項目>
 ・システムコントローラー(S C)の配線工事。
 ・リモコンスイッチ(R S)の配線工事。
 室内機と室外機の廻り配線工事。(冷媒配管工事)
 ※ S C、R S 本体は装置付属品
 ・運転スイッチ(L S)の配線工事。(電気工事)
 空調換気扇と連動してダンパーモーター(M D 1)開。
 ※ L S 本体は装置付属品(取付は電気工事)

太枠部はBエリア工事分



熱源制御 1 set

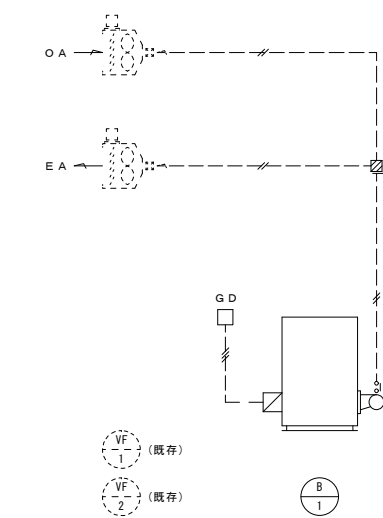
- <制御項目>
 ・週間タイマー(W T M)で温水ポンプ発停制御。(S W 1で手動操作可)
 室内温度(T)で床暖パネル系統ポンプのハイカット制御。
 送水温度(T E W)で三方弁(M V 1)比例制御。



設備機械室換気制御 1 set

- <制御項目>
 ・温水ボイラーのバーナー運転信号で、換気ファン運転による燃焼空気取り入れ制御。
 感震装置(G D)が地震感知時、温水ボイラー強制停止。

- 注記
- 斜線: 制御室内機器を示す。
 - ~v: 電源供給を示す。
 - : 既設部分を示す。
 - - -: 将来工事を示す。



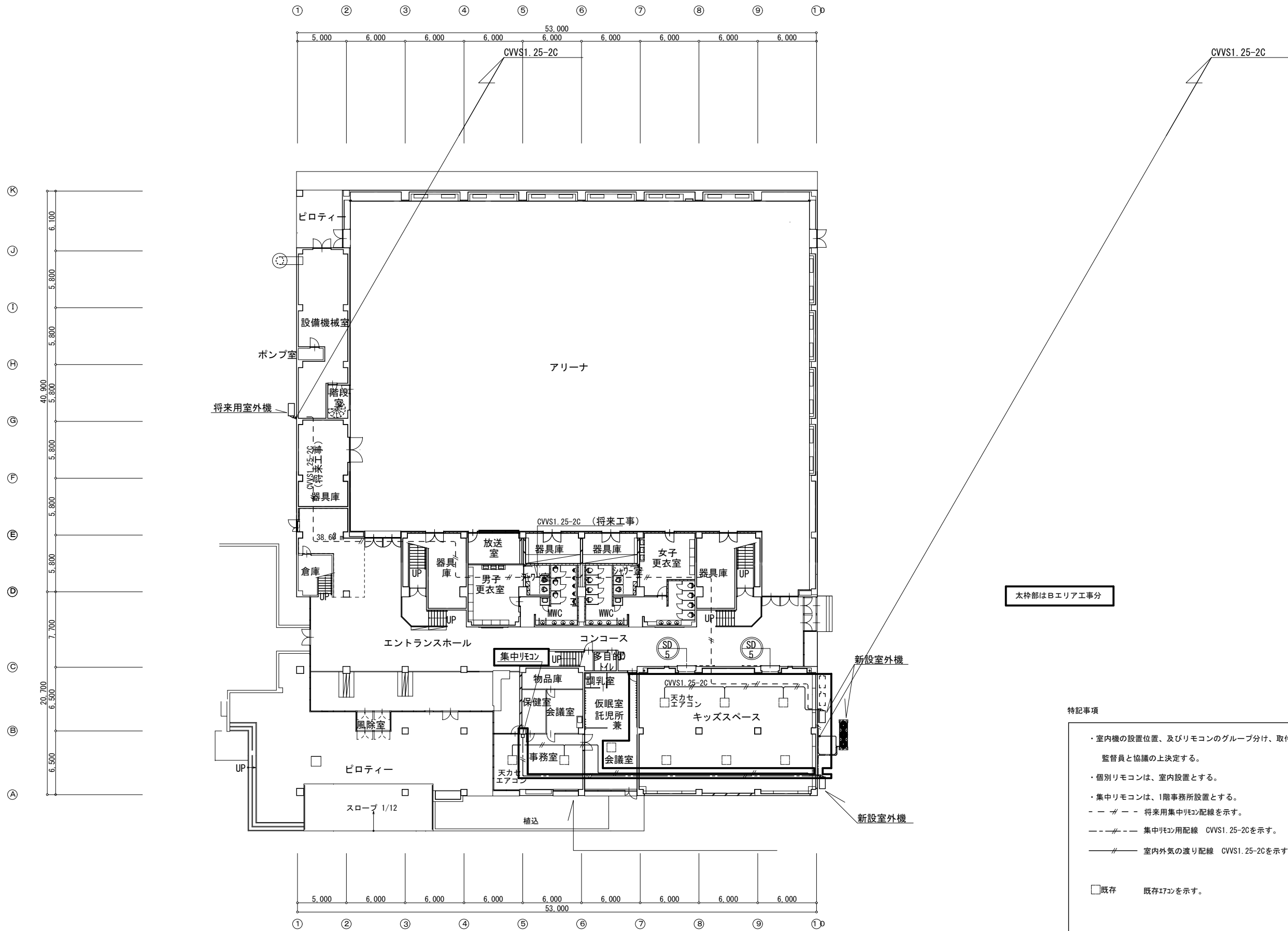
代表となる設計者: 太田 豊 一級建築士 216909号 (意匠)
 その他の設計者: 菅沼 秀樹 一級建築士 294080号 (意匠)

創造設計・アトリエバンク 設計共同企業体
 代表者: (株) 創造設計舎
 管理建築士: 一級建築士登録第216909号
 太田 豊

設計年月日
 2023. 3.
 査閲 校正 担当

工事名称
 茅室町総合体育館改修工事
 図面名称
 自動制御系統図

縮尺
 NO SCALE
 図面
 番号 M-120



本枠部はBエリア工事分

特記事項

- ・室内機の設置位置、及びリモコンのグループ分け、取付位置は監督員と協議の上決定する。
- ・個別リモコンは、室内設置とする。
- ・集中リモコンは、1階事務所設置とする。
- - - - 将来用集中リモコン配線を示す。
- - / - - 集中リモコン用配線 CVVS1.25-2Cを示す。
- /// 室内外気の渡り配線 CVVS1.25-2Cを示す。

□ 既存 既存リモコンを示す。

改修後平面図 1 : 400

代表となる設計者：太田 豊 一級建築士 その他の設計者：菅沼 秀樹 一級建築士	216909号 (意匠) 創造設計・アドリエブンク 設計共同企業体 294080号 (意匠) 代表者：(株)創造設計舎 管理建築士：級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日	2023. 3 .	工事名称	芽室町総合体育館改修工事	縮尺	A1:1/100 A3:1/200
		査 閲	校 正	担 当	図面名称	自動制御設備設備 1階平面図	図面番号